

將校團教育實施令

- 第一條 將校團教育令ノ科目ニ基キ實施スヘキ順次概キ左ノ如シ
- 第二條 術科學科ハ共ニ將校ノ智識材能ヲ進メ各自責任ヲ盡スニ缺ク可ラザル能力ヲ得セシムルモノニシテ其隊附勤務中野外演習及冬季作業以下ノ諸課ハ將校平素學修ノ結果ヲ表シ其成績ヲ上官ノ閱視ニ供スルモノトス
- 野外演習
 - 第三條 聯隊長ハ大尉ニ大隊長ハ中少尉ニ毎年九月下旬迄ノ間ニ就キ教育順次教育令ニ指示セシ野外演習ノ時期ニ於テ一ノ任務ヲ與ヘ獨立指揮ノ演習ヲ行ハシム
 - 第四條 獨立大隊長ハ大尉及中少尉ニ前條ノ演習ヲ行ハシム
 - 第五條 兵種ニ依リ獨立シテ對抗ノ野外演習ヲ行フ能ハサルモノハ第三及第四條ニ準シ聯隊長及大隊長ハ其兵科専門ノ勤務ニ就キ一ノ獨立任務ヲ與ヘ之ヲ實施セシム
 - 第六條 第三第四及第五條ノ演習ヲ行ヒタル大尉及中少尉ハ演習後四十八時間内ニ營團ヲ附シタル實施報告(第一書式)ヲ將校團長(步兵砲兵ハ大隊長ヲ經テ)ニ呈シ將校團長ハ其内優等ナルモノヲ師團長(步兵ハ旅團長ヲ經テ)ニ呈ス但實施報告ノ經由スル各官ハ各報告ノ全體若クハ其一部ニ就キ批評ヲ添加スルモノトス
 - 第七條 各將校團長ハ此演習終ル毎ニ野外演習實施表(第二書式)ヲ作り師團長ニ呈ス又々騎兵砲兵工兵輜重兵科ニ在テハ同時ニ其兵監ニ呈ス
 - 冬季作業
 - 第八條 各將校團ノ大中少尉ハ毎年冬季ニ於テ一ノ問題ニ付キ答案ヲ草ス其問題ハ即チ一年ハ勤務上其次年ハ戰術上ノ範圍ニ於ケル如ク交互ニ變換スルヲ要ス

- 第九條 問題ハ大尉ノ爲メニ一題中尉ノ爲メニ一題少尉ノ爲メニ一題各將校團ノ長之ヲ選擇シ毎年十二月一日之ヲ各將校ニ附與ス而シテ此作業ハ三月一日迄ニ竣ルモノトス
- 第十條 各自ノ作業ハ決シテ他人ノ助力ヲ受ク可ラス又筆記ハ明瞭ナルヲ要ス(第三書式)
- 第十一條 引用書目ハ之ヲ明白ニ記載シ又々引用書中ヨリ拔萃セシ文章ハ圈點ヲ附シテ自作ノ文章ト區別スヘシ
- 第十二條 作業竣成ノ上ハ之ヲ上官ニ呈スルコト第六條ニ同シ但シ批評スルニ最モ注意スヘキハ其非ノ洞見熟慮ト獨立ノ判斷ト實顯ハシメノ明瞭ナルトニアリ
- 第十三條 各將校團ノ長ハ毎年五月冬季作業實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第四書式)
- 講話
 - 第十四條 各將校團ニ於テ時期ニ拘ハラズ少佐大尉若クハ古參中尉ニシテ戰史或ハ各自研究シタル事項或ハ諸學校分遣中ノ經驗或ハ特ニ派遣セラレタル旅行ノ報告或ハ特ニ命セラレタル任務ノ結果等ヲ講話スルモノトス
 - 第十五條 講話ノ問題ハ將校團長之ヲ命スルカ若クハ團長ニ咨稟シテ許可ヲ受ク而シテ講話案ヲ草スルモノトス(第五書式)
 - 第十六條 講話ノ時日ハ數週日前ニ之ヲ定メ將校團長之ヲ團中ニ報道スルモノトス
 - 第十七條 將校團長ハ毎年五月講話ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第六書式)
 - 兵棋
 - 第十八條 兵棋ハ各將校團ニ於テ常ニ行フヘキモノニシテ將校團長ハ毎年五月兵棋ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第七書式)
 - 地形測量

第十九條 各將校團ノ大中小尉ハ故障ナキ時期ニ於テ各衛戍地近傍ノ地形測量ヲ爲ス其場所及ヒ區域ハ將校團長之ヲ定ムルモノトス

第二十條 陸軍ノ上之ヲ上官ニ呈スルコト第六條ニ同シ(第八書式)

第二十一條 各將校團長ハ毎年五月地形測量ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第九書式)

現地上ノ講話

第二十二條 將校團長ハ勤務ニ故障ナキ諸將校ヲ交互ニ現地上ニ誘引シ自カラ統裁スルモノトス

第二十三條 各將校團長ハ毎年五月現地上講話ノ實施ヲ報告スルコト第七條ニ同シ(第十書式)

第二十四條 本令實施上ノ費用ハ別ニ之ヲ支給セサルモノトス

(附式略)

○海軍省令第五十號

本年四月連第八十六號海軍下士卒進級條例第十五條第二項ニ左ノ但書ヲ加ヘ第十九條第二項軍樂員ノ上ニ「軍樂練習所」ノ五字ヲ加フ

明治二十二年五月十八日

但軍樂練習所軍樂員ノ候補名簿ハ鎮守府司令長官ニ送付セシム大學校長ハ第十六條ノ例ニ準シ准士官豫定候補名簿下士決定候補名簿ヲ作ルヘシ

○海軍省令第五十一號

明治十八年十一月第六十六號海軍喇叭譜自次同喇叭譜區分表中諸名號ノ部號外陸軍乘馬學校要靈砲兵幹部練習所東京砲兵工廠生徒學舍譜別紙ノ通過加ス

(別紙略)

明治二十二年五月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍第八十八號

本年陸軍第七十五號陸軍給與規則第二章中改正ノ條ハ本年四月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年五月二十一日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第八十九號

陸軍給與規則第四章中左ノ通改正加除ス

但明治二十二年四月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年五月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第四章 馬飼料又裝蹄別毛ノ下ニ「馬糞」ノ二字ヲ加フ

第一條 但書中「赴任或ハ」ノ四字ヲ削ル

第二條 左ノ如ク改ム

馬飼料ハ現ニ奉入レ當日ヨリ手放シ前日迄給シ端日數ハ日割ヲ以テ之ヲ給ス其金額ハ一頭ニ付一日金三拾九錢五厘副馬ハ一頭ニ付一日金拾九錢七厘トス但馬飼料支給ノ定目前轉任轉職

ニ方リ甲馬ヨリ乙馬ニ轉換スルトキ其馬飼料支給方ハ第二章第十六條及第十七條ノ本文ニ準

シ又乘馬本分ヲ離レタル者ハ辭令拜受ノ當日迄日割ヲ以テ支給スヘシ

第六條ノ次ヘ左ノ如ク追加ス

第七條 騎兵砲兵輜重兵隊馬ノ馬糞料ハ定數馬匹ノ十分一ニ應シ第十表乙ノ金額ヲ給シ其殘餘

ハ該隊ニ積置キ後次該費ノ不足ヲ補填スルコトヲ得

第八條 憲兵隊諸學校教導團軍馬育成所馬匹ノ馬糞費ハ現馬匹ノ十分一ニ應シ第十表ノ金額

内ヲ以テ實費支拂フヘシ

馬糞定額表ノ第十表ヲ「第十表甲」ト改ム

乙表十第

馬藥料及馬療費金額表

名	額		分
	一馬月額	區	
馬藥料	三拾錢	東京也在騎兵砲兵糧庫兵隊	分
	五拾錢	各地也在騎兵砲兵糧庫兵隊	
馬療費	三拾錢	在東京憲兵隊醫學校	分
	五拾錢	各地也在憲兵隊砲兵射的學校醫務園	
查	四	各軍馬育成所	

○陸軍第九十號

明治十八年達乙第百五十四號陸海軍喇叭譜、同喇叭譜目次、同喇叭譜所用區分表中別紙ノ通追加ス
(別紙略ス)

明治二十二年五月二十三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十一號

陸軍衛生部看護手ノ身分ハ上等兵ト同一トス

明治二十二年五月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第九十二號

私設鐵道條例第二十一條ニ依リ陸軍軍人軍屬乘車並ニ物品搭載ノ備別冊乘車手續書ノ通相定ム
但明治十六年達乙第百十四號達日本鐵道會社乘車手續書ハ廢止ス

明治二十二年五月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

私設鐵道乘車手續書

第一條 私設鐵道條例第二十一條ニ依リ陸軍軍人軍屬私設鐵道會社ノ汽車ニテ往復スル者及物品ヲ輸送スルトキハ條末ニ掲ケル線式ノ證券ヲ附與スヘシ

第二條 此證券ハ陸軍省會計局ニ於テ調製シ近衛各師團監督部及東京官廳軍吏ノ許ニ各若干ヲ送付シ近衛各師團監督部ニ於テハ管下各隊並官廳軍吏ノ許ニ在テハ其長官若クハ副官ノ許ニ各若干ヲ配付シ置クヘシ

第三條 軍人軍屬ハ附與スル所ノ乘車證券軍人ハ上長官以上上等室准士官以上中等室下士以下下等室軍屬ハ委任官三等以上上等室同四等以下判任官四等以上中等室同五等以下下等室ヲ以テ定規トス然レトモ時宜ニ依リ本人ノ望ニ任セ等級ヲ變更スルモ妨ケナシ

但本文ノ如ク上中下ノ等級ヲ定ムト雖トモ各室ノ設ケナキ列車ニ在テハ證券面ノ上等ヲ中等ニ中等ヲ下等室ニ充ツルハ時宜ニ依ル

第四條 乘車證券ヲ附與スヘキ者一時數名旅行スルトキハ上中下等ノ各室ニ乘ルヘキ人員ノ證券ヲ其上級ノ者一名ニ附與スヘシ但此場合ニ於テハ其理由ヲ記載セル書面ヲ添付スヘシ

第五條 乘車證券ヲ受領セントスル者ハ各監督部各官廳各隊ニ就キ請求スヘシ各監督部各官廳各隊ニ在テハ監督部長(各隊長ノ内)(軍吏)監督及軍吏不在ノ地ニ股長ノ官 證券ニ客室ノ等級所管官姓名等ヲ朱書ノ如ク記入シ署名捺印及捺印ヲ爲シ本人ニ附與スヘシ但乘車證券ハ一名一葉宛ヲ交付シ又往復スル者或ハ巡回各地ニ亘リ汽車ノ乗替ヲ要スル者ノ如キハ其度數ヲ量リ豫メ證券數葉ヲ附與シ置キ殘餘ヲ生スルトキハ道ヲ還付セルムヘシ

第六條 水火盜難等ノ爲メ證券ヲ失ロタルカ或ハ臨時證券ヲ要スルトキハ其近傍陸軍ノ官衙又ハ軍隊ニ就キ請求スルコトヲ得ヘシ

所	
千代田	兵學校附屬航海練習艦
天龍	同
鳳翔	航海練習艦
館山	同
石川	同

佐世保鎮守府	
高千穂	常備小艦隊
葛城	同
海門	同
島海	同
鷗島	同
松島	同
千島	同
大島	同
秋津	同
春日	同
日進	同
緒珠	同

○海軍省通第百五十五號

下士卒ヲ除ク工夫ノ本籍ハ本年六月五日ヲ以テ左ノ諸項ニ依リ定ムヘシ

明治二十二年五月二十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

- 一 乘艦者ノ本籍ハ其艦ヲ管轄スル鎮守府ノ海兵團
- 一 横須賀鎮守府司令長官ヲシテ吳佐世保兩鎮守府海兵團ノ定員及補充員ト假定セシメタル者ノ本籍ハ各其海兵團
- 一 東京各屬勤務者ノ本籍ハ横須賀鎮守府ノ海兵團但軍樂員ハ軍樂練習所
- 一 鎮守府各屬勤務者ノ本籍ハ其鎮守府ノ海兵團
- 一 海軍兵學校及小野濱造船所勤務者ノ本籍ハ吳鎮守府海軍團

○海軍省通第百五十六號

免官免役スヘキ下士卒ハ其服役滿期前ニ本籍ノ海兵團ニ入營セシメ鎮守府司令長官之ヲ免シ軍樂員ハ軍樂練習所ニ入ラシメ海軍大學校長之ヲ免スヘシ

明治二十二年五月二十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省通第百五十七號

本年ニ達第二十五號海上氣象報告表表式別冊ノ通改正ス但別冊ハ第二局ヨリ鎮守府艦隊海軍兵學校ニ回付セシム(別冊略ス)

明治二十二年五月二十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸通第九十三號

工兵射擊演習教令中左ノ通追加ス

明治二十二年五月二十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

司令長官 中將									
軍港司令官		副司令官		軍令官		下部官		主	
少將	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記
技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師
材料部長	出納部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長
大主計	大主計	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記
技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師
材料部長	出納部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長
大主計	大主計	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記
技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師

司令長官 中將									
軍港司令官		副司令官		軍令官		下部官		主	
少將	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記
技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師
材料部長	出納部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長
大主計	大主計	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記
技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師
材料部長	出納部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長	部長
大主計	大主計	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉	大尉
一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記	一等筆記	二等筆記
技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師	技師

○海軍省第六十一號
 佐世保鎮守府定員別表ノ通定
 明治二十二年五月二十九日
 (別表)

海軍大臣 伯耆西郷從道

唐津石炭用所用使給仕定員表

職名	定員	使給	仕
員	二		一

○海軍省第百六十六號

本年四月第一號海軍造兵廠定員表中檢査科判任官ノ部ヲ左ノ通改定ス

明治二十二年五月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

上等兵曹 二
技手 五
屬 二

○海軍省第百六十七號
兵器補充規則左ノ通定ス

明治二十二年六月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

兵器補充規則

- 第一條 兵器ノ補充ハ其本管鎮守府兵器部貯藏ノ者ヲ以テス
- 第二條 艦船他鎮守府管内ニ在テ兵器ノ補充ヲ要スルトキハ其兵器部貯藏ノ者ヲ以テスルコトヲ得又品海軍中ハ造兵廠或ハ火藥工廠ヨリ補充スルコトヲ得
- 第三條 他管鎮守府兵器部造兵廠或ハ火藥工廠ヨリ補充シタルトキハ本管鎮守府兵器部ヘ其品目數量ヲ報告スヘシ
- 第四條 消耗兵器ハ甲艦ノモノヲ以テ乙艦ノ缺ヲ補充スルコトヲ得此場合ニ於テハ各其本管鎮守府兵器部ニ報告スヘシ
- 第五條 兵器ノ補充ヲ要スルトキハ艦船團隊長等之ヲ兵器部長或ハ廠長ニ請求スヘシ
- 第六條 兵學校ノ兵器ハ其鎮守府兵器部ヨリ補充シ東京所在官廠ノ兵器ハ造兵廠火藥工廠ヨリ補充ス
- 第七條 火藥工廠ニ於テ裝藥補充ノ請求ヲ受ケタルトキハ其裝藥等ヲ造兵廠ヨリ請取リ裝填ノ上交附シ造兵廠ニ於テ榴彈補充ノ請求ヲ受ケタルトキハ炸藥ヲ火藥工廠ヨリ請取リ裝填ノ上交附スヘシ
- 第八條 補充兵器ノ運搬ハ之ヲ交附スル鎮守府兵器部造兵廠或ハ火藥工廠ニ於テ負擔スヘシ

○海軍省達第百六十八號
海軍機關學校ノ會計經理ハ總テ艦團同様ト定ム

明治二十二年六月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百六十九號

海軍下士卒再服役許可手續第一條ニ依リ再服役ヲ許可シタル者前役滿期ノトキ艦團長其他下士卒ヲ直轄スル長官ハ軍醫長又ハ軍醫ヲシテ身體検査ヲ行ハシメ現役ニ堪ヘ難キ者アルトキハ海軍下士卒再服役條例第六條ニ依リ其者ノ再服役ヲ停止シ豫備役ニ入ラシムヘシ但現役十箇年ヲ過キタル者ハ服役ヲ免スヘシ

明治二十二年六月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百七十號

亂職砲術練習艦附屬タル間左ノ人員ヲ常置ス

明治二十二年六月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

- 大尉 分隊長 一人
- 上等兵曹 掌砲長 一人
- 一等兵曹 掌砲長 一人
- 一等兵曹 掌帆長 一人
- 二等船匠手 一人
- 二等主廚 一人

- 一等水兵 二人
- 二等水兵 四人
- 三等水兵 六人
- 四等水兵 一人
- 一等廚夫 一人
- 二等廚夫 一人

○陸軍第九十五號

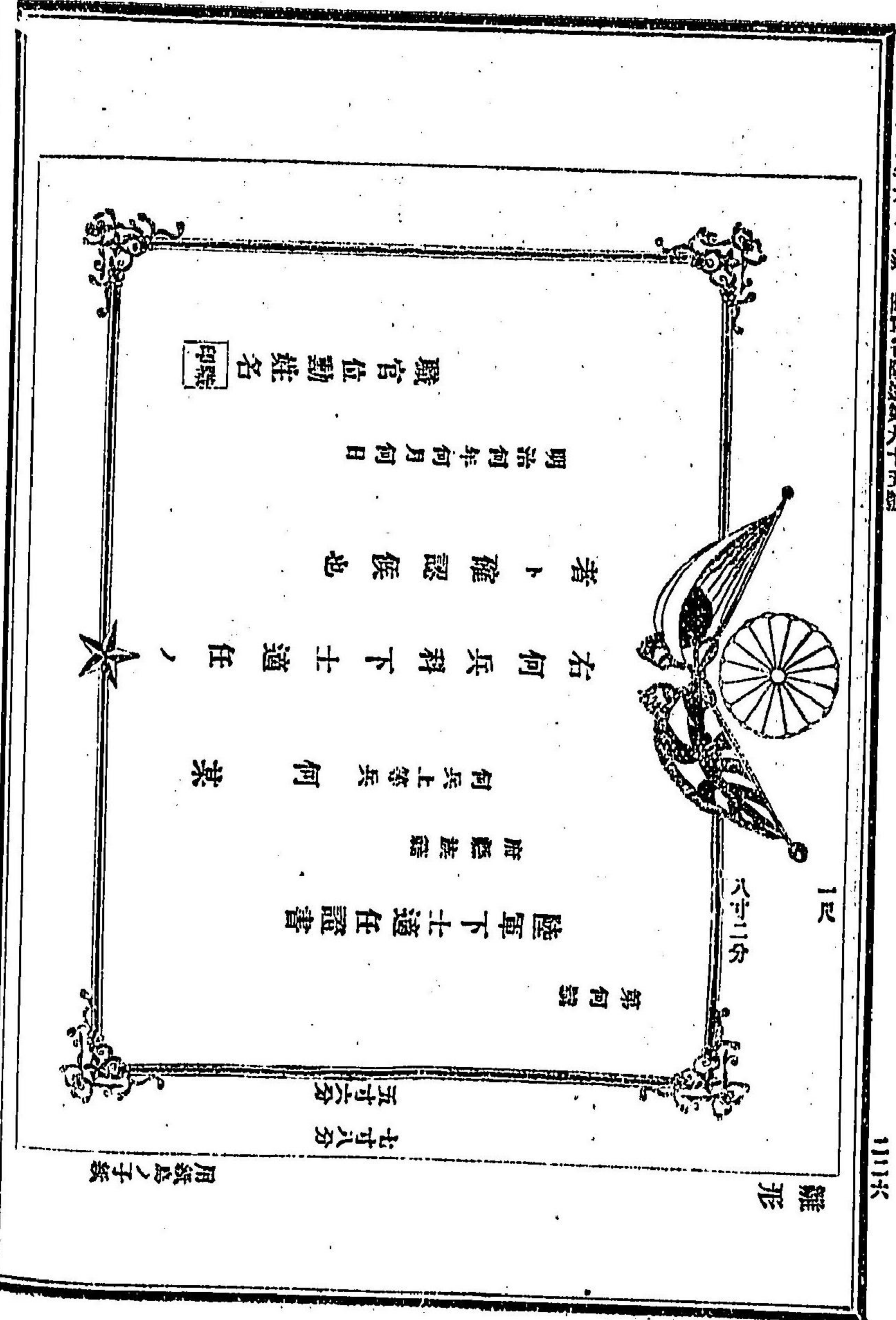
陸軍下士適任證書附與規則左ノ通定ム

明治二十二年六月三日

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍下士適任證書附與規則

- 第一條 下士適任證書ハ各兵上等兵中下士タルノ技能ヲ備フル者ニ附與ス
- 第二條 下士適任證書ハ現役若クハ再服役滿期又ハ歸休ヲ命スルトキ附與スルモノトス
- 第三條 下士適任證書ハ附錄雜形ニ準シ聯隊ニ於テ調製シ聯隊ニ在テハ聯隊長ノ認可ヲ得テ大隊長獨立大隊ニ在テハ大隊長之ヲ附與ス可シ
- 第四條 下士適任證書ヲ附與シタル者禁錮以上ノ刑ニ處セラレ若クハ賭博犯ニ山リ懲罰ニ處セラレタルトキハ大隊區司令官該證書ヲ沒收ス可シ



○陸軍省令第九十六號
陸軍軍吏學舍條例中左ノ通追加改正ス

明治二十二年六月三日

陸軍大臣伯耆大山 機

第二條ニ左ノ一項ヲ加フ

歩騎砲工輜重兵隊附曹長ノ二箇年以上現官ニ在ル者ニシテ軍吏學舍入學ヲ志願スルモノアルト
キハ其志願者ノ内ヨリ將來軍吏ノ職務ニ適當スルト確認スル者ヲ撰拔シ検査ヲ爲シ其合格者ヨ
リ入學定員四分ノ一ニ當ル人員ヲ學生トシテ採用スルコトヲ得

第三條ニ左ノ一項ヲ加フ

曹長入學中ハ宅料及食料ヲ給シ通學セシム

第十條中「銀臺」ヲ「師團」ニ改メ左ノ但書ヲ追加ス

但志願者タル曹長ノ召集ハ會計局長近衛師團ニ通牒シ近衛師團ニ於テ其志願者ヲ撰定ノ上各監
督部ヘ通報ス

第十一條改正

學生召集ノ告達アレハ會計局次長及近衛師團監督部長ハ検査委員ヲ設ケ管下一等書記及志願者
タル曹長中ニテ第二條ニ適當ナル者ヲ撰ミ検査ヲ行ヒ合格ノ者ハ其名簿ヲ製シ之ニ各自ノ考科
表並ニ検査書類ヲ添ヘテ直ニ軍吏學舍ニ致スヘシ

○海軍省令第七十一號

横須賀鎮守府呉鎮守府佐世保鎮守府監護用使給仕施丁定員及配置別表ノ通定ム

明治二十二年六月三日

海軍大臣伯耆西郷從道

職名	監	職	用	使	給	仕
生徒隊副官	教育ヲ以テ兼補ス	大尉	一			二等尉副夫
生徒分隊長	教育ヲ以テ兼補ス	大尉	二			一等尉夫
軍醫長	軍醫少監	大軍醫	一			二等尉夫
軍醫	少軍醫	大軍醫	一			三等尉夫
主計長	主計少監	大主計	一			主計
主計	大主計	大主計	一			主計
合計	二百二十四人	内兼務十二人附屬航海練習員(兼主計下士等)百二十四人				

海軍兵學校監護用使給仕定員表

最上限定員	八	二〇	八
-------	---	----	---

○海軍省違第七十三號

本年三月達第六十一號海軍省處務細則第一條第十五項ノ次へ左ノ二項ヲ加へ第十六項ヲ第十七項トス

第十六項 海軍將官會議事務取扱ノ事
同則第三條第三項掌理事務中ニ左ノ一項ヲ加フ

第九項 病院監獄ニ關スル事務

同則第十七條ニ第十七條乙ヲ加へ第二十一條ヲ改正スルコト左ノ如シ

第十七條乙 各局ニ於テ受領セル公文中海軍部内ノ上申伺ニシテ詮議ニ及ビ難キモノアルトキ局長ハ大臣次官ノ旨ヲ承ケ簡單ノ理由ヲ手簡ニ認メ木書ニ添へ返却ス可シ各局ノ主務ニ關セサルモノハ主事之ヲ行フヘシ

第二十一條 各局共主務事項ニツキ大臣次官ノ決議ヲ受クルニハ主務課長ニ於テ決裁通知票ニ件名番號(件名ノミ)ヲ記載シ文書ニ添付シテ主事ニ送付シ決裁濟ノトキハ主事該票ニ決裁濟及其月日ヲ記入シ捺印シテ主務課長ニ送付スヘシ主務課長該票ヲ受領シタルトキ共一半ハ切斷捺印シテ主事ニ返付シ該票ハ一覽ノ後專屬員ニ送付シテ局長ノ閱覽ニ供スヘシ但官報ニテ公布スルモノ又ハ摺物ニテ一般ニ達スルモノハ決裁通知票ヲ付スルヲ要セズ

明治二十二年六月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第七十四號

本年四月達第九十三號下士卒定員補充規則第五條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十二年六月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

定員中缺クヘカラサル者ハ定員ニ充テタル日ヨリ一箇年以内ハ乘繼ヲ延スコトヲ得

○海軍省違第七十五號

本年四月達第九十七號海軍病院條例第八條第九條及第十三條ヲ改正スルコト左ノ如シ

明治二十二年六月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

第八條 海軍病院ノ會計及庶務ハ鎮守府主計部病院課長之ヲ掌理ス

第九條 鎮守府主計部病院課長ハ海軍病院ノ會計庶務ヲ掌理スト雖モ定規アル日常ノ事件ハ術

生會議議長ノ告知ニ依リ處分スヘシ

第十三條 主厨厨夫ハ病院課長ノ命ヲ受ケ應厨ノ事ニ服ス

○海軍省達第百七十六號

本年五月達第百六十二號海軍機關學校定員中卒ノ部者病夫ノ次ヘ左ノ通增加ス

明治二十二年六月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

一等厨夫

二等厨夫

三等厨夫

四等厨夫

五等厨夫

一 二 二 一

○海軍省達第百七十七號

當分ノ内金剛比級ニ左ノ人員ヲ增加ス

明治二十二年六月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

一等火夫

二等厨夫

一等厨夫

二等厨夫

一等厨夫

二等厨夫

一等厨夫

二等厨夫

○海軍省達第百七十九號

備定員中分隊長二人ハ専ラ測量ニ從事シ上等技工ハ測量
老ヲ補助スルモノトス

明治二十二年六月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百七十八號

警城測量艦タル間其定員表中ニ大尉分隊長二人上等技工二人ヲ增加シ左ノ備考ヲ加フ

明治十七年三月丙第五十二號監護艦品取扱規則第一條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十二年六月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

五月ヨリ八月迄ノ間ニ採用スル者ニハ冬服一著セルヲ繰上支給スルコトヲ得

○海軍省達第百八十號

明治二十二年六月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百八十一號

第十三項 東京軍法會議上席主理其次席主理以下ヲ旅行セシムルニハ所管長官ノ例ニ依ルヘシ

軍法會議ニ於テ證人鑑定人通事トシテ呼出シタル者ニ給スル旅費ハ普通刑法附則第四十九條同第

五十條ニ依ル儀ト心得ヘシ

明治二十二年六月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百八十二號

各艦長各艦長ヨリ各鎮守府司令長官ニ送致スル文書及各鎮守府司令長官所轄各艦ヨリ其司令長官

ニ進達スル文書ノ軍紀風紀教育訓練ニ關スルモノハ軍港司令官ヲ經由シ造船部兵器部主計部建築

部ノ主務ニ關スルモノハ各部ヲ經由シ醫務衛生ニ關スルモノハ衛生會議ヲ經由シ徵兵募兵ニ關ス

ルモノハ海兵團ヲ經由シ送致シ又ハ差出スヘシ

明治二十二年六月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百八十三號

本年三月達第百六十一號海軍省處務細則第三條第二項業務第十項中「及下士卒ノ名簿」ノ七字ヲ刪

除ス

明治二十二年六月五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第百八十四號

明治十九年五月要第三三三號訓令會計主務官中ニ領守府主計部出納課長ヲ加フ

明治二十二年六月五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第百八十五號

海軍志願兵身體檢查格例左ノ通定

明治二十二年六月七日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍志願兵身體檢查格例

- 第一條 海軍志願兵身體檢查ニ於テハ身體強健精神異狀ナク全身ノ發育對稱完全ニシテ海軍兵役ニ適スル者ヲ甲種合格者トシ多少其對稱ヲ失スルモ海軍兵役ニ適スル者ヲ乙種合格者トス
- 第二條 海軍兵役ニ適セサル疾病畸形等ハ大約左ノ如シ
 - 一、水兵水雷夫火夫看護夫志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺三寸體重十四貫目胸圍二尺六寸五分胸廓擴張二寸活量百五十立方寸方英寸ニ達セサル者
 - 二、工夫木工鍛冶厨夫志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺二寸體重十四貫目胸圍二尺六寸活量百五十立方寸方英寸ニ達セサル者
 - 三、軍樂生志願ノ者ニ在ツテハ身幹五尺體重十二貫目胸圍二尺五寸胸廓擴張一寸八分活量百四十立方寸方英寸ニ達セサル者
 - 四、身體發育ノ不全體力ノ薄弱慢性病或ハ負傷等ニ起因スル全身衰弱
 - 五、全身皮膚疥癬ニ頭皮ノ慢性病液臭全身微毒若クハ吸角蟻針發泡打膿等ノ痕跡甚シキ者
 - 六、頭部醜形頭蓋骨折傷陷凹精神異狀白痴癩癩癩瘡疥言辭妨害

- 七、眼目不透明ニシテ健體ノ容貌ヲ呈セサル者片眼若クハ兩眼ノ失明視力二十ノ二十ニ達セサル者顔色不全斜視淚管瘻眼險下垂
 - 八、聽官ノ通鏡片耳又ハ兩耳聾外耳道及鼓膜ノ疾病
 - 九、鼻骨鼻軟骨ノ疾病及鼻茸
 - 十、咽喉口蓋扁桃腺ノ疾病不良ノ齒牙齒齦全身病ニ起因スル呼吸氣ノ惡臭頸腺ノ癰癤病癰癤性潰瘍斜頸或ハ自發的外傷ノ癰癤
 - 十一、心臟及ヒ血管ノ官能の若クハ器質的ノ疾病胸廓ノ畸形縮少鎖骨下扁平肺勞咯血氣管支炎呼吸短息聲音嘶啞慢性咳嗽其他肺結核ノ諸兆
 - 十二、腹部ノ腫脹若クハ膨脹非常ノ肥滿肝脾腎ノ疾病脫腸腹輪ノ弛緩瘰癧尿道炎狹窄小便失禁或ハ尿道ノ瘻孔症
 - 十三、片鼻若クハ兩鼻ノ下降セサル者精系靜脈怒張學丸莖膜腫脹學丸病
 - 十四、痔瘻肛門皸裂痔疾脫肛或ハコンデロマ
 - 十五、四肢ノ麻痺薄弱收縮關節逆轉ノ不全動脈靜脈怒張手足若クハ指趾ノ畸形醜形徵性結節
 - 十六、脊梁骨胸廓諸骨骨盤ノ負傷或ハ全身病ニ起因スル歪形
- 第三條 前條掲ケル者ノ内輕症ナル者ニシテ氣候及ヒ職務ニ關セス少クモ十年間職務ニ堪ユルノ目的アル者ハ合格ト爲スモ妨ケナシ又體動ニ障礙ナキ理學的ノ狀況ニシテ不適合ト爲スニ至ラサル瘦體肥體體毛過冗鬚幹若クハ四肢輕度ノ不同内變味靜胸扁平足齒牙及ヒ消食器ノ異常輕症ノ精系靜脈怒張等ハ成男ニ於テ可トシ少年ニ在ツテハ不可トス
- 海軍省違第百八十六號
- 海軍圖書管理規則左ノ通定

明治二十二年六月七日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍圖書管理規則

第一條 海軍圖書ノ總目錄ハ中央文庫ニ於テ整理ス
第二條 學校水路部練習艦作業費廳ヲ除クノ外各廳各艦ノ圖書ハ左ノ區別ニ依リ中央文庫鎮守府文庫ニ於テ管理ス

一、東京府下各廳ノ圖書參謀部ノ秘書ハ中央文庫
二、鎮守府管區内各廳各艦ノ圖書參謀長所管ノ秘書ハ各鎮守府文庫

第三條 學校水路部練習艦作業費廳各鎮守府文庫ニ於テハ毎年一回圖書増減表ヲ作り中央文庫ニ送致スヘシ

前項外各廳ニ於テ所要ノ圖書ハ中央文庫又ハ鎮守府文庫ヨリ借用スヘシ文庫ニ共圖書ナキトキハ之ヲ購買シ一旦中央文庫或ハ鎮守府文庫ニ納メテ後借用シ用済ノトキ中央文庫又ハ鎮守府文庫ニ納ムヘシ

第四條 練習艦ヲ除クノ外各艦所要ノ圖書ハ鎮守府文庫ヨリ渡シ付ケ解役ノトキ返納セシムヘシ
○海軍省達第百八十七號

橫須賀鎮守府所轄要若ク常備艦ト定メラレ水雷艇ヲ附屬セシメラル

明治二十二年六月七日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍第九十七號

陸軍給與規則第四章及第十二章中左ノ通追加ス
但明治二十二年四月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年六月八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第四章

第七條 末文補填スルコトヲ得ノ下ニ但十頭未満或ハ十頭以上ノ端數ハ一馬ノ割ヲ以テ同表ノ金額ヲ給スノ三十字ヲ加フ

第八條 末文實費支拂フヘシノ下ニ但端數計算方ハ前條但書ニ準スノ十四字ヲ加フ
第十二章

第六條 中而シテ此糧食積金ハノ下ニ「量缺減米代及」ノ六字ヲ加フ

○海軍省達第百八十八號

本年四月達第八十六號海軍下士卒進級條例第十六條第二項ヲ改正シ第三項ヲ加フ

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年六月八日
艦隊ニ於テ下士ノ決定候補名簿ヲ作ルニハ各艦ノ本管ニ依リ鎮守府コトニ區別シ進級ノ順序ヲ定ム可シ

鎮守府所轄艦ヨリ艦隊へ艦隊ヨリ鎮守府所轄艦へ轉シタル者ノ順序ハ所管長官ノ意見ヲ以テ之ヲ定メ鎮守府又ハ艦隊ノ決定候補名簿ニ加フ可シ

○海軍省達第百八十九號

左ニ掲クル場合ニ於テハ司令長官司令官及兵學校長ハ總長ニ委任シ直ニ同上申届照會報告ヲ爲サシムルコトヲ得

- 一、吳鎮守府及兵學校所轄ノ軍艦橫須賀鎮守府ノ管内ニ在ル時
- 二、佐世保鎮守府所轄ノ軍艦吳鎮守府及橫須賀鎮守府ノ管内ニ在ル時

三、艦隊ノ軍艦其司令官ト違隔ノ地ニ在ル時

前項ノ場合ニ於テハ左ニ掲グル令達ハ本省ヨリ直ニ該艦ニ下付スルモノトス

一、該艦ノ進退ニ關スル達及司令長官司令官又ハ校長ヲ經由スル暇ナキ至急ヲ要スル本艦ヘノ令達

二、一般ニ公布スル令達

三、本省ヨリ準士官以上ヘ下付スル辭令副令指令

明治二十二年六月八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第九十號

下士卒ヲ除ク 進級乘退艦醫院出入死亡逃亡善行章與奪處刑罰其他兵籍上ノ異動ニ係ルモノ

ハ艦船ヨリ木籍ノ海兵團ニ其都度報告スヘシ但軍樂員ハ軍樂練習所ニ報告スヘシ又懲罰ニ限リ一箇月分取極ノ翌月頭ニ報告スヘシ

明治二十二年六月八日

海軍大臣伯爵西郷從道

○宮内省達第九號

明治十九年二月十五日宮内省勅奏任官官等年俸達第二條表中家令ノ項ヲ刪除ス

明治二十二年六月十日

宮内大臣子爵土方久元

○海軍省達第九十一號

明治二十一年二月閣令第十六號海軍下士以下被服供給規則中左ノ通改正シ「艦船營ヲ總テ「艦團隊校」ト改メ

明治二十二年六月十日

海軍大臣伯爵西郷從道

第十條中死亡若クハノ下ニ豫備役ニ編入又ハノ八字ヲ加フ

第十一條全文刪除

第十二條中「還納」ヲ「貯藏」ト改メ

第十四條 下士以下所持ノ被服物品ニシテ公務上若クハ非常ノ災害ニ罹リ保護ノ術ナク失亡或ハ損傷シテ其用ニ供シ難キ等實際止ムヲ得サル事情アルトキハ所轄長ヨリ詳細届出ノ後更ニ

現品ヲ給ス但此場合ニ於テハ古衣ヲ以テ給スルコトアルヘシ

第十六條第十七條第二十八條中「倉庫」ヲ「鎮守府衣糧課」ト改メ

第十八條中「倉庫」ヲ「鎮守府」ト改メ第一表ノ定數ノ下ニ竝ニ善行章臂章帽章ノ九字ヲ加フ

第十九條第二十七條第二十九條中「會計局供給課」ヲ「鎮守府衣糧課」ト改メ

第二十條中「倉庫」ヲ「鎮守府衣糧課」ト改メ會計局供給課ヲ第一局第三課ト改メ

第二十二條 主計官ハ被服物品及代價ヲ請求スルトキハ第一號第二號書式ニ照シ需要票ヲ製シ

所轄長ノ調印ヲ得テ鎮守府衣糧課ヘ送付スヘシ而シテ第二表ノ被服物品ヲ請求スルトキハ第

八號證明表ヲ添付スルモノトス但本艦所轄外ノ鎮守府衣糧課ヘ請求セルトキハ受領済ノ後所

轄鎮守府衣糧課ヘ報告スヘシ

第二十三條 鎮守府衣糧課ニ於テハ前條ニ依リ受領スル需要票ニ對シ第三號書式ニ照シ交付期

日及場所ヲ記載シ請求元ヘ送付スヘシ而シテ第八號證明表ハ交付年月日及場所ヲ記入シ鎮守

府衣糧課長證明ノ上返却スルモノトス但本府所轄外ノ艦ヘ交付セントキハ該艦所轄鎮守府衣

糧課長ヘ通知シ交付シタル物品及金額ヲ請求スヘシ

第二十四條 主計官ハ被服物品ヲ還納スルトキハ第四號書式ニ照シ還納票ヲ製シ所轄長ノ調印

大 軍 醫	一 等 軍 醫 長	一	一 等 看 護 手	一	一 等 看 病 夫	一
大 主 計 主 計 長	一	一 等 筆 記	二 等 筆 記	一	二 等 看 病 夫	一
		二 等 主 廚	割 厨 手 室	一	三 等 看 病 夫	一
				二	四 等 看 病 夫	一
				一	五 等 看 病 夫	一
合 計	百 三 拾 七 人				艦 長 從 僕	一

備 考 一 横須賀水雷隊政務部員ハ本艦ノ定員ヲ以テ補充ス本定員中平時ニ在テハ少尉ヲ置カサルコトアリ

○海軍省達第百九十四號

海軍服裝規則第十七條中訪問ノ二字ヲ刪リ第十八條中「常服」ノ上ニ「正服」ノ二字ヲ加フ

明治二十二年六月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百九十五號

横須賀水雷隊敷設部及對馬水雷隊敷設部定員表中列外員ニ一等筆記一人二等筆記一人ヲ增加セラル

明治二十二年六月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百九十六號

旗艦及海兵團ノ軍樂員所用樂器ニ屬スル需用品ハ其艦團ノ掌砲長主管品トス

明治二十二年六月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百九十七號

工夫徵募規則ヲ定ムルマテハ年齢年期ヲ除クノ外海軍工夫規則ニ依リ鎮守府及海軍省第一局ニ於テ工夫ヲ徵募スルコトヲ得又海軍造兵廠海軍火藥工廠ニ於テハ第一局ノ委任ニ依リ徵募スルコトヲ得

明治二十二年六月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百九十八號
横須賀水雷隊政務部定員別表ノ通定メラル

明治二十二年六月十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

(別表)

横須賀水雷隊政務部定員表

艦 號		官 名		職 名		人 員		職 名		人 員	
小	少	少 尉	艇 長	一	一	一	一	一 等 水 兵	四	一	一
	少 掃 閣 士			一	一	一	一	二 等 水 兵	六	一	一
艦 雷 水 一 第	大	大 尉	艇 長	一	一	一	一	一 等 水 兵	四	一	一
	少	少 尉	艇 長	一	一	一	一	二 等 水 兵	二	一	一
艦 雷 水 二 第	大	大 尉	艇 長	一	一	一	一	一 等 水 兵	二	一	一
	少	少 尉	艇 長	一	一	一	一	二 等 水 兵	二	一	一
		機 關 師		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		上 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一
		一 等 兵 曹		一	一	一	一	二 等 火 夫	三	一	一
		二 等 機 關 手		一	一	一	一	一 等 火 夫	三	一	一

入院中ノ治療費賄料及體弱取扱ニ係ル費用ハ總テ官費トス

第五條 准士官以上軍醫ノ診斷ト鎮守府司令長官ノ認可ニ依リ海軍病院ニ入りタルトキ及乘艦中軍醫ノ治療ヲ受クルトキハ其入院若クハ在艦中ニ限リ藥價及療用品ヲ官費トス又准士官以上ニシテ軍醫ノ勤務スル屬ニ出務中傷病ヲ受ケ又ハ急病ニ罹リ軍醫ノ治療ヲ受クルトキハ其際ニ限リ藥價及療用品ヲ官費トス

第六條 前諸條ノ場合ニ於テ海軍病院ナキ地方ニ在テハ官公私立病院^{ナキ}ハ開業醫^{ナキ}ニ依リ治療ヲ爲サシムヘシ

官公私立病院ニ依リセル患者木管復歸ノ旅費ハ本人ノ請求ニ依リ准士官以上ニハ所屬屬ヨリ下士卒ニハ本籍海兵團ヨリ支給スヘシ

第七條 地方病院及開業醫ニ依リセル患者ノ費用ハ管海ノ區域ニ依リ各鎮守府ノ經費ヲ以テ主計部病院課ニ於テ支辨スヘシ

第八條 軍艦出航中外國ニ於テ治療セシムルトキ其費用ハ本艦ノ經費ヲ以テ支辨スヘシ但本艦出航等ニ際シ該地ニ於テ乘艦ヲ免シタルトキハ本人所管ノ鎮守府ノ經費ヲ以テ支辨スルモノトス

○海軍省達第二百二號

陸戰隊概則中左ノ道改正セラル

明治二十二年六月十三日

第四章第四條ノ但書ヲ刪除ス

同章第五條看病夫ノ下ハ束裝帶ヲ用ヒスノ八字ヲ「ノ」一字ニ改ム
同章第六條裝帶ノ下ヲ束裝帶ニ附著シノ八字ヲ「ニ」一字ニ改ム

海軍大臣伯爵西郷從道

同章第八條陸戰隊ハ隨身兵器ノ外左ノ品目ヲ攜帶スルモノトス但上陸地ノ形勢ニ從ヒ之ヲ取捨スヘシ

水筒 毛織襪袴 沓下足袋 手拭 針及絲 石檢櫛紙 雨具 外套 糶糶

第五章第一條貨幣ノ下炊器具豫備ノ五字ヲ刪除ス

同章第四條第五條第六條全文及ヒ陸戰隊概則附錄ヲ刪除ス

第六章第二條「毛布ヲ用意シ」ノ六字ヲ刪除ス

○海軍省達第二百三號

軍艦乗組ノ海軍高等武官及名候補生ニ下付スル辭令ハ自今艦隊旗艦ヲ除クノ外直ニ該艦長ニ送付ス

明治二十二年六月十四日

○海軍省達第二百四號

明治十九年五月要第三三三三號訓令會計主務官中機關學校主計長ヲ刪リ會計主務代理官中ニ機關學校主計長ヲ加フ

明治二十二年六月十四日

○陸達第百一號

陸軍軍吏部下士補充規則中左ノ道改正ス

明治二十二年六月十五日

第一條中 毎年十月末任用ノ上等兵ノ十二字ヲ「毎年六月前々年入營ノモノニシテ上等兵ト爲リ六箇月以上勤務ニ服シタル者」ノ三十四字ニ改ム

陸軍大臣伯爵大山 巖

陸軍大臣伯爵西郷從道

第五條中「三月」十一月ニ改ム

第七條中「四月」十二月「三月」十一月ニ改ム

○海軍省達第二百五號

海軍兵學校條例第八條中「定メ」ヲ「告示」ト改メ第四十六條以下ヲ左ノ通追加ス

明治二十二年六月十五日

海軍大臣伯喬西郷從道

第四十六條 本校ノ事務ハ副官、教務、砲術、水雷、運用、航海、機關、普通學、生徒隊、軍醫、主計ノ十一部ニ分擔セシム

第四十七條 校長ノ名ヲ以テ他屬ト往復スル文書及上申類ハ主務部ニ於テ起案シ校長ニ出ス校長之ヲ可トスルトキハ副官部ニ下ス副官ハ之ヲ淨書シテ發送ス校長之ヲ否トスルトキハ主務部ニ却下スルモノトス

第四十八條 兵學校又ハ校長宛ノ文書ハ副官之ヲ開封シ屬員ヲシテ受領月日件名番號ヲ件名簿ニ登記セシメ校長次長ニ出シ檢印ヲ得テ處分ス可シ其校内一般ニ關スルモノハ揭示シ各部ノ主務ニ關スルモノハ其部ニ廻付ス可シ

第四十九條 各部先任官ハ毎年二月末日迄ニ翌々年度歲出豫算書ヲ調製シ之ヲ主計部ニ移スコシ主計長ハ整理シテ校長ニ出シ決裁ヲ得テ會計局ヘ送付ノ手續ヲ爲スコシ

第五十條 物品購入ヲ要スルトキハ物品購買用紙ニ品目、尺度、數量等ヲ詳記シ圖面又ハ見本アルニ概算代價ヲ記入シ之ヲ主計長ニ送ル可シ主計長ハ豫算ト對照シ差支ナキトキハ認可ヲ受ケ購入ノ手續ヲ爲スコシ

第五十一條 各部ニ關スル書籍、圖畫、學用器具、機械、物品及其格納所、陸上放場等ハ各部ニ於テ管理整頓スヘシ直接ノ學用ニ非スト雖モ擔任上各部ニ關係アルモノモ亦同シ

第五十二條 各部ニ於テ修繕ヲ要スル廉アルトキハ主計部ニ備ヘアル修繕簿ニ記載ス可シ而シテ主計長ハ校長ノ認可ヲ得テ著手スルモノトス

第五十三條 各部先任官事故アルトキハ其次席ノ者代理ス可シ

第五十四條 校員ノ出勤ハ生徒教授始業十五分前其退出ハ終業ノ後トス

第五十五條 校員病氣及事故不參ノ願屆書ハ校長宛ニ認メ毎日始業三十分前ニ各部先任官ヲ經テ校長ニ出スコシ

第五十六條 校員判任官以上ハ毎朝校長室ニ於テ其他ハ指定ノ場所ニ於テ勤務簿ヘ調印ス可シ

第五十七條 校員ハ校内或ハ近傍ニ火災或ハ異常ノ事變アルトキ時刻ヲ移サス速ニ參校ス可シ

第五十八條 校員ハ定所外ニ於テ一切吸烟ス可カラス

○海軍省達第二百六號

海軍會計監督規則左ノ通定ム

明治二十二年六月十七日

海軍大臣伯喬西郷從道

海軍會計監督規則

第一條 各廳長任那命令官出納官吏物品會計官吏ハ左ノ事項ニ於テハ會計監督部及會計監督官ノ監督ヲ受ク

- 一、金錢ノ出納機密費ヲ除ク
- 二、物品ノ出納及保存

三 土地家屋物件ノ買賣貸借
 四 工事ノ請負方法
 五 會計帳簿ノ記註

第二條 會計監督部及會計監督官ハ前條ノ監督及左ノ事項ヲ掌ル
 一 會計規則第六十七條ノ調書ヲ作ル事
 二 會計規則第九十條ニ依リ會計事務引繼ノ立會ヲ爲ス事
 三 會計規則第九十一條ノ検査及第九十六條ノ下検査ヲ執行スル事
 四 會計規則第九十八條ノ計算書及下検査書ヲ検査スル事
 五 物品會計規則第十一條ノ照合ヲ爲シ其調書ヲ作ル事
 六 物品會計規則第十二條ノ調査ヲ爲シ其調書ヲ作ル事
 七 物品會計規則第十七條ノ下検査ヲ執行スル事
 八 會計検査院法第十六條ノ受託検査及責任解除ヲ爲ス事
 九 出納官吏物品會計官吏ノ納ムヘキ身元保證金額ニ係ル事項ヲ調査スル事

第三條 左ニ掲クル書類ハ會計監督部若クハ會計監督官ノ調査ニ付スヘキモノトス
 一 仕拂命令
 二 収入報告支出報告
 三 經費決算報告書
 四 物件ノ買賣貸借ニ係ル諸契約書
 五 工事ノ請負ニ係ル諸契約書
 六 物品出納報告書財產増減報告書

第四條 仕拂命令ハ仕拂命令官ヨリ之ヲ會計主務官ニ送付スル前ニ於テ之ニ憑據書類ヲ添ヘテ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付ス會計監督部長若クハ會計監督官ハ其仕拂ノ月日科目等ヲ調査シ其成規ニ違背スルコトナキヤ否ヤヲ檢視ス可シ

第五條 左ノ事項ハ前條ニ依ラス先ツ其支出ヲ執行シタル後支出簿ヲ臨場點檢シ仕拂前ノ檢視ニ換フルモノトス

- 一 現員ノ俸給諸給
 - 二 内國旅費
 - 三 諸學校學生費
 - 四 演習費
 - 五 糧食費廚具料
 - 六 患者諸費及囚徒費
 - 七 宿直辨當料
 - 八 家族扶助金
 - 九 一箇月百圓ヲ超過セサル應費及被服費ノ支出
 - 十 一箇月三百圓ヲ超過セサル製造材料及艦國用品費ノ支出
 - 十一 一箇月三百圓ヲ超過セサル營繕費ノ支出
 - 十二 一箇月五百圓ヲ超過セサル造修船費兵器彈藥費及水雷費ノ支出
 - 十三 現金前渡ヲ受ケタル諸費ノ支出
- 第六條 収入報告支出報告及經費決算報告書ハ之ヲ本省管理事務若クハ大藏省ニ送付スルノ前ニ於テ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付ス會計監督部長若クハ會計監督官ハ成規ニ違フコトナキ

ヤ否ヤヲ檢視ス可シ

第七條 物品ノ買賣貸借及工事請負ニ關スル契約書ハ主務局部ニ於テ其草按ヲ作り海軍大臣若クハ廳長ノ裁決ニ付スルノ前ニ於テ之ニ必要ナル書類ヲ添ヘ會計監督部若クハ會計監督官ニ送付シ其調査ニ付スヘシ但會計規則第八十二條但書ノ代用書類ハ其調査ニ付スルヲ要セス仕拂命令ヲ送付スルトキ添付ス可シ

第八條 諸計算書契約書其他ノ書類ヲ會計監督部及會計監督官ノ調査ニ付スルニハ總テ原書ヲ以テシ會計監督部若クハ會計監督官ニ異議ナキトキハ捺印ノ印シテ返付シ意見アルトキハ付箋ヲ用ヒ之ニ捺印シテ返付スヘシ捺書又寫書ヲ作ルヲ許サス

第九條 會計監督部若クハ會計監督官ノ調査ニ付スヘキ書類ヲ送付スルニハ番號目錄ヲ添付ス可シ事ノ極メテ緊急ヲ要スル場合ニ於テハ其書類ヲ發出スル廳ノ主任官自ラ之ヲ攜帶シ若クハ副員ヲシテ攜帶面議セシムヘシ會計監督部若クハ會計監督官ニ於テハ即時之ヲ調査シ意見ナキトキハ直ニ還付スヘシ意見アルトキハ直ニ之ヲ書送シ又ハ會計監督部長若クハ會計監督官當該仕拂命令官ト協議決定ス可シ

第十條 前條第一項ノ書類中會計監督部若クハ會計監督官ニ於テ意見ナキモノ若クハ特別ノ調査ヲ要セサルモノハ成ルヘク其日ノ中ニ還付シ其紙端ニ調査済ト記入シ之ニ捺印シ番號目錄ヲ添付シ還付セサル書類ト區別ス可シ

第十一條 會計監督部若クハ會計監督官ニ送付セル書類中意見アルカ若クハ特別調査ヲナス爲メ留置スルモノアルモ成ルヘク速ニ意見書ヲ認メ原書ト共ニ還付スヘシ該意見書ハ會計監督部長若クハ會計監督官ノ捺印ヲ要ス

第十二條 會計監督部若クハ會計監督官ノ意見ヲ仕拂命令官ニ於テ至當ト認ムルトキハ之ニ隨ヒ直ニ訂正スヘシ之ニ同意セサルトキハ其理由ヲ認メ會計監督部若クハ會計監督官ノ意見ヲ付シタル書類ト共ニ東京ニ在リテハ直ニ海軍大臣ニ出シ鎮守府及各廳ニ在リテハ之ヲ司令長官若クハ該廳長ニ出ス可シ

第十三條 鎮守府會計監督部長若クハ各廳會計監督官不合規ノコトヲ司令長官若クハ該廳長ニ告知シ司令長官若クハ該廳長ニ於テ訂正ヲ命令セサルコトアルトキハ共事由ヲ海軍大臣ニ申報スヘシ之ヲ申報スルトキハ其不合規ト認ムル理由ヲ明示ス可シ

第十四條 鎮守府會計監督部員ヲシテ其附近ノ各廳會計監督官ヲ兼ネシムルトキハ各廳長仕拂命令官出納主務官吏ハ第四條第六條第七條ノ手續ヲ爲サス會計監督官ニ於テハ隨時各廳ニ臨ミ實況ヲ検査ス可シ

第十五條 收支計算書ハ會計主務官毎月十日マテニ前月分ノ決算帳ヲ作り會計監督部若クハ會計監督官ニ送付シ會計監督部長若クハ會計監督官之ヲ検査シテ正當ト認定スルトキハ之ヲ會計検査院ニ送付シ正當ナラサルモノハ會計主務官ヲシテ其訂正ヲ行ハシム可シ

第十六條 左ニ掲グル書類ハ會計監督部若クハ會計監督官ニ回付シ其執務參照ニ供ス可シ但會計監督部若クハ會計監督官該書類中ニ掲グル事項ニ關シ意見アルトキハ之ヲ海軍大臣ニ開申スルコトヲ得

- 一、仕拂豫算及更定計算書
- 二、定額戻入要求書

三、豫備金支出計算書

四、特別會計計算書

五、定額繰越計算書

六、過年度ニ屬スル經費ノ支出承認書

第十七條 會計監督部及會計監督官ハ前條ニ掲クル書類ノ外會計經理ニ關スル會計検査院ノ通知書、大藏大臣ノ承認書、其他官報及達號ヲ以テ一般ニ發布スルモノヲ除クノ外會計検査ノ材料トナルヘキ書類ノ通牒ヲ受クルモノトス

第十八條 金錢物品ノ收支ヲ主掌スル局課等ノ諸帳簿ハ會計監督部長若クハ會計監督官ニ於テ執務參照ニ供スル爲メ臨場閱覽スルコトヲ得

第十九條 會計監督部若クハ會計監督官ハ隨時帳簿ノ記註方金錢ノ收支物品ノ出納等ノ實況ヲ現場ニ臨ミ検査ス可シ

第二十條 帳簿ノ實況検査ニ於テハ金錢物品ノ計數、收支計算ノ正否、記簿方法ノ當否其他事項記註ノ可否等ヲ調査ス可シ

第二十一條 金錢收支ノ實況検査ニ於テハ金櫃ノ現状經費金收入金ノ收入其他保管ニ係ル一切ノ金錢ヲ調査ス可シ

第二十二條 金櫃ノ検査ヲ施行スルニハ豫メ管守者ニ通知シ其立會ヲ受ク可シ

第二十三條 物品出納ノ實況検査ニ於テハ物品ノ品數現況等ヲ査覈シ領守府ニ於テハ殊ニ各部倉庫ノ充實ニ注意シ成規ノ品數缺乏ヲ告グルコトナキヤ否ヤヲ監視スヘシ但兵器彈藥火具ニ在テハ其出納帳簿記註ノ可否ノ検査ニ止ム可シ

第二十四條 會計監督部長及會計監督官實況検査ヲ施行スルニ當リテハ主任官ヨリ須要ノ辨明及

報告ヲ求ムルコトヲ得但書類ヲ他所ニ携帯スルヲ要スルトキハ先ツ主任官ノ直屬スル長官ノ承認ヲ承ク可シ

第二十五條 會計監督部長若クハ會計監督官實況検査ヲ施行シ不合規ノコトヲ發見スルトキハ其事實ヲ主任官ニ通告シ訂正ヲ行ハシメ聯合ハサルトキハ中央會計監督部ニ在テハ海軍大臣ノ裁決ヲ請ヒ領守府會計監督部及各關會計監督官ニ在テハ之ヲ司令長官若クハ該關長ニ報告ス可シ又訂正ヲ行ハサルトキハ第十三條ト同様ノ手續ヲ爲ス可シ

第二十六條 領守府會計監督部長ハ在港艦船役務ヲ命セザレ或ハ役務ヲ解カレタルトキ若クハ三箇月以上ノ外國航ヲ爲シ歸港シタルトキハ其會計ノ實況ヲ臨檢ス可シ

第二十七條 領守府會計監督部長ハ在港艦船ノ會計實況ノ検査ヲ必要ト思考スルトキハ司令長官ニ豫メ報告シ司令長官ニ協議シ後臨場シテ検査ヲ行ヒ若クハ必要書類ヲ陸上ニ送付スルコトヲ艦長ニ請求スルコトヲ得

第二十八條 會計監督部長若クハ會計監督官ハ物品ノ買賣貸借及工事請負ノ契約ヲ執行スルニ當リ須要ト思考スルトキハ物品ノ授受ニ立會ヒ若クハ工事ノ既成部分ヲ臨檢ス可シ

第二十九條 會計監督部長若クハ會計監督官買賣貸借其他工事請負條約執行ノ爲メ收置スヘキ身元保證金アルトキハ其期限内ニ契約ノ保證物ヲ領收シタルヤ否ヤヲ監視シ請負人其他物品供給者ニ於テ其契約書ニ明記スル條項ヲ相違ナク履行スルヤ否ヤ又其履行ヲ遷延スルコトナキヤ否ヤヲ監視シ若シ之ヲ遷延スルコトアルトキハ主任官ニ其督促ノコトヲ照會ス可シ

第三十條 領守府若クハ各關ニ於テ軍需品其他物品ヲ人民若クハ外國軍艦ニ貸借スルコトアルトキハ會計監督部長若クハ會計監督官ハ約定期限内ニ返付シ又ハ返付セラレタルヤ否ヤヲ監視ス可シ

第三十一條 鎮守府會計監督部長若クハ各廳會計監督官ハ鎮守府各部若クハ其廳ニ於テ別ニ定ムル所ノ規則ニ依リ物品検査ヲ施行スルヤ否ヤヲ監視シ隨時共一部ノ検査若クハ不期検査ヲ行フコトヲ請求スルコトヲ得各部長若クハ廳長ニ於テ其請求ヲ得タルトキハ直ニ之ヲ行フモノトス

第三十二條 鎮守府會計監督部長若クハ各廳會計監督官ハ隨時工場ノ實況検査ヲ施行シ器具機械ノ管理保存ノ工事ノ施行職工賃金ノ支給等成規ニ違背スルコトナキヤ否ヤヲ監視ス可シ

第三十三條 鎮守府會計監督部長ハ病院及監獄ノ會計經理ニ關シ隨時實況検査ヲ施行シ患者及囚人ノ給與、藥品療用品ノ出納、囚徒工業費ノ收支等成規ニ違背スルコトナキヤ否ヤヲ監視ス可シ

第三十四條 鎮守府司令長官及各廳長ハ鎮守府會計監督部長若クハ各廳會計監督官ノ本務整理ニ關シテハ成ルヘク監督ノ便宜ヲ與ヘ必要ノ補助ヲ爲ス可シ

第三十五條 會計監督部長及會計監督官會計經理ノ事ニ關シ規則條例ノ改正ヲ要スト思考シ其他買賣貸借方法等ノ得失利害ヲ考量シ意見アルトキハ之ヲ海軍大臣ニ開陳ス可シ

第三十六條 會計監督部長ハ日常ノ監督事務ニ就テハ職務ノ一部ヲ部員ニ委任スルコトヲ得

第三十七條 會計監督部長事故アルトキハ先任部員其事務ノ代理ヲ爲ス可シ

第三十八條 中央會計監督部長ハ常ニ鎮守府會計監督部長及各廳會計監督官ト交通ヲ保チ會計監督ノ普及並其實施方法ノ齊一ヲ監視ス可シ

第三十九條 中央會計監督部長ハ鎮守府會計監督部長及各廳會計監督官ノ報告ヲ調査シ意見ヲ付シテ海軍大臣ニ出ス可シ

第四十條 中央會計監督部長ハ每會計年度末ニ該年度中ニ施行シタル監督事務ノ年報ヲ製シ意見ヲ加ヘ海軍大臣ニ出ス可シ

第四十一條 中央會計監督部長ハ隨時海軍大臣ノ命ヲ受ケ各鎮守府及各廳ヲ巡回シ監督施行ノ方

法ヲ監視ス可シ

第四十二條 鎮守府會計監督部長及各廳會計監督官ハ其本務ヲ處理スルニ於テハ直ニ海軍大臣ニ對シ其責ニ任シ本務ニ關スル何上申書類ハ中央會計監督部長ヲ經テ海軍大臣ニ出ス可シ

第四十三條 鎮守府會計監督部長及各廳會計監督官ハ每會計年度末ニ報告ヲ製シ意見ヲ加ヘ海軍大臣ニ出ス可シ

附則

第四十四條 會計法並會計規則施行ノ日迄ハ收支命令官分任收支命令官ハ仕拂命令官、收支傳票ハ仕拂命令左ノ書類ハ收支報告トシ其他此例ニ依ル

- 一、仕拂内譯書及附帶書類(領收證書、概算支出仕譯書、精算證書、科目更正及戻入金仕譯書、人員表)
 - 二、精算内譯書及附帶證書
 - 三、歳出精算未済報告
 - 四、貸付金決算帳
 - 五、繰替借決算帳
 - 六、官有物貸下及排下決算帳及附帶内譯書
 - 七、雜收入決算帳及附帶内譯書
 - 八、官舎修繕費決算帳及附帶内譯書
- 第四十五條 會計規則物品會計規則施行前ニ施行スル能ハサル事項ハ各其規則施行ノ日ヨリ施行ス

○陸軍部第二號

今般勅令第八十一號ヲ以テ士官學校條例被相定候處兵卒分遣ノ儀ハ當分ノ内實施セス
明治二十二年六月十八日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍部第三號

本年陸軍第七十四號各隊經費決算證書調理書式改正中各隊ノ糧米受拂仕譯書裏面朱書第一項ノ但書並糧米明細表代金渡内譯演習中糧米次表ノ朱書及同表裏面朱書第二項「演習中ヲ除キ」ノ六字ヲ削除ス
明治二十二年六月十八日 陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第二百七號

明治十九年省令第四十四號增補料支給方表左ノ備考ヲ加フ
明治二十二年六月十八日 海軍大臣伯爵西郷從道

備考	午後七時三十分マテ居殘ヲ命シタルトキハ七時マテ同額ノ増補料ヲ給シ午後十時三十分マテ居殘ヲ命シタルトキハ十時マテ同額ノ増補料ヲ給ス其他此例ニ依ル
----	---

○海軍省達第二百八號

海軍高等武官進等年數計算並進等名簿ハ十九年十二月要第八〇六號進等年數計算法並進等名簿編纂法ニ依リ左ノ書式ヲ以テ進等名簿中ニ記載ス
奏任二等大佐(奏任五等大尉)(奏任二等軍醫大監)(何々)

停年	除算	任官	職務	姓名
何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何月何日	何職何務	何姓何名
何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何月何日	何位何等何階	何姓何名
何年何箇月何日	何年何箇月何日	何年何月何日	何位何等何階	何姓何名

○海軍省達第二百九號

奏任五等ノ大尉及同官ニシテ進等資格ヲ備ヘ所轄長ニ於テ進等至當ト認ムル者ハ所管長官ニ具申シ所管長官ハ之ヲ取捨シテ海軍大臣ニ具狀スヘシ
奏任二等ノ大佐及同官ニシテ進等資格ヲ備ヘ所管長官ニ於テ進等至當ト認ムル者ハ海軍大臣ニ具狀スヘシ
海軍大臣ニ直隸スル者ノ進等ハ海軍次官之ヲ具狀ス
海軍大臣ニ具狀スルハ六月三十日ヲ期限トシ其停年ヲ算スルハ三月一日ヲ以テス
進等決定名簿ハ將官會議ニ於テ各所管長官ノ具狀ニ就キ議定シ停年順序ヲ以テ其列序ヲ定メ之ヲ作ル前年ノ決定名簿ニ登載シタル者ニシテ本年ノ決定名簿ヲ作ルニ至ルマテ進等セラレサル者ハ本年ノ決定名簿ノ首位ニ置ク
決定名簿ニ登載セル者ハ之ヲ除カサルヲ例トスト雖モ進等セシムル能ハサル事由ヲ生シタル者ハ之ヲ除ク
本年ニ限リ海軍高等武官ノ進等ヲ海軍大臣ニ具狀スルハ七月三十一日ヲ期限トシ其停年ヲ算スルハ七月一日ニ於テス

○海軍省達第二百十號

海軍病院ニ於テ入院中ノ艦船乗組下士卒全治退院ノ節木艦在ラサルトキハ一時其地ノ海兵團ニ送付シ其旨病院課ヨリ本艦ニ通知スヘシ
明治二十二年六月十八日 海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省通達第四百四號

陸軍給與概則第二章中左ノ通追加ス

但本年六月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年六月十九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

第五十九條中大學校教授助教ノ下ニ「砲工學校長同次長同教官」ノ十一字ヲ加フ

第六表備考中憲兵隊ノ下ニ「砲工學校士官學校幼年學校戶山學校乘馬學校砲兵射的學校」ノ二十

六字ヲ加フ

○海軍省通達第二百一十一號

各應處務通則第二條但書ヲ左ノ通改定ス

明治二十二年六月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

但省外各官廳ノ如キ隔離スルモノハ面識ニ代フルニ書信ヲ以テスルハ其便宜ニ任スト雖モ其行

文ハ極メテ簡短ヲ主トシ回答ハ照會書面ノ紙尾ニ其趣意ヲ簡短ニ朱書シテ返付ス可シ

○海軍省通達第二百一十二號

海軍技術會議概則第五條中「三分ノ二」ヲ「半數」ト改ム

明治二十二年六月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省通達第二百一十三號

明治二十一年四月通達第二十三號野紙用方區別ヲ廢シ海軍ノ二字ヲ印刷セル十三行野紙ヲ一般ノ用紙

ト定ム 但已ニ印刷セル各種ノ野紙ハ當分混用スルコトヲ得

明治二十二年六月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省通達第二百一十四號

海軍省病夫教科書別冊ノ通定ム

但別冊ハ之ヲ要スル各屬ニ配布ス (別冊略ス)

明治二十二年六月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省通達第二百一十五號

明治二十一年十月通達百十八號各艦營ニ料理人備入ノ件ヲ廢ス但現ニ備入ノ者ハ本月三十日ヲ限リ

解備ス可シ

明治二十二年六月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

(參照) 海軍省通達百十八號 (明治二十二年十月二十四日)

各艦營ノ病夫ニ西洋料理法ヲ傳習セシムル爲メ日給金五拾錢以内ヲ以テ當分料理人ヲ備入ルコトヲ得

但料理人ハ各艦營ニ一入トス 預備艦及屯積練習艦ノ附屬タル間ハ備入ルコトヲ得ス

○海軍省通達第二百一十六號

航波定員中ニ左ノ人員ヲ增加ス

明治二十二年六月二十日

海軍大臣伯爵西郷從道

一 二等水兵(信號)

一 三等水兵(信號)

○海軍省通達第二百一十七號

海軍圖書管理規則中左ノ通改定ス

明治二十二年六月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

第二條中學校水路部練習艦作業費聽ヲ除クノ外ヲ「學校練習艦ノ教科用書水路部作業費聽ノ圖

書ハ其體屬ニ於テ管理シ其他ト改ム

第三條中「一回」ノ下ニ其管理ニ關スル「七字ヲ挿入シ前項外ヲ學校教科用書水路部作業費圖
圖書ノ外」ト改ム

第四條中「練習艦」ノ下ニ「教科用書」ノ四字ヲ挿入ス

○海軍省達第二百十八號

判任官每等定員左表ノ通定

但上級ニ缺員アルトキハ其缺員ニ超過セサル八員ヲ下級ニ加フ

明治二十二年六月二十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

官名	等級										
	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等	九等	十等	合計
醫官	一三	一四	一五	二〇	四五	五五	五五	二〇			二八七
技手	七	八	一一	一一	二〇	三〇	三〇	一一			一五三
錄事	一	一	一	一	二	四	四	三			一七

○海軍省達第二百十九號

本年六月達第九十三號愛宕定員表中機關師ノ部ヲ左ノ通改正ス

明治二十二年六月二十二日

海軍大臣伯爵西郷從道

機 關 師

五

○海軍省達第二百二十號

海兵團庶務取扱ハ當分主計官ノ所掌ト心得ヘシ

明治二十二年六月二十二日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省達第二百五號

停年名簿編纂規則別冊ノ通定

但明治十五年達乙第四十五號達廢止ス

明治二十二年六月二十四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

停年名簿編纂規則

第一條 停年名簿ハ分ツテ實役停年名簿服役停年名簿ノ二種トシ毎年七月一日ヲ以テ編纂ス

第二條 實役停年名簿ハ現役將校同相當官現官ノ實役年數ニ應シ左ノ區別ニ從フ

一 將官同相當官ハ各官ニ區分ス

二 步騎砲工輜重兵科ノ大尉以上及憲兵屯田兵科監督軍吏衛生獸醫軍樂部ノ上長官士官ハ各兵
科各部毎ニ各官ニ區分ス

三 步騎砲工輜重兵科ノ中少尉ハ各將校團毎ニ各官ニ區分ス

第三條 服役停年名簿ハ豫備後備ノ將校同相當官現官ノ服役年數ニ應シ豫備又ハ後備ノ將官同相
當官及各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス

第四條 同日同官ニ任官ノ者ハ任官ノ順序ニ依ル

第五條 停年ノ算法ハ辭令書日附ノ日ヨリ起算シ曆年月及日數ヲ以テス休職停職ノ日數ヲ除ク其端日數ハ通
算シテ起算ノ月ノ日數ニ滿ルモノヲ一箇月ニ積算ス但明治五年十二月ハ一箇月ニ算ス

第六條 各兵科將校轉科スルトキハ原兵科ノ年月日ヲ通算シテ列次ヲ定ム

轉科ノ上同停年ノ者アルトキハ原兵科ノ列次ニ從フ

第七條 休職及停職ノ將校同相當官ハ實役停年名簿ノ末尾ニ各兵科各部毎ニ各官ニ區分ス

(服役及服役停年名簿式略ス)

(參照) 陸軍省令第四百五號(明治十五年七月三日)

停年者續編規則册之通改正候條此目相違候事(別册略)

○海軍省達第二百二十一號

會計規則第九十條會計事務引繼ノ立會ハ會計監督部會計監督官ノ所掌事務ニ屬スト雖モ軍港外ニ在ル艦船ニ於テハ艦船長東京外及鎮守府所在地外ニ在リ事務監督官ヲ置カサル各屬ニ於テハ廳長ヲ検査員トシ共立會ヲ爲サレム

明治二十二年六月二十四日

海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省達第二百二十二號

鎮守府衛生會議議長艦團校廠軍醫長軍醫服務通則中左ノ通改正ス

明治二十二年六月二十四日

海軍大臣伯爵西鄉從道

第十二條中死亡證ノ下ニ「病歴書」三字ヲ加ヘ「可レ」下ニ「而シテ病歴書ハ死者木籍ノ海兵團ニ移ス可シ」ノ二十字ヲ加フ

第二十條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ検査東京ノ校廠等ニ在テハ中央衛生會議議員ノ検査ヲ受ク可シ

第五十四條ニ左ノ一項ヲ加フ
前項ノ病歴書艦隊艦船及鎮守府ニ屬セサル校廠等ニ在テハ死者木籍ノ鎮守府衛生會議議長ニ出ス可シ

第六十七條中(海軍職務)ヲ「海軍兵役」ト改ム

第六十八條末項(勤続)ヲ「再服役」ト改ム

第七十一條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ身體検査證艦隊艦船及鎮守府ニ屬セサル校廠等ニ在テハ直ニ中央衛生會議議長ニ出ス可シ

第七十三條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ報告艦隊艦船及鎮守府ニ屬セサル校廠等ニ在テハ直ニ中央衛生會議議長ニ出ス可シ
第七十四條第十項中「可シ」下ニ「但第二十七項ニ據リ木表ヲ出ストキハ一通ヲ出ス可シ」ノ二十四字ヲ加ヘ第十項中「勤続」ヲ「再服役」ト改メ第十七項中「海軍職務」ヲ「現役」全ク其職務ニ堪ヘサルヲ「現役」ニ堪ヘ難キ者或ハ永久服役ニ堪ヘ難キ」其現役ニ堪ニルヲ「其職務ニ堪ヘサル」ヲ「現役」ニ堪ヘ難キ者或ハ永久服役ニ堪ヘ難キ」ト改メ第二十六項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

第二十七項 本條第二項第七項第八項第九項第十項第十一項第十三項第十五項第二十一項第二十四項ニ據リ出ヌ表報等艦隊艦船及鎮守府ニ屬セサル校廠等ニ在テハ直ニ中央衛生會議議長ニ出ス可シ

第七十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

前項ノ報告艦隊艦船及鎮守府ニ屬セサル校廠等ニ在テハ直ニ中央衛生會議議長ニ出ス可シ
第八十一條中第七十三條第七十六條ノ十字及第五十四條ニ依リ出ヌ病歴書ノ十三字ヲ刪除ス
醫第十二號野紙身檢査證中「海軍職務」ヲ「海軍兵役」ト改ム
醫第十五號野紙第二號診斷書式中「海軍職務」ヲ「現役」ト改ム
醫第十六號野紙第三號診斷書式中「全ク海軍職務ニ堪ヘサル」ヲ「現役或ハ永久服役ニ堪ヘ難キ」ト改ム

○海軍省達第二百二十三號

明治二十二年六月 陸軍省令第二百二十三號

海軍病院軍醫部員服務通則中左ノ通改正ス

明治二十二年六月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

第九條中「第十三項廢止」第十五臨時需求表ヲ刪除ス

第十條中「鎮守府衛生會議議長ニ稟議シテ」ノ十四字ヲ刪除ス

○海軍省達第二百二十四號

艦船現狀ハ自今別表ノ通記載シ毎月艦船長ヨリ直ニ海軍參謀部長ニ出スヘシ

但艦體又ハ重要兵器ノ故障等艦ノ進退又ハ兵備上ニ關係アル事件アルトキハ例報ノ外ニ別表ニ記載シ臨時參謀部長ニ出スヘシ (別表略ス)

明治二十二年六月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百二十五號

艦隊摘要記事別紙ノ通定ス (別紙略ス)

明治二十二年六月二十五日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百二十六號

艦隊司令官若クハ軍艦長内地ニ於テ外國人ヲ要應若クハ接待セントスルトキハ左ノ金額以內ヲ以テ處辨ス可シ但當該年度中前月ノ豫定額内ニ仕拂殘餘アルトキハ漸次後月ニ繰越シ使用スルコトヲ得

明治二十二年六月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

艦隊司令官

一箇月 金五拾圓

艦長 大佐

一箇月 金拾圓

艦長 少佐

一箇月 金五圓

○海軍省達第二百二十七號

明治二十二年六月二十六日 海軍省達第二百二十七號海軍主計學校條例中第一條第六條ヲ左ノ通改正シ第七條第八條ヲ刪除ス

明治二十二年六月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

第一條 海軍主計學校ニ於テハ新寡少主計候補生ノ外大主計及少主計ヲ學生トシ之ニ高等ノ學術ヲ教授ス

第六條 通學學生ハ毎年人員ヲ限リ之ヲ命ス

○海軍省達第二百二十八號

海軍軍醫學校條例左ノ通定ス

明治二十二年六月二十七日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍軍醫學校條例

第一章 職員

第一條 校長ハ學術教授及紀律維持ノ方法ニ關シ意見アル時ハ之ヲ海軍中央衛生會議議長ニ具申ス可シ

第二條 校長ハ學期ノ終ニ於テ教官ヲ會同シ學生及生徒ノ學術試驗成績ヲ調査シ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ海軍中央衛生會議議長ニ出ス可シ

第三條 教官ハ各擔任ノ學術教授ヲ掌リ試驗ヲ行ハタル時ハ成績表ヲ製シ之ニ意見ヲ附シ校長ニ出ス可シ

第四條 監事ハ校長ノ命ヲ受ケ學生及生徒ノ容儀品行及勤惰ヲ監視シ軍紀風紀ヲ維持スルヲ任トス

第五條 監事ハ毎朝授業時十五分前生徒ヲ整列セシメ之ヲ點檢シ又時々其寄宿所ヲ巡視シ實況ヲ校長ニ報告ス可シ

第六條 監事ハ學生及生徒ニ係ル願屆其他一切ノ事務ヲ掌理ス

第七條 本校ノ判任官ハ校長ノ命スル事務ニ服ス

第二章 學生

第八條 本校ニ於テ修業ノ軍醫及少軍醫候補生ハ學生ト稱ス

第九條 學生ハ毎年人員ヲ限り之ヲ命ス

第十條 學生ノ費用ハ總テ自辨トス

第十一條 學生ノ學期ハ毎年九月十五日ニ始リ翌年七月三十一日ニ終ルヲ例トス

第十二條 學生ノ學科ハ日新ノ學術海軍一般ノ衛生飲食品ノ試驗法軍陣衛生學軍陣醫學病床實驗等トス

第十三條 學生ニハ隨時小試験ヲ行ヒ學期ノ終ニ大試験ヲ行フ

第十四條 大試験及第ノ者ニハ及第證書ヲ授與ス

第十五條 學生病氣不參ノ時ハ出席定時ヨリ三十分前ニ書面ヲ以テ校長ニ届出六日以上ニ及フ時ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ届出可シ

第三章 生徒

第十六條 生徒ハ分テ私費官費ノ二種トス

第十七條 私費生徒ハ海軍出身志願ノ者ヨリ撰拔ス

第十八條 官費生徒ハ大試験ニ及第シタル私費生徒ヨリ撰拔ス

第十九條 私費生徒及官費生徒ノ人員ハ毎年之ヲ定ム

第二十條 生徒ノ學期ハ四期トス而シテ其一期ヲ冬夏ノ二季ニ分チ冬季ハ毎年九月十五日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終リ夏季ハ毎年四月十五日ニ始リ七月三十一日ニ終ルモノトス

第二十一條 生徒學期中疾病又ハ不得止事故ニ由リ二箇月以上課程ヲ躓ムコト能ハスニテ定期ノ學術ヲ修得シ能ハサル者ハ次號ニ編入ス可シ

第二十二條 生徒ノ學科ハ理學化學動物學植物學解剖學生理學組織學藥學調劑學病理學內科學外科學眼科學產科學婦人病學斷診醫學普通衛生學ノ十七科トス而シテ傍ラ英語ヲ修メシム

第二十三條 生徒修學中ニ受ク可キ試験ハ左ノ如シ

第一 小試験

此試験ハ臨時ニ施行ス

第二 中試験

此試験ハ毎年冬夏二季ノ終リ即チ三月七月ニ於テ施行ス

第三 大試験

此試験ハ第二冬季ノ終ニ施行ス其科目ハ理學化學動物學植物學解剖學生理學組織學ノ七科トス

第四 終期大試験

此試験ハ第四夏季ノ終ニ施行ス其科目ハ藥物學調劑學病理學內科學外科學眼科學產科學婦人病學斷診醫學普通衛生學ノ十科トス

第二十四條 生徒卒業ノ順序ハ各試験ノ成績點數ヲ合算シ其多寡ニ因リ之ヲ定ム

第二十五條 生徒大中試験及第ノ格例及其等級ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分ノ八以上ヲ

得タル者ヲ一級トス

第二 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分ノ六以上ヲ得タル者ヲ二級トス

第三 各科全點數ノ十分ノ四以上ヲ得而シテ各科ノ點數ヲ合算シ其全點數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ三級トス

第二十六條 及第及卒業ノ生徒ニハ左ノ證書ヲ授與ス

第一 及第證書
此證書ハ大中試驗及第ノ者ニ授與ス

第二 卒業證書
此證書ハ終期大試驗及第ノ者ニ授與ス

第二十七條 生徒及第ノ等級第二十五條ノ第一項ニ該當シ最高點數ヲ得タル者一名ニハ褒賞ヲ授與ス

第二十八條 生徒大試驗ニ落第スル時ハ三箇月以内ニ更ニ試驗ヲ行ヒ終期大試驗ニ落第スル時ハ一箇年以内ニ更ニ試驗ヲ行フ

第二十九條 落第者試驗ノ法ハ其落第シタル學科ノミヲ試驗スルモノトス

第三十條 休業中ノ外ハ生徒ニ旅行或ハ歸省ヲ許サス但父母看病ノ爲メ歸省スルハ此限ニ在ラズ

第三十一條 生徒疾病ニ因リ出席シ能ハサル時ハ其都度點檢前ニ必ス身元引受人ヨリ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ監事ニ届出可シ

第三十二條 生徒ハ情願ヲ以テ辭スルヲ許サス

第三十三條 生徒ニシテ左項中ノ一ニ該ル者ハ之ヲ免ス

第一 品行不良或ハ怠惰ニシテ屢々訓戒ヲ加フルモ之ヲ悛メサル者

第二 中試驗ニ於テ二回續テ落第シタル者或ハ大試驗ニ於テ再試驗ヲ行フモ尙ホ及第セサル者又ハ小試験ノ成績屢々不良ニシテ卒業ノ前途ナキ者

第三 傷痕疾病ニ依リ前途ノ目的ナキ者

第三十四條 官費生徒ニシテ第三十三條ノ第一項第二項ニ據リ之ヲ免シタル者ハ其日ヨリ三十日限り身元引受人ヲシテ其學費ヲ償還セシム

○陸軍第百六號

明治二十一年七月陸軍第百四十七號遠中各隊ニ於テ士官以上ノ病馬ニ治療ヲ施シタル藥價ニ限リ其月ノ實費(現病馬日數)ヲ以テ辨償セシムヘシ

明治二十二年六月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍第百七號

明治二十一年十一月陸軍第百二十二號近衛各師團軍醫部服務規則中第五條「都督師團長ノ認可ヲ得テ」ノ十一字ヲ其第八條及第二十一條第十四項「診斷書」ヲ「診斷證書」ニ改メラレ同第二十一條第十六項「衛生部士官候補生及」ノ九字ヲ削除セラル

○陸軍第百八號

憲兵條例第三十八條ニ該ル者ハ別ニ辭令ヲ用ヒス原兵科ニ復シ又ハ其原兵科ナキ者ハ歩兵科ニ轉スハキ備ト心得ヘシ

但本例發布以前後備役ニアル者ハ本條ニ因リ其位置ニ轉セシム

明治二十二年六月二十八日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第二百二十九號
藥品療用品購買手續左ノ通定

明治二十二年六月二十八日

海軍大臣伯爵西郷從道

藥品療用品購買手續

第一條 藥品及療用品ノ購買ヲ要スルトキハ衛生會附藥劑官要求品目錄ヲ作り主計部病院課長ニ移シ病院課長ハ其要求書ヲ作り主計部材料課長ニ送付ス可シ

第二條 主計部材料課ニ於テ購買ノ手續ヲ爲シ賣上入定マリタルトキハ其品種ヲ衛生會識ニ出シ検査ヲ受ケンム可シ

第三條 鎮守府衛生會識ニ於テ品種ノ良否ヲ検査シ適當ト認ムルトキハ各品ニ検査證ヲ貼付ス可シ

第四條 主計部材料課ハ衛生會識ノ検査證ニ依リ購求シ病院課ニ納付セシム可シ

第五條 艦船外國又ハ鎮守府邊隔ノ地ニ在リテ藥品及療用品ノ購買ヲ要スルコト急ニシテ定規ヲ踐ムノ暇ナキトキハ艦長ノ命ニ依リ軍醫長検査ノ上主計長ニ於テ購求スルコトヲ得但此場合ニ於テハ主計長其報告書ヲ作り主計部材料課長及病院課長ニテ送付ス可シ

○海軍省達第二百三十號

明治十九年海軍准士官下士増修規則第二條左ノ通改正ス

明治二十二年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

第二條 一等下士ハ各其本官ニ任セラル又ハ増修ノ日ヨリ起算シ進級條例ニ掲グル實役停年最下期限ノ三分ノ一二等三等下士ハ其半ヲ過クルニアラサレハ増修スルコトナシ

○海軍省達第二百三十一號

本年^四月達第九十七號海軍病院條例第十六條中「計算課派員ヲ」病院課長ト改ム

明治二十二年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百三十二號
本年^五月達第二百二十八號官印ノ寸法及渡方ノ件第四項各部長ノ下ニ「知港事」ノ三字ヲ加フ

明治二十二年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百三十三號
用使ヲ使丁ト改稱ス

明治二十二年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百三十四號
工夫長ヲ廢ス

明治二十二年六月三十日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百三十五號
委任一等ノ武官ニシテ海軍軍人俸給令第三條ニ該當シ所管長官ニ於テ特別俸ヲ給シ至當ト認ムル者アルトキハ海軍大臣ニ具狀スヘシ

委任四等ノ武官ニシテ海軍軍人俸給令第三條ニ該當シ所管長官ニ於テ特別俸ヲ給シ至當ト認ムル者アルトキハ所管長官ニ具申シ所管長官ハ之ヲ取捨シ海軍大臣ニ具狀ス可シ

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百三十六號
發明及改良兵器採用手順ノ通定

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

一海軍部内ニ在テ兵器及其屬具ノ新規發明ヲ爲シ又ハ改良ノ意匠ヲ起セルモノハ明細書(圖面成之ヲ添フ)ハ相添所管長官ヲ經テ第二局長ニ申出ツ可シ
一第二局長ハ前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ精密ニ之カ調査ヲ爲シ有益ノモノト認ムルトキハ造兵廠若クハ鎮守府兵器部ニ叶職シ試驗品製造ノ上實驗ヲ爲ス可シ
但試驗品ヲ製造スル場合ニ於テハ其發明人又ハ意匠者ヲシテ其工事ヲ監督セシムルコトアル可シ
一實地試驗上實用ニ適スルモノナルトキハ技術會議ヲシテ審議セシメ採否ヲ決定ス

○海軍省達第百三十七號
橫須賀吳佐世保鎮守府監護便丁給仕砲丁最上限定員及配置表中鎮守府本廳ノ給仕各二八ヲ減ス

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百三十八號
海軍會計監督規則第十五條ヲ左ノ如ク改定シ第三十一條第三十二條中鎮守府各廳ノ五字ヲ刪除ス

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西郷從道

監護官職工務倉庫監獄ノ

第二條 備人ノ職名ハ左ノ如シ

司令長官司官從僕

艦長從僕

割烹

剃夫

以上軍艦ニ限リ使役スルモノトス但鎮守府司令長官從僕及軍港司令官從僕ハ此限ニ在ラス

取者

使丁

砲丁

給仕

定備大工

定備經師

射の場番人

用水場番人

定夫

馬丁

以上各職ニ限リ使役スルモノトス

賭夫

右監獄ニ限リ使役スルモノトス

右ニ掲ケル外備人ヲ使役スルコトヲ許サス但鎮守府造船部兵器部造兵廠火藥工廠其他ニ於テ臨

時ニ備役スル職工人夫ハ此限ニアラス

第三條 雇員及使丁砲丁給仕ノ最上限定員ハ別ニ之ヲ定ム

第四條 從僕ハ司令長官司官艦長ニ各一人割烹ハ艦隊司令長官司官ニ各一人艦隊艦船ニ各一人剃夫ハ定員百五十人以上ノ軍艦ニ每艦一人三百人以上ノ軍艦ニ每艦二人トス但鎮守府艦船外

國派遣ノ時ニ限リ割烹一人ヲ備役スルコトヲ得

第五條 雇員及備人中缺員アルトキト雖モ新ニ採用スルトキハ經費ニ關シテ豫メ本省會計局長ノ

承認ヲ受クヘシ但割烹從僕剃夫ハ此限ニ在ラス

第六條 雇員備人ニ採用スル者ハ滿二十年以上四十年未滿ノ者ニ限ル

從僕ハ滿十五年以上二十五年未滿ノ者ニ限ル

給仕ハ滿十年以上十四年未滿ノ者ニ限ル

右ノ年齢制限外ノ者ヲ採用セントスルトキハ何出ツヘシ

第七條 左ニ掲ケル諸項ノ一ニ該ル者ハ雇員及備人ニ採用スヘカラス

一、 身体強壯ナラサル者

二、 身代限ノ處分ヲ受ケ負債ノ辨償ヲ終ヘサル者

三、 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者

四、 賭博犯ノ處分ヲ受ケタル者

五、 品行不良ノ者

第八條 雇員及備人ヲ採用スルニハ各長官ニ於テ確實ト認定スル保證人ヲ定メ該保證人ヲシテ本

人ノ第七條ニ抵觸セサル者ナルヲ保證シ且身元ヲ引受ケシムヘシ

第九條 雇員ヲ採用スルニハ各職ニ於テ試験規則ヲ定メ委員ヲ命ジ試験ヲ行ヒ及第者ヲ採用スヘシ

現役滿期ノ下士卒ヲ雇員ニ採用スルトキ甲種雇員ヲ乙種ニ採用スルニ其職名同シキトキ又採用スヘキ者試験格例ト同等ナル卒業證書ヲ有スルトキハ試験ヲ行ハス採用スルコトヲ得

第十條 試験ニハ科目問題コトニ照據ヲ付與シ得點十分五以上ナル者ヲ以テ及第者ト定ムヘシ

第十一條 雇員試験格例ハ何出ツ可シ雇員試験委員ハ其命シタルトキ届出ツヘシ

第十二條 監護割烹從僕刺夫ヲ採用スルトキハ軍醫ヲシテ身体検査ヲ行ハシムヘシ軍醫ナキ各職ニ於テハ雇員身體検査委員ノ検査ヲ受ケシムヘシ

第十三條 雇員備人ヲ採用スルトキ各職ノ名籍ニ登錄シタル日ヨリ軍屬ニ列スル旨ヲ訓示スヘシ

第十四條 雇員備人ノ名籍ヲ各職ニ備置キ族籍姓名年齢職名給料雇入年月日ヲ記シ置クヘシ

第十五條 監護割烹從僕使丁取者馬丁ハ滿四十五年給仕ハ滿十八年ニ至レハ解雇シ其他ハ滿五十年ニ至レハ解雇スルモノトス年齢定限ヲ過クルモ尙ホ使役スルヲ必要トスルトキハ何出ツヘシ

第十六條 從僕割烹刺夫ハ自費ニテ制服ヲ着用スヘキモノトス他ノ雇員備人ニ給與スル被服ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○海軍省令第二百四十二號
雇員備人職工入夫給與規則左ノ通定ム

明治二十二年七月一日
海軍大臣伯爵西鄉從道

第一條 雇員及備人ハ總テ日給トス各所管長官ハ左表ノ金額ヲ最上限トシ適宜日給額ヲ定メ其服業日數ニ應ジ支給スヘシ但増給ノ場合ニ於テハ貳拾五錢未滿ノ者ニハ一回三錢當圓未滿ノ者ニ

ハ一回五錢當圓以上ノ者ニハ一回拾錢ヲ定限トシ六月十一月ニ於テ會計局長ト協議ノ上増給ス

雇員日給表

職名	彫刻手	刺手	刺生	生	器械手	生	兵器保衛手	空	護
給額	三圓	貳圓	四圓	四圓	八拾五錢	六拾錢	六拾錢	五拾錢	五拾錢

備人日給表

職名	刺	蒸	定備大工	取	者	砲使刺從	丁夫使	所定	夫夫	馬	丁	給	給
給額	七拾錢	六拾錢	五拾錢	五拾錢	三拾五錢	三拾錢	三拾錢	貳拾五錢	貳拾錢	貳拾錢	貳拾錢	給	給

第二條 大祭日祝日日曜日其他ノ公暇日ハ服業セスト雖モ彫刻手刺生ヲ除クノ外雇員ニ限リ日給ヲ支給ス但該日缺勤日數中ニ在ルトキハ支給セズ

第三條 公務ニ原因シ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ爲メニ服業セサル者ニハ其日ヨリ百日マテ日給五分ノ一ヲ支給ス

傳染病隔離法施行ノ爲メ服業ヲ禁シタル者ニハ其日數中日給ノ半額ヲ支給ス

第四條 増給減給ハ其令違フ受ケタル當日ヨリ之ヲ支給ス

第五條 轉雇者ノ日給ハ從前ノ業務ヲ終リタル當日マテ甲種ニ於テ支給シ乙種ハ其翌日ヨリ支給ス

第六條 日給支給定日ハ毎月二十七日ハ休暇ニ當ルトキトシ前月二十一日ヨリ其月二十日マテノ給

額ヲ支給ス但艦船及各屬ノ便宜ニ依リ其月分ノ給額ヲ毎月末日ニ於テ支給スルコトヲ得

解雇轉雇者若クハ死亡者ノ日給ハ前項ノ支給定日ニ拘ハラズ其際支給ス

第七條 公務旅行ノトキ前條ノ支給定日共旅行日數中ニ在ルトキハ該月分ヲ繰上ケ支給スルコトヲ得

第八條 被生器械手兵器保護手割草從僕刺夫取者施丁定備大工馬丁及官役職工人夫公務ニ原因シ

死傷シタル者ニハ明治八年四月第五十四號公布ニ依リ扶助料及埋葬料ヲ支給ス

第九條 官役職工人夫ニシテ官役中負傷シ治療セシムル者其日數百日マテハ賃金ノ五分ノ一ヲ支給ス

附則

第十條 本則中從僕割草刺夫ニ係ル事項ハ七月一日ヨリ施行ス

○海軍省達第二百四十三號

海軍武官外國出張手當金支給内規第九條中本則ノ下(ニ據リ手當金)ノ六字ヲ(ノ手當金ニ二割増)ト改正ス

明治二十二年七月一日

○海軍省達第二百四十四號

諸規則諸達中ノ下士以下ヲ總テ「下士卒」ト改ム

明治二十二年七月一日

○海軍省達第二百四十五號

明治十九年七月省令第六十三號海軍軍人軍屬食料支給定規中「各屬ニ從事スルトアルヲ」學校病院等ニ起臥スルト改ム

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

但木達ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十二年七月一日

○海軍省達第二百四十六號

海軍軍人軍屬在監人ノ食料ハ一食金三錢ヲ以テ現賄ヲ給ス

但木達ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十二年七月一日

○海軍省達第二百四十七號

家族扶助金給與規則第九條ニ依リ家族扶助金ヲ家族ニ送付スルニハ本人ニ渡シテ後官費ヲ以テ送

金スル義ト心得ヘシ

明治二十二年七月一日

○海軍省達第二百四十八號

患者費用規則中左ノ通改定ス

明治二十二年七月一日

第一條中「傳染病ヲ」疾病ト改ム

第四條中「艦船醫備夫在艦中」ヲ「割草刺夫從僕備役中」ト改ム

第六條中「前諸條」第一條乃至第四條ト改ム

○海軍省達第二百四十九號

明治十九年七月省令第六十三號軍人軍屬食料支給定規食料日當表中「航行艦」ヲ「艦船軍港外ニ在ル時」ト改ム

「艦留艦及屯營」ヲ「艦船軍港内ニ在ル時及團隊」ト改ム

該定規第一項ヲ左ノ如ク改ム

但木達ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治二十二年七月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

一食料ハ乘艦又ハ入營ノ日ヨリ退艦退營若クハ死亡ノ日マテ支給シ艦船軍港ヲ出航スルトキハ共ヨリ軍港内ニ投錨スル日マテ相當ノ食料ヲ支給ス

○海軍省達第二百五十號

明治二十年五月副令第四十七號航行艦ト港内繫留艦トノ區別ノ件及同年五月十一副令第二百二十二號繫留艦及附屬艦港外ニ航行スルトキハ航行艦タルノ件ヲ廢ス

明治二十二年七月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

各官 廳

本月十一日ヨリ來ル九月十日マテ諸官員暑中休暇ヲ賜フ但明治七年七月第八十四號達ノ通心得ヘシ
休暇中内閣ニ於テハ要急事務ノ外ハ取扱ハサルヘシ

明治二十二年七月二日

內閣總理大臣伯爵黑田清隆

○海軍省達第二百五十一號

本年六月達第百八十五號海軍志願兵身體檢査格例發布前ニ徵募シタル下士卒再服役者ノ身體檢査ハ本人徵募ノ時ノ檢査ニ準シ行フヘシ

明治二十二年七月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百五十二號
海軍大學校定員表中看病夫ノ次ニ厨夫三人ヲ加フ

明治二十二年七月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百五十三號
主計學校通學生ニ教授スヘキ學科目左ノ通定ム

明治二十二年七月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

學科目

一法律學 一經濟學 一簿記學

別科

一外國語學 一數學

○陸軍部第九號

本月十一日ヨリ九月十日迄午前八時出頭午十二時退出ト定ム

明治二十二年七月四日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第二百五十四號

本年三月達第百六十一號海軍省處務細則第三條第一局第三課所掌事務中第六項「軍人及教官主理錄事」ノ「軍費ニ屬スル」ト改メ第五條會計局第三課所掌事務中第四項「軍屬教官主理錄事」及「備外國人ノ俸給諸給ノ豫算及本省費ノ旅費」ヲ「本省費ヲ除ク」ト改ム

明治二十二年七月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍部第十號

陸軍軍吏學舍條例第三條ニ據リ各隊附曹長ニシテ軍吏學舍入學中宅料及食料支給方左ノ通定ム

明治二十二年七月五日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一宅料ハ陸軍給與概則第七章第十八表ノ金額ヲ軍吏學舍ニ於テ支給ス

二食料ハ一日金拾六錢トシ入學中ノ日數ニ應シ軍吏學舍ニ於テ支給ス

但原隊ニ於テハ陸軍給與概則第三章第三條ノ食料ヲ軍吏學舍ニ送附シ該舍ニ於テ共差額ヲ差
繼毎月盡日ニ支拂フヘシ

○海軍省第二百五十五號
艦内衛兵規則左ノ通定

明治二十二年七月五日

海軍大臣伯爵西郷從道

艦内衛兵規則

- 第一條 衛兵ハ艦内ノ守衛ニ任レ不虞ヲ警戒シ艦内ノ靜謐ヲ保テ警察ノ事ニ任スルモノトス
衛兵守所ニ在ルトキハ之ヲ番兵ト稱ス
- 第二條 衛兵ノ人員ハ其須要ニ從ヒ艦長之ヲ定ム
- 第三條 衛兵ニハ司令ヲ配シ分隊長若クハ分隊士一人ヲ以テ交番之ニ充ツ
- 第四條 衛兵司令ハ衛兵ヲ指揮シ番兵ヲ配置シ衛兵ノ勤怠ヲ監視シ服裝及携帶兵器ノ整否ヲ検査シ衛兵ノ服務ニ關スルコトヲ掌理ス
- 第五條 衛兵ニハ伍長ヲ置ク兵曹若クハ一等水兵ヲ以テ交番之ニ充ツ
- 第六條 衛兵伍長ハ衛兵司令ノ命ヲ受ケ守所ヲ巡見シ番兵ヲ監視シ下士以下ノ非違ヲ制止シ犯罪者ヲ搜索シ處刑罰人ヲ取扱ヒ燈火喫烟等ヲ警戒シ出入ノ人員物品ヲ査察シ遺失物ヲ處分シ其他警察ニ關スル事ニ服ス
- 第七條 番兵ノ守所ハ艦長左ノ如シ但艦ノ構造ニ依リ適宜之ヲ増減シ又一守所ノ番兵ヲシテ他ノ守所ヲ兼シムルコトヲ得

前甲板 航海中ハ之ヲ
艦長室入口
舷門上
士官室入口

下甲板後部

衣室

鉄細室ハ之ヲ置カス

前甲板及舷門ノ番兵ハ掛銃其他ハ無銃帶劔トス

第八條 番兵ハ總員ノ操練アルトキハ守所ヲ去リ各共部署ニ就クモノトス

第九條 本則ハ第七條第八條ヲ除クノ外海兵團水雷隊ニ適用ス

第十條 衛兵服務ノ細則ハ所管長官之ヲ定ム

○海軍省第二百五十六號

掌砲兵配置別表ノ通定

明治二十二年七月五日

海軍大臣伯爵西郷從道

(別表)

掌砲兵配置表

高千穂	扶桑	比叟	葛城	海城	筑紫	春日
四十六人	三十三人	二十八人	二十三入	二十一入	十九入	十四入
混	金	大	武	高	天	船
速	剛	和	蔵	雄	城	城
四十六人	二十八人	二十三入	二十三入	二十入	二十一入	十一人

技 術 會 議					
東京軍法會議	八				
中央會計監督部			四		
水 書 交 付					二
備 考	本表ノ人員ハ會計局ニ於テ統轄シ即座スルモノトス				五

○海軍省選第二百五十九號

海軍高等武官候補生學術檢査規則左ノ通定

明治二十二年七月六日

海軍大臣伯耆西郷從道

海軍高等武官候補生學術檢査規則

第一條 海軍高等武官候補生ノ學術檢査ハ委員ヲ編制シ之ヲ行フ

第二條 委員ノ編制ハ左ノ如シ

少尉候補生ノ檢査委員

少佐 一人

大尉 三人

少技士候補生ノ檢査委員

少技監 一人

大技士 三人

少軍醫候補生ノ檢査委員

軍醫少監 一人

大軍醫 三人

少主計候補生ノ檢査委員

主計少監 一人

大主計 三人

第三條 外國若クハ遠隔ノ地ニ派遣セル艦船乘員竝ニ東京海外各屬ニ勤務スル候補生ノ學術檢査

ハ委員ヨリ密封ヲ以テ問題書ヲ艦船長若クハ各廳長ニ送付シ該長ハ臨時委員ヲ編制シ指定ノ時期ニ從ヒ而前ニ於テ檢査ヲ行ハシメ共ニ應答書ハ密封ヲ以テ委員ニ送付ス可シ但臨時委員ノ資格及員數ハ第二條ニ適合セサルモ妨ナシ

第四條 委員ハ學術檢査ヲ了リタルトキハ其成績表ヲ海軍大臣ニ進達ス可シ

第五條 兵學校卒業ノ後少尉候補生ヲ命セラレタル者航海練習艦ニ乘組實地練習ヲ終リタルトキハ練習中ノ試験成績ニ在校終期大試験ノ成績ヲ合算シタルモノヲ以テ學術檢査ノ成績トス

第六條 軍醫學校卒業ノ後少軍醫候補生ヲ命セラレタル者軍醫學校ノ學生ト爲リタルトキハ大試験成績ヲ以テ學術檢査ノ成績トス

第七條 軍醫學校主計學校卒業ノ後少軍醫候補生少主計候補生ヲ命セラレタル者及少主計候補生ニシテ主計學校ヲ卒業シタル者ノ學術檢査ハ其成績ト各學校卒業試験ノ成績トヲ合算シタルモノヲ以テ學術檢査ノ成績トス

○海軍省選第二百六十號

横須賀鎮守府定員表中造船部ノ欄「工夫若手」ノ次ニ「翻譯生」ヲ加ヘ「雜生」ノ下ノ「若手」ヲ「六十

八」ト改メ

吳鎮守府定員表中造船部ノ欄「技生三」ノ三字ヲ刪除シ兵器部ノ欄「技生」ノ下ノ「三」ヲ「一」ト改メ

佐世保鎮守府定員表中造船部ノ欄「技生」ヲ「工夫」ト改メ兵器部ノ欄「技生」ノ下ノ「三」ヲ「一」ト改メ

明治二十二年七月八日 海軍大臣伯耆西郷從道

○陸軍省選百一十一號

陸軍軍人ノ傷痕疾病ニハ其負傷痕病ノ原由ニ因テ左ノ通等差ヲ定ム

明治二十二年七月 陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

陸軍省選百一十一號

但明治十九年四月省令乙第五十四號達傷疾疾病等差規則ヲ廢ス
明治二十二年七月九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 第一項 傷疾疾病ノ等差ヲ別テ一等症二等症三等症トス
- 第二項 一等症ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルモノ
 - 一 戰時及戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傷疾ヲ受ケタルモノ
 - 二 戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ著シク有害ナル感動ヲ受クルヲ願ミルコト能ハスシテ非常ノ艱苦ヲ忍ビ勛務ニ服シ爲メニ疾病ニ罹リ若クハ疾病ヲ篤クシタルモノ
 - 三 戰時平時ニ拘ハラヌ公務ノ爲メ傳染病者又ハ傳染馬病ニ接シタルノ故ヲ以テ該傳染病ニ感染シタルモノ
 - 四 戰時公務ノ爲メ傳染病流行地ニ在リタルノ故ヲ以テ該傳染病ニ罹リタルモノ
 - 五 戰時平時ニ拘ハラヌ命令ニ依リ船艦若クハ鐵道列車内ニ在リタルノ故ヲ以テ傳染病者ニ接シ又ハ命令ニ依リ傳染病流行地若クハ傳染病者ノ居室ニ至リ傳染ヲ避クル能ハサル事由アリテ該傳染病ニ罹リタルモノ
 - 六 第一ノ傷疾ニシテ一旦治癒ノ後再發シタルモノ
- 第三項 二等症ハ一等症三等症ノ事項外ニシテ傷疾疾病ニ罹リタルモノ
- 第四項 三等症ハ左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルモノ
 - 一 服役後新ニ愛機病ニ感染シタルモノ
 - 二 私闘ニ由テ傷疾ヲ受ケタルモノ
 - 三 自ラ傷疾疾病ヲ作爲シタルモノ
 - 四 以上各項ノ傷疾疾病一旦治癒ノ後再發シタルモノ

第五項 一等症ニ罹リタルモノニハ見證書若クハ之ヲ證スル公文ヲ要ス但第二項ノ第六ニ係ルモノハ之ヲ要セズ

第六項 第二項ノ傳染病ト稱スルモノハ虎列刺腸管扶斯赤痢實扶的里發疹霍亂及痘瘡ノ六病トシ馬ニ在テハ炭疽鼻疽皮疽ノ三病トス

○陸軍部百一十二號

陸軍軍人ニシテ傷疾疾病ニ罹リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル者ノ取扱手續左ノ通定ス
但明治十三年五月達乙第三十四號達隊外下士免官願云々ヲ廢ス

明治二十二年七月九日

陸軍大臣伯爵大山 巖

- 一 陸軍軍人傷疾疾病ニ依リ准士官以上ニ在テ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルトキ下士以下ニ在テ現役若クハ永久服役ニ堪ヘサルトキハ軍醫長ノ審査若クハ判定シタル陸軍醫官ノ診斷證書若クハ地方醫師ノ病況書ニ依リ准士官以上ハ陸軍大臣成規ニ依リ之ヲ區處シ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官之ヲ區處ス但陸海軍將校分限令第四條第七項ノ職務ニ因リ代員ヲ必要トスル場合ノモノハ此限ニアラズ
- 二 陸軍醫官ハ前項ニ依リ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサルモノト診斷シタルトキハ診斷證書ヲ製シ之ニ病床日誌ノ寫病床日誌ヲ作ラサテ添ヘテ患者ノ所屬長ニ出スヘシ但准士官以上ニ在テハ該書類ヲ本人ニ附與シ本人ハ自己ノ願書ニ之ヲ添ヘテ所屬長ニ出スモノトス
- 三 陸軍醫官ノ治療ヲ受ケサル准士官以上ニシテ傷疾疾病ニ依リ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト思考スルトキハ自己ノ願書ニ主治醫ノ病況書ヲ添ヘテ所屬長ニ出スヘシ但主治醫ニ於テ病況書ヲ調製シ難キ場合ニ在テハ陸軍醫官ノ診斷ヲ受クヘシ
- 四 陸軍醫官アラサル地ノ下士以下ニシテ傷疾疾病ニ依リ現役若クハ永久服役ニ堪ヘサルモノト其

五 所屬長ニ於テ察シタルトキハ本人ヨリ主治醫ノ病況書ヲ出サシムヘシ
 五 所屬長ニ於テ第二項第三項第四項ノ書類ヲ受ケタルトキハ之ニ稟申書(第四項ノ所屬長ハ其現役
 見込ヲ添ヘテ近衛都督又ハ師團長ニ呈スヘシ)而シテ近衛都督又ハ師團長ハ其書類ヲ當該軍
 醫長ニ下付シテ審査(判定)セシメタル後第一項ノ取扱ヲナスヘシ但衛生部下士以下ニ係ルモノ
 ハ所屬部隊長ヨリ其書類ヲ當該軍醫長ニ移シ軍醫長ハ之ヲ審査(判定)シタル後醫務局長ニ稟申
 スルモノトス

各官廨ニ在テハ其長官諸學校ニ在テハ校(所)團(長)憲兵隊ハ隊長陸地測量部砲(工)兵會議ハ
 部(議)長ヨリ該書類ヲ當該軍醫長ニ移シテ其審査(判定)ヲ經タル後准士官以上ハ順序ヲ以テ陸
 軍大臣ニ下士以下ハ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

陸軍省參謀本部監軍部ニ在テハ所屬長ヨリ其書類ヲ第一師團軍醫長(近衛都督附醫官ノ製シタル
 官ノ製シタルモノ)ニ移シテ審査(判定)ヲ經タル後准士官以上ハ陸軍省ニ在テハ陸軍大臣ハ參謀本
 部ニ在テハ參謀總長ハ監軍部ニ在テハ監軍ハ各順序ヲ經テ進呈シ又總長監軍ハ更ニ之ヲ陸軍大
 臣ニ移呈ス其下士以下ハ所屬長ヨリ兵役免除權ヲ有スル長官ニ稟申スヘシ

軍醫長ニシテ在職若クハ永久服役ニ堪ヘサル者アルトキハ近衛都督師團長ハ本人ヨリ出シタル
 書類ニ稟申書ヲ添ヘテ陸軍大臣ニ呈スヘシ大臣ハ醫務局長ヲシテ之ヲ審査セシム

六 軍醫長ハ診斷證書ヲ病床日誌又ハ病歴書ニ照シテ審査シ適當ト認メタルトキハ之ヲ證明シ不適
 當ト認メタルトキハ意見書ヲ附シテ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル各官ニ致シ而シテ
 其各官ハ軍醫長ニ於テ適當ト證明シタルモノハ第五項ノ手續ヲナシ不適當ト認メタルモノハ之
 ヲ所屬長ニ返付シ再ヒ醫官ヲシテ診斷セシムヘシ

軍醫長ハ病況書ニ就キ其判定證書ヲ作りタルトキハ之ヲ近衛都督師團長若クハ該書類ヲ移シタル

ル各官ニ致スヘシ而シテ其各官ハ該判定證書ニ依リテ現役又ハ永久服役若クハ在職ニ堪ヘサル
 者ハ第五項ノ手續ヲナシ然ラサルモノハ其趣ヲ示シテ書類ヲ返付スヘシ

軍醫長ハ病況書ヲ判定スルニ方リ陸軍醫官ノ診斷ヲ必要ト認ムルトキハ近衛都督師團長若クハ
 該書類ヲ移シタル各官ニ其意見ヲ申告スヘシ而シテ其各官ハ本人ヲ陸軍醫官ヲ在職者ノ所在地ニ
 呼出シ又ハ陸軍醫官ヲ本人所在地ニ派遣セシメテ診斷セシムヘシ

七 陸軍病院入院患者ノ診斷證書ハ病院長參坐ノ上主任ノ醫官之ヲ調製スヘシ但病院長主任タルト
 キハ參坐ヲ要セズ

入院セサル患者ノ診斷證書ハ主任ノ醫官一名ニテ之ヲ調製スト雖モ若シ高級又ハ古參ノ醫官ト
 協議シタル場合ニ在テハ該醫官ト調製スヘシ而シテ該高級古參ノ醫官ハ參坐ト肩書シテ職官氏
 名ヲ署シテ捺印スルモノトス

休職停職豫備後備又ハ退役ノ醫官之ヲ調製スルトキハ其府縣國郡市町村番地ヲ肩書シテ官氏行
 ヲ署シ捺印スヘシ病歴書モ亦同シ

八 病床日誌病歴書ハ診斷證書ヲ審査スル爲メニ之ヲ要ス故ニ診斷證書ヲ審査シタル後ハ之ヲ軍醫
 部ニ係ルモノハ醫務局長ニ留メ置クヘシ

九 診斷證書病況判定證書病歴書病況書式ハ左ノ如シ

但病況書ノ書式ハ患者ヨリ主治醫ニ示スヘシ

診斷證書書式 用紙在職醫官ニ在テハ美濃十三
 行紙其地ニ在テハ美濃白紙
 准士官以上ニ在テハ末文ヲ不履在職
 (永久服役)者ト診斷候也ト書スヘシ

診斷證書

右何年何月何日何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾來加療候處現今何々ノ症ヲ胎シ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ由リ不操現役(永久服役)者ニ在リテハ「不操現役」ト診斷候也

何年何月何日

右將貴候處適當ノ診斷ト確定候也

主任 職官 氏名 印
參座 何地衛戍病院長官 氏名 印
第何師團軍醫長 氏名 印

病況判定證書式 用紙美濃紙十三行罫紙 書シ又現役ニ在リテハ「不操現役」ノ字ヲ「不操在職(永久服役)」ト

病況判定證書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏名 印

右別紙主治醫某ノ病況書ヲ將貴候處何年何月何日何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)現今何々ノ症ヲ胎シ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ由リ不操現役(永久服役)(現今何々ノ症狀アルモ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ至ラサルニ依リ現役ニ在リテハ「不操在職」ト判定候也

何年何月何日

病況書式 用紙美濃紙罫紙 或ハ半紙罫紙

病況書

第何師團何兵第何聯(大)隊第何中隊

陸軍何兵何等卒 氏名 印

原因 何々
經過 何々
療法 何々
現症 何々
右ノ通ニ候也

何年何月何日

病況書式 用紙美濃紙罫紙又ハ美濃白紙但外國ニ在リテ主治醫外國人ナラバ詳細セシムルハ此書式ニ據ラサルモ妨クナシ

病況書

何地大隊副官陸軍何兵大尉 氏名

名

高麗羅連軍ヲ軍病ニ罹リシトナシ唯何年何月何日何傷ヲ受ケ(何病ニ罹リ)爾來加療候處現今何々ノ症ヲ胎シ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ由リ不操現役(永久服役)(現今何々ノ症狀アルモ何々ノ用ヲ廢スル(妨クル)ニ至ラサルニ依リ現役ニ在リテハ「不操在職」ト判定候也

何年何月何日

何所(縣)何國何部(市)何町(村)何地 主治醫 氏名 印

相談醫アルトキヤ
 相談醫氏 名 印
 十診斷證書ヲ製シタル主任ノ醫官 病況判定證書ニ係ルハ下士以下ノ患者ニシテ此手續ニ據リ歸郷ヲ命セラルルニ際シ歩行若クハ獨行シ難キモノト認メタルトキハ左ノ證書ヲ行爲紙十ヲ製シテ患者ノ所屬長ニ出スヘシ
 但當時主任醫官不在ノトキハ他ノ醫官之ヲ調製スルモノトス

第何師團何兵衛何聯(大隊)何中隊

陸軍何兵衛何聯 氏 名

第何師團何兵衛何聯(大隊)何中隊

陸軍何兵衛何聯 氏 名

第何師團何兵衛何聯(大隊)何中隊

陸軍何兵衛何聯 氏 名

第何師團何兵衛何聯(大隊)何中隊

陸軍何兵衛何聯 氏 名

第何師團何兵衛何聯(大隊)何中隊

陸軍何兵衛何聯 氏 名

右ハ陸軍省陸軍部百二十二號ニ依リ歩行難相成(獨行)難相成ニ付附添人員ヲ要スル者ニ係也

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

何年何月何日

明治二十二年七月 陸軍省陸軍部百六十一號 第百六十二號 第百六十三號

三〇三

○海軍省達第百六十一號
患者費用規則第七條ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十二年七月九日

海軍大臣伯爵西郷從道

患者ヲ地方病院及開業醫ニ依托シタルトキ及海兵團ニ著セルトキハ其都度所轄長ヨリ該患者ニ關係アル主計部病院課ニ報告スヘシ

○海軍省達第百六十二號

海軍大學校使丁ノ最上限定員一七ヲ一九ト改ム

明治二十二年七月九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第百六十三號

海軍軍人俸給及手當金支給細則左ノ通定ム

明治二十二年七月九日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍軍人俸給及手當金支給細則

第一章 高等武官及准士官俸給

第一條 高等武官及准士官ノ俸給ハ每月末日ハ休暇ニ當ルトキハ其月ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス但二月ハ閏月ト雖モ二十八日分ヲ支給ス

第二條 新任進級進等轉官及増俸者ニハ辭令書日附ノ當日ヨリ其俸ヲ支給ス

第三條 休職及停職者ニハ辭令書本人ニ到達ノ翌日ヨリ其俸ヲ支給ス

第四條 休職者又ハ停職者就職ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

給シ休職者或ハ停職者ナルトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

明治二十二年七月 陸軍省陸軍部百六十一號 第百六十二號 第百六十三號

三〇三

修學者就職ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

第五條 免官ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日マテ從前ノ俸ヲ支給シ又死亡ノトキハ其當日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

第六條 恩給令ニ依リ休暇ヲ命セラレタル者ニハ其翌日ヨリ豫備後備或ハ退役ノ辭令書本人ニ到達ノ日マテ本令第六條ニ依リ支給ス

受恩給者恩給令ニ依リ休暇ヲ命セラレタルトキハ其翌日ヨリ恩給始期ノ前日マテ本令第六條ニ依リ支給ス

第七條 休職者其地滞在ヲ命セラレタルトキハ辭令書本人ニ到達ノ翌日ヨリ就職辭令書本人ニ到達ノ前日マテ本令第六條ニ依リ支給シ又滞在ヲ免セラレタルトキハ辭令書本人ニ到達ノ日マテ本令第六條ニ依リ支給ス

第八條 免官廢官トナリ又ハ休職ヲ命セラレタルトキ事務引繼又ハ殘務取扱ヲ命シタルトキハ事務終了ノ日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

他所在助出張又ハ外國航海中休職或ハ豫備後備若クハ退役ヲ命セラレ又ハ免官トナリタルトキ特ニ復命セシムルトキハ其復命終ルノ日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

第九條 豫備後備ノ准士官以上ヲ召集シタルトキハ指定ノ地ニ到着ノ日ヨリ役務ヲ終リタル日マテ本令第十四條ニ依リ支給ス

第十條 俸給ハ所轄職ニ於テ之ヲ支給シ兼務者ノ俸給ハ本務ノ職ニ於テ之ヲ支給ス

第十一條 進等或ハ増俸其他事故アリ追給スヘキモノアルトキハ翌月以降ニ於テ之ヲ支給スルコトヲ得

減俸其他ノ事故ニ依リ追徴スヘキモノアルトキハ翌月以降ノ俸給ヨリ之ヲ控除スルコトヲ得但

翌月以降ノ俸給ヨリ控除スルコトヲ得ザルトキハ直ニ返納セシムヘシ

第十二條 甲職ヨリ乙職ニ轉スルトキハ退職ノ日マテ第一條ノ支給定日ニ拘ラス前職ニ於テ支給シ第三條乃至第九條ノ場合ニ於テハ各本條ニ照シ其當日マテ第一條ノ支給定日ニ拘ラス所轄職ニ於テ支給シ甲乙兩職ニ涉ルトキハ前職ニ於テ支給ス

第十三條 前條ノ場合ニ於テ甲乙兩職會計ヲ異ニシ第十一條ニ依リ追給スヘキモノアルトキハ前職ヨリ支給シ追徴スヘキモノアルトキハ前職ニ返納セシム但會計ヲ異ニセザル職ニ在テハ後職ニ於テ追給或ハ控除シ若クハ返納セシムヘシ

第十四條 會計ヲ異ニスル職ノ所屬員ヲ借用シタルトキノ俸給ハ本職發程ノ翌日ヨリ隨職ノ日マテ日數ニ應シ借用職ニ於テ之ヲ支給ス

第二章 候補生俸給

第十五條 候補生ノ俸給ハ毎月末日ハ休暇ニ當ルトキ共月ノ日數ニ應シ之ヲ支給ス

第十六條 練習トシテ乗艦ヲ命シタル者ニハ本令第七條中八拾錢ノ額ヲ支給ス

第十七條 前條ノ外支給ノ方法ハ第一章高等武官及准士官俸給支給ノ例ニ準ス

第三章 下士卒俸給加俸

第十八條 下士卒ノ俸給ハ毎月末日ハ休暇ニ當ルトキ共月ノ日數ニ應シ各所轄職ニ於テ之ヲ支給ス但技工ノ俸給ハ翌月七日マテニ支給スルコトヲ得

第十九條 新兵ニハ入營當日ヨリ其俸ヲ支給シ新任進級轉官轉職等ノトキハ辭令書本人ニ到達ノ日ヨリ其俸ヲ支給ス

第二十條 豫備役ニ編入ノ者若クハ現役滿期ニ依リ免官免役等ノ者ニハ辭令書本人ニ到達ノ日マテ從前ノ俸ヲ支給シ又死亡ノ者ニハ其當日マテ從前ノ俸ヲ支給ス

第二十一條 本令第十二條第二項第三項第四項第十三條第一項第二項ニ該ル者及豫備兵後備兵歸休兵ヲ召集シタルトキノ支給區分ハ左ノ如シ

- 一 本令第十二條第二項ニ該ル者ノ俸給ハ退職ノ翌日ヨリ歸職ノ前日マテ同條ニ依リ支給ス
- 二 本令第十二條第三項第四項ニ該ル者ノ俸給ハ缺勤八日目ヨリ出勤前日マテ同條ニ依リ支給ス

- 三 本令第十三條第一項第二項ニ該ル者ノ俸給及加俸ハ退職ノ翌日ヨリ歸職ノ日マテ支給セス
- 四 豫備兵後備兵歸休兵ヲ召集シタルトキノ俸給ハ入營ノ日ヨリ役務ヲ終リタル日マテ本令第十五條ニ依リ支給ス

第二十二條 上陸規則ニ依リ許可スル休暇日其他一般ノ公暇日ハ平常ノ通支給ス

第二十三條 善行章掌砲證狀及掌水雷證狀加俸ハ停止ノ正條アルモノヲ除クノ外該章又ハ證狀ヲ授與シタル日ヨリ之ヲ有スル間支給ス但該章又ハ證狀ヲ剝奪シタルトキハ其日ヨリ支給セス

第二十四條 練習ヲ命シタル者及海兵團屯在ノ補充員ニシテ艦隊若クハ鎮守府各部ノ事業ニ從事スル者ハ其日數中定員ニ準シ支給ス

第二十五條 會計ヲ異ニスル職ノ所屬員ヲ借用シタルトキノ俸給及加俸ハ本職職程ノ翌日ヨリ歸職ノ日マテ日數ニ應ジ借用職ニ於テ之ヲ支給ス

第二十六條 甲職ヨリ乙職ニ轉スルトキハ退職ノ日マテ第十八條ノ支給定日ニ拘ラス前職ニ於テ支給シ第二十條第二十一條第三項第四項及第二十五條ノ場合ニ於テハ各本條ニ照ラシ其當日マテ第十八條ノ支給定日ニ拘ラス其所轉職ニ於テ支給シ甲乙兩職ニ涉ルトキハ前職ニ於テ支給ス

第二十七條 第十一條及第十三條ハ下士卒ニ適用ス

第四章 被告人俸給

第二十八條 本令第十二條第一項第十三條第三項第四項ニ該ル者ノ支給區分ハ左ノ如シ

- 一 本令第十二條第一項ニ該ル者ノ俸給ハ其當日ヨリ刑罰期滿限ノ日マテ同條ニ依リ支給ス
- 二 本令第十三條第三項ニ該ル者ノ俸給及加俸ハ其當日ヨリ刑罰期滿限ノ日マテ支給セス
- 三 本令第十三條第四項ニ該ル者ノ俸給及加俸ハ其當日ヨリ所轉職ニ歸到若クハ遞傳護送留置收禁トナリタル前日マテ支給セス

第二十九條 遞傳護送留置收禁拘留中ノ者ニシテ無罪又ハ免訴若クハ無罪トナリタルトキハ其減俸ヲ追給ス

第三十條 軍人犯罪服務中ハ俸給加俸トモ平常ノ通支給ス

第三十一條 本令附則第十九條ニ該ル軍屬ニシテ判任官一等以上ハ准士官以上ニ同二等以下ハ下士雇員以下ハ卒ニ準シ其支給方ハ本章前各條ニ依ル

第五章 手當金

第三十二條 手當金ハ毎月末日ニ依リ之ヲ支給ス但免官免役死亡其他服務場所ニ異動アルトキハ其際支給スルモノトス

第三十三條 進級轉官若クハ轉職等ニ依テ手當金ニ増減アルトキハ辭令書本入ニ到達ノ日ヨリ其額ヲ支給ス

第三十四條 航海手當金ノ支給區分ハ左ノ如シ

- 一 軍港拔錨出港ノ日ヨリ軍港入港ノ日マテ支給ス
- 二 外國航海ニ依テ給額ニ異動ヲ生スルトキハ初メテ内國港灣拔錨發航ノ日ヨリ初メテ内國港灣ニ投錨ノ日マテ目的地ノ距離ニ應ジ相當ノ額ヲ支給ス但途中ニ於テ目的地ヲ變更シタルトキハ其命令到達ノ日ヨリ相當ノ額ヲ支給ス

三、甲國ニ派遣中命ヲ受ケ乙國ニ出航シ給額ニ異動アルトキハ出航ノ日ヨリ甲國ニ歸港投錨ノ日マテ目的地ノ經緯度ニ應ジ相當ノ額ヲ支給ス但一國內ニ於テ給額ニ異動アルトキ亦同シ

四、軍港外ニアル艦船ニ乗組ヲ命シタル者ニハ乗艦ノ日ヨリ支給シ退艦若クハ死亡ノ者ニハ其日マテ支給ス

五、手當金規則第二條第一項ニ該ル者ハ退艦ノ翌日ヨリ歸艦ノ前日マテ支給セス

六、官船若クハ官ニテ借入レ或ハ傭入レタル船舶ニ乗組ノ辭令書ヲ與ヘ出張セシムル者ニハ乗組タル日ヨリ退艦ノ日マテ支給ス但便乘ニ止ル者ハ此限ニアラス

第三十五條 陸上勤務下士卒手當金ノ支給區分ハ左ノ如シ

一、勤務ノ地ニ到着ノ翌日ヨリ退艦若クハ死亡ノ日マテ手當金規則第五條ニ依リ支給ス

二、傷瀉疾病ニ依リ入院スルトキハ其翌日ヨリ退院ノ前日マテ支給セス其他公私旅行ノトキハ出發ノ翌日ヨリ歸著ノ前日マテ支給セス

第三十六條 手當金規則第四條ノ手當金ハ公務ニ依リ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ缺勤ノ日數ヲ服務日數ニ算入シ之ヲ支給ス

手當金規則第六條第七條ノ手當金ハ上陸規則ニ依リ許可シタル休暇日數ヲ服務日數ニ算入シ之ヲ支給ス

第三十七條 水底若クハ重艦底及之ニ均シキ艦底掃除ノ事業又ハ難破船漂流人救援其他非常ノ場合ニ於テ勞動セシムル者ニハ其日數ニ應ジ手當金規則第八條ニ依リ手當金ヲ支給スルコトヲ得

第三十八條 手當金規則第九條ノ手當金ハ北緯ニ於テハ六月十五日ヨリ九月十二日マテ南緯ニ於テハ十二月十五日ヨリ三月十五日ハ四月十四日マテ熱帶地方ニ於テハ汽船ニ點火スルトキ機

關手火夫及汽罐部ノ事業ニ從事スル下士卒ニ之ヲ支給ス

第三十九條 轉勤ニ際シ一日内手當金ノ支給甲乙兩屬ニ跨ルトキハ其當日マテ甲屬ニ於テ支給シ其翌日ヨリ乙屬ニ於テ支給ス

第四十條 兼務ニ依リ手當金ヲ給スル場合ニ於テハ兼務ノ屬ニ於テ支給ス

第四十一條 遞傳遞送留置收探拘留若クハ處刑中ノ者又ハ艦船團若クハ職役ヲ離レタル者ハ其日ヨリ所轉屬ニ歸到ノ日マテ手當金ヲ支給セス

艦船團隊及各屬ニ於テ刑罰ニ處セラレタル者ニハ其日ヨリ刑罰期滿限ノ日マテ手當金ヲ支給セス

第四十二條 戴罪服務中ノ總テ平常ノ通手當金ヲ支給ス

○海軍省達第二百六十四號

艦隊ノ消耗兵器報告書ハ毎月五日迄ニ其前月分ヲ取纏メ本管鎮守府兵器部ニ出シ鎮守府兵器部ニ於テハ三箇月毎ニ之ヲ統計シ月末迄ニ第二局ニ報告スヘシ

兵學校ノ消耗兵器報告書ハ毎月五日迄ニ其前月分ヲ與鎮守府ニ出シ東京所在各廳ノ消耗兵器報告書ハ第二局ニ出スヘシ

明治二十二年七月十一日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省達第二百六十五號

本年三達第五十四號監護ニ帶劔セシムル件中自今ノ下及場合ニ限リノ下ニ監護長ノ三字ヲ加フ

明治二十二年七月十二日 海軍大臣伯爵西鄉從道

○海軍省達第二百六十六號

砲術練習艦附屬天城ヲ練習艦ト定メラル

明治二十二年七月十二日 海軍大臣伯爵西鄉從道

武官考科表規則別表中

官	衛	考	科	調	考	科	調	考	科	調
砲工	砲工	砲工	砲工	砲工	砲工	砲工	砲工	砲工	砲工	砲工
工學	工學	工學	工學	工學	工學	工學	工學	工學	工學	工學
校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
工砲	工砲	工砲	工砲	工砲	工砲	工砲	工砲	工砲	工砲	工砲
兵監	兵監	兵監	兵監	兵監	兵監	兵監	兵監	兵監	兵監	兵監
監	監	監	監	監	監	監	監	監	監	監
上長	上長	上長	上長	上長	上長	上長	上長	上長	上長	上長
官士	官士	官士	官士	官士	官士	官士	官士	官士	官士	官士
校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
下士	下士	下士	下士	下士	下士	下士	下士	下士	下士	下士
本附	本附	本附	本附	本附	本附	本附	本附	本附	本附	本附
附	附	附	附	附	附	附	附	附	附	附
既	既	既	既	既	既	既	既	既	既	既
高	高	高	高	高	高	高	高	高	高	高
校	校	校	校	校	校	校	校	校	校	校
副	副	副	副	副	副	副	副	副	副	副
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官

○海軍省令第二百六十八號

本年四月達第八十六號海軍下士卒進級條例第十七條ニ左ノ但書ヲ加フ
 明治二十二年七月十七日
 海軍大臣伯爵西郷從道

但兵曹ノ上等兵曹ニ進級スヘキ者ノ決定候補名簿ハ掌砲、掌水雷、掌帆及信號教授ニ適スヘキ者ノ四種ニ區別ス

○海軍省令第二百六十九號

當分ノ内金剛比數ニ左ノ人員ヲ增加ス
 明治二十二年七月十七日
 海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第二百七十號

軍艦航海中乘員ノ留守宅ニ渡スヘキ俸給ハ艦船經費取扱順序第二十三條ニ依リ會計局又ハ海兵團ニ依リテ下渡スヘシ
 内外國出張若クハ外國留學ノ軍人及東京外ニ在ル休職者停職者其所在地ニ於テ俸給ノ下渡ヲ出願スルトキハ所轄廳ヨリ送附スヘシ
 明治二十二年七月十七日
 海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省令第二百六十六號

明治二十年十月二日陸軍省令第二百四十六號戰時衛生材料具製式並內容品區分表中左ノ通改正追加ス（改正追加略ス）

○陸軍省令第二百六十七號

明治二十二年七月十九日
 陸軍大臣伯爵大山 巖

（別紙）

戰時衛生材料定數表

名稱	品目	野戰醫院	四箇	八箇	八箇	二箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇
衛生	野戰醫院	四箇	八箇	八箇	二箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
步兵	一大隊				二箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
騎兵	一大隊				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
野砲兵	一中隊				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
山砲兵	一中隊				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
工兵	一中隊				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
輜重兵	一大隊本部				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
輜重兵	一大隊本部				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇
輜重兵	一大隊本部				一箇	一箇	四箇	四箇	九十六箇	九十六箇	四箇	四箇

滿期下心得ハシ

明治二十二年七月二十二日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百七十四號
雇員備人採用規則第一條「翻譯生」ノ次ニ「海圖印刷工」ヲ加ヘ第二條「取替」ノ前ニ「印刷工」ヲ加ヘ「暗夫」ノ前ニ左ノ一項ヲ加フ

明治二十二年七月二十二日

海軍大臣伯爵西郷從道

洗濯夫
右病院ニ限リ使役スルモノトス

○海軍省達第二百七十五號

雇員備人職工入夫給與規則第一條雇員日給表中「翻譯生」ト「拔生」トノ間ニ左ノ通過加シ備人日給表中「定備師」ノ次ニ「印刷工」ヲ加ヘ「暗夫」ノ次ニ「洗濯夫」ヲ加ヘ第二條中「翻譯生」ノ下ニ「海圖印刷工」ヲ加フ

明治二十二年七月二十二日

海軍大臣伯爵西郷從道

海圖印刷工
登回貳拾錢

○海軍省達第二百七十六號

明治二十年六月第六十一號在官者ニシテ海外留學ヲ命シタルトキ學資金支給方ノ件ヲ廢ス
明治二十二年七月二十二日
海軍大臣伯爵西郷從道

(參照) 海軍省訓令第六十二號(明治二十年六月三日)
在官者ニ海外留學ヲ命シタル時ハ容令料日當リ支給セヌ本件ヨリ省令第十三號海軍海外留學生給與規則ニ依リ初當ノ學資金ヲ支給ス

○海軍省達第二百七十七號

海軍海外留學生給與規則中左ノ通改正ス

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月二十二日
第四條中「定規」ノ順序ニ據リ該地在留ノ公使館或ハ領事館ヲ經テ之ヲ支給ス共支給ヲ之ヲ送附ス共「下改」ノ左ノ一項ヲ加フ

留學生内地發程ノトキハ前項ノ期月ニ係ハラヌ三箇月以内ヲ繰上ケ支給スルコトヲ得

第六條 學資金ハ年額ヲ十二分ニ留學ノ月數ニ應シテ之ヲ支給ス

學資金ヲ増減シタルトキ増額ハ發令ノ月ヨリ減額ハ共翌月ヨリ支給ス

第七條 留學地ニ到著ノ當月及歸朝ノ爲メ該地發程當月ノ學資金ハ發著當日ヲ以テ十五日前後ニ區分シ半額若クハ全額ヲ支給ス

歸朝ノ命ヲ受ケ其日ヨリ日數十五日ヲ經過シ發程セサルトキハ十五日前後ノ區分ヲ以テ學資金ヲ停止ス

第八條 留學地ヲ轉シタルカ爲メ學資金ニ増減アルトキハ到著ノ日ヲ以テ十五日前後ニ區分シ多額ニ就キ支給ス外國在留ノ者ニシテ留學ヲ命セラレタル當月ノ學資金ハ共辭令書到達ノ日ヲ以テ十五日前後ニ區分シ半額若クハ全額ヲ支給ス

第十一條 定規ノ順序ニ據リ該國ノ公使館或ハ領事館ヲ經テ之ヲ支給ス「ラ」之ヲ送致ス「ト」改ム

第十二條 留學地ニ到ルマテノ旅費及該地ニ於テ要シタル旅費ノ決算證明書ハ本人ヨリ直ニ會計局ニ送致スヘシ但殘金アルトキハ會計局ハ次期以降送致ノ學資金ヨリ之ヲ引去リ返納ニ充ツ又不足アルトキハ次期以降ノ學資金ト共ニ支給ス

第十三條全文刪除
學資金年額表ニ左ノ備考ヲ追加ス

備考 在官者ニ留學ヲ命シタルトキ特ニ費用ヲ要スル場合
ハ一箇年或千圓マテノ學資金ヲ給スルコトアルヘシ

○海軍省達第二百七十八號

明治十九年六月省令第四十四號日給技手以下定時間外服業増働料支給方ノ件ヲ廢ス
明治二十二年七月二十二日
海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第二百七十九號

海軍工場定時間外服業者及潜水者加給規則左ノ通定ム
明治二十二年七月二十二日
海軍大臣伯爵西郷從道

海軍工場定時間外服業者及潜水者加給規則

第一條 上等技工及工夫ヲ定時間外服業セシムルトキ及潜水器ヲ用フル事業ニ従事セシムルトキノ手當金加給ハ左表ニ依ル

種別	區	別
定時間外服業者	自停業時刻至午後七時	每一時間給額
	自午後七時至同十時	手當金十分ノ一
	自午前四時至始業時刻	同 十分ノ三
	自午後十時至午前四時	同 十分ノ二
潜水者	水深五尋以内	同 十分ノ三
	水深五尋以外	同 十分ノ四

第二條 日給技手及雇員備人ヲ定時間外工業若クハ工場内ノ役務ニ従事セシムルトキハ每一時ニ付日給十分ノ一ヲ加給ス

第三條 職工人夫ヲ定時間外服業セシムルトキハ第一條ニ準シ日給ヲ加給ス

第四條 日給技手及職工人夫ヲ潜水器ヲ用フル事業ニ従事セシムルトキハ第一條ニ準シ日給ヲ加給ス

第五條 造船部兵器部建築部造兵廠火藥工廠水路部及小野濱造船所ノ工場ニ於テ服業スル者ニ限リ水則ニ依リ手當金若クハ日給ヲ加給ス

第六條 公暇日ニ服業セシムルモ定時間内ハ付給スルノ限ニ在ラス

○海軍省達第二百八十號
明治二十二年六月勅令第八十五號海軍軍人俸給令第三條及第四條中ノ「在職」ニハ修學ヲ命セラレタル者モ含有スル義ト心得可シ

明治二十二年七月二十二日
海軍大臣伯爵西郷從道

○宮内省達第十號
宮内省官制ヲ改定スルコト左ノ如シ

明治二十二年七月二十三日
奉 勅

宮内大臣子爵土方久元

宮内省官制

第一條 宮内大臣ハ皇室ニ關スル一切ノ事務ヲ總判シ所部各官ヲ統督シ兼テ華族ヲ監督ス

第二條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタルモノヲ除クノ外勅ヲ奉レテ皇室ニ關スル諸法規ヲ制定施行スルコトヲ得但法律勅令ニ抵觸スルコトヲ得ス

第三條 宮内大臣ハ皇室典範ニ於テ制定セラレタル主務及前條法規ニ關シ施行細則ヲ定ムルコトヲ得但其重要ナルモノハ裁可ヲ經可シ

第四條 宮内大臣ハ例規ニ依リ宮儀祭典行幸行啓其他主任ニ關スル皇室事務ニ關シ臣民ニ命令告

示スルコトヲ得

第五條 宮内大臣ハ臨時勅ヲ奉シ若クハ例規ニ依リ救恤褒賞贈賜ノ事ヲ施行ス

第六條 宮内大臣ハ主任ノ事務ニ關シ警視總監北海道廳長官府縣知事ニ示命スルコトヲ得

第七條 宮内大臣ハ事故アルトキハ次官ヲシテ其職務ヲ代理セシムルコトヲ得又次官事故アルトキ及所部各部長缺員若クハ事故アルトキハ裁可ヲ經テ所部高等官ニ其代理ヲ命スルコトヲ得

第八條 宮内大臣ハ次官及所部各部長ニ其事務ノ幾部ヲ委任スルコトヲ得

第九條 宮内大臣ハ所部各部長ノ各課ヲ廢置分合シ及其處務規程ヲ定ムルコトヲ得

第十條 宮内大臣ハ所部委任官ノ進退ハ之ヲ上奏シ判任官ノ進退及委任官以下俸給定限内ノ増減ハ之ヲ專行ス准官モ亦同シ

第十一條 宮内大臣ハ所部各官定限内ニ於テ委任官試補判任官見習ヲ置クコトヲ得准官モ亦同シ

第十二條 宮内大臣ハ裁可ヲ經ルニ非サレハ官制定限外ニ所部高等官ヲ増加シ又ハ兼任ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 宮内大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ裁可ヲ經テ勅委任官又ハ華族ニ委員ヲ命スルコトヲ得其所部外ニ涉ル者ハ豫メ該長官ノ承諾ヲ受ク可シ

第十四條 宮内大臣ハ帝室ノ事務ニ關シ必要ノ場合ニ於テハ補助員顧問評議員ヲ置クコトヲ得其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ裁可ヲ請フ可シ

第十五條 宮内大臣ハ裁可ヲ經テ人員及其待遇ノ資格ヲ定メ華族ニ勅務ヲ命スルコトヲ得其委任以上ノ待遇ニ屬スル者ハ上奏ス可シ

第十六條 宮内大臣ハ豫算金額内ヲ以テ所部官吏及委員補助員顧問評議員勅務華族ニ賞與又ハ報酬ヲ爲スコトヲ得其實與ノ委任以上及同等ノ待遇ニ屬スルモノハ上奏ス可シ

第十七條 宮内大臣ハ旨ヲ奉レテ皇族ノ敍勅ヲ賞勳局總裁ニ示命ス可シ又所部官吏ノ敍勅ハ賞勳局總裁ニ申牒ス可シ

第十八條 宮内大臣ハ例規ニ依リ文武官宮内官及華族士民ノ敍位ヲ上奏及奉宣ス

第十九條 宮内大臣ハ事務ノ現況ニ依リ所部官吏ニ非職休職ヲ命シ又ハ復職セシムルコトヲ得其勅任官ニ係ルモノハ裁可ヲ請フ可シ

第二十條 宮内大臣ハ例規ニ照シ所部官吏及華族ヲ懲戒スルコトヲ得

第二十一條 宮内大臣ハ毎年二月後年度ノ收支豫算ヲ調製シ裁可ヲ經テ之ヲ定ム可シ但己ムヲ得サルノ事故アリテ臨時増額又ハ別途支出ヲ要スルコトアルトキハ裁可ヲ請フ可シ

第二十二條 宮内大臣ハ毎年八月前年度ノ收支結算ヲ了シ之ヲ上奏ス可シ

第二十三條 宮内大臣ハ帝室會計審査ノ實務ニ關シシムルコトヲ得

第二十四條 宮内省ニ宮内次官一人ヲ置ク勅任一等トス宮内大臣ヲ輔ケテ省務ヲ管理ス又大臣ヨリ委任ヲ受ケタル事務ハ之ヲ專行ス

第二十五條 宮内省ニ宮内書記官六人ヲ置ク委任トス宮内大臣及次官ノ命ヲ承ケ省務ヲ掌理ス但親王ニ專屬スル書記官ヲ置クハ此限ニ在ラス

第二十六條 宮内大臣官房ニ左ノ職員ヲ置キ官房ノ庶務ヲ管理ス
宮内大臣秘書官 二人 委任

大臣ニ專屬シテ文書往復其他官房内ノ庶務ヲ掌理ス但省務ノ現況ニ依リ書記官又ハ各部長ノ事務ヲ補助セシムルコトアル可シ

宮内屬 判任

第二十七條 宮内省ニ内事外事調査ノ三課ヲ設ケ左ノ職員ヲ置キ事務ヲ統理ス

内事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補
 内事ニ屬スル事務ヲ掌理シ監督ス
 内事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補
 課務ヲ掌理ス
 外事課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補
 外事ニ屬スル事務ヲ掌理シ監督ス
 外事課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補
 課務ヲ掌理ス
 調査課長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補
 帝室ニ關スル制令法規及財産財務ニ關スル文案ヲ起草審査シ兼テ報告統計ノ事ヲ掌理シ課員ヲ監督ス
 調査課次長 一人 宮内書記官又ハ省中高等官ヨリ兼補
 課務ヲ掌理ス
 宮内廳 判任
 第二十八條 宮内省ニ左ノ各部局ヲ設ケ事務ヲ分管ス
 侍從職
 式部職
 皇太后宮職
 皇后宮職
 内藏寮

御料局
 爵位局
 大膳職
 主殿寮附書寫寮
 圖書寮
 内匠寮
 主馬寮
 諸陵寮
 侍醫局
 主獵局
 調度局
 帝室會計審査局
 第二十九條 侍從職ニ左ノ職員ヲ置キ常侍奉仕シ主管ニ屬スル御服御物ヲ管守ス
 侍從長 一人 親任
 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
 侍從 十五人 勅任二等又ハ奏任四等以上
 常侍奉仕シ御服御物ヲ分管ス
 侍從試補 三人 奏任五等六等
 學侍從ニ亞シ
 侍從屬 判任

第三十條 式部職ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ祭儀典式及雅樂ノ事ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

但式部官掌典ハ名譽職ヲ置クコトヲ得

- 式部長 一人 勅任
- 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
- 式部次長 一人 勅任二等
- 職務ヲ掌理ス
- 式部主事 二人 奏任 式部官ヨリ兼任
- 庶務ヲ掌理ス
- 式部官 十五人 奏任
- 儀式ノ務ニ服ス
- 式部屬 一人 判任
- 掌典長 一人 勅任
- 掌典ヲ掌ル
- 掌典 九人 奏任
- 祭典ニ從事ス
- 掌典補 判任
- 雅樂部長 一人 准奏任三等四等 式部官掌典ノ内ヨリ兼任
- 樂部ヲ掌理シ部員ヲ監督ス
- 雅樂部副長 一人 准奏任五等六等

掌部長ニ亞シ

- 伶人長 准判任
- 伶人 准判任
- 伶員 等外
- 樂師長 准判任
- 樂師 准判任
- 樂手 准判任
- 樂生 等外

第三十一條 皇太后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事ヲ管理シ供御服用度營繕及主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

- 皇太后宮大夫 一人 勅任
- 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
- 皇太后宮亮 一人 奏任
- 職務ヲ掌理ス
- 皇太后宮屬 判任
- 宮丁 等外

第三十二條 皇后宮職ニ左ノ職員ヲ置キ宮事及内廷ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

- 皇后宮大夫 一人 勅任
- 職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス

皇后宮亮 一人 奏任
職務ヲ掌理ス

皇后宮屬
第三十三條 内藏寮ニ左ノ職員ヲ置キ皇室經費及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス
内藏頭 一人 勅任
寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
内藏助 一人 奏任
寮務ヲ掌理ス
内藏屬

第三十四條 御料局ニ左ノ職員ヲ置キ世傳御料及主管ニ屬スル財産會計ヲ管理ス
御料局長 一人 勅任
局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
御料局主事 三人 奏任
局務ヲ掌理ス
御料局理事 四人 奏任
支廳長ニ任ス其職制ハ別ニ之ヲ定ム
御料局屬
御料局技師 十二人 奏任
御料地ノ實業ニ従事ス
御料局技手 判任

御料局技手補 判任六等以下
御料局監守 准判任六等以下

第三十五條 爵位局ニ左ノ職員ヲ置キ爵位及華族ニ關スル事務ヲ管理ス
爵位局長 一人 勅任
局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
爵位局主事 三人 奏任
局務ヲ掌理ス
爵位局屬
爵位局管理官 臨時省中高等官ヨリ兼補
華族懲戒管理ノ事ヲ掌ル

第三十六條 大膳職ニ左ノ職員ヲ置キ供御饗宴及其器具ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
但皇太后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス
大膳大夫 一人 勅任二等又ハ奏任一等
職務ヲ總理シ職員ヲ監督ス
大膳亮 一人 奏任二等以下
職務ヲ掌理ス
大膳屬 判任
膳部長 准判任三等以上
膳部副長 准判任四等以下六等以上

膳部

准判任八等以下
等外

第三十七條 主殿寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮及其附屬物件並ニ鎮鑪酒掃鋪設ニ關スル事務ヲ管理シ兼テ皇宮警察署ヲ統轄ス

但侍從職皇太后宮職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

主殿頭

一人 勅任二等又ハ奏任一等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

主殿助

二人 奏任二等以下

寮務ヲ掌理ス但一人ハ京都出張所長ニ補ス

主殿屬

判任

皇宮警察長

一人 奏任二等三等

宮殿離宮ノ守門防火警察ノ事ヲ掌理シ部下ヲ監督ス

皇宮警察次長

一人 奏任四等以下

皇宮警部

皇宮警部補

判任八等以上

皇宮警手

判任九等以下

舍人

等外

内舍人

准判任
准判任六等以下

仕人

等外

第三十八條 圖書寮ニ左ノ職員ヲ置キ帝室ノ圖書記録ヲ保管シ皇統譜皇族牒緝ニ關スル事務ヲ管理ス

圖書頭

一人 勅任二等又ハ奏任一等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

圖書助

一人 奏任二等以下

寮務ヲ掌理ス

圖書屬

判任

第三十九條 内匠寮ニ左ノ職員ヲ置キ宮殿離宮庭園及廳舍ノ土木ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

但皇太后宮職ノ主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス

内匠頭

一人 勅任二等又ハ奏任一等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス

内匠助

一人 奏任二等以下

寮務ヲ掌理ス

内匠屬

判任

内匠寮技師

五人 奏任

土木ノ實業ニ從事ス

内匠寮技手

判任

第四十條 主馬寮ニ左ノ職員ヲ置キ車馬乘具調馬及牧場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル

主馬頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等
 寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
 主馬助 一人 奏任二等以下
 寮務ヲ掌理ス
 主馬副 判任
 車馬監 一人 奏任三等以下
 車馬乘具ヲ管守シ馬匹飼養調習醫療ノ事ヲ監督ス
 調馬師 二人 奏任四等以下
 乘馬調習ニ従事ス
 馬醫師 一人 奏任四等以下
 馬匹醫療ニ従事ス
 主馬寮技師 二人 奏任
 牧場ノ事務長ニ任シ實務ニ従事ス
 馬醫 判任
 主馬寮技手 判任
 調馬手 准判任
 取者 准判任
 掌車 准判任
 第四十一條 諸陵寮ニ在ノ職員ヲ置キ陵墓ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 諸陵頭 一人 勅任二等又ハ奏任一等

寮務ヲ總理シ寮員ヲ監督ス
 諸陵助 一人 奏任二等以下
 寮務ヲ掌理ス
 諸陵副 判任
 守長 等外
 守部 等外
 第四十二條 侍醫局ニ在ノ職員ヲ置キ診候醫藥衛生ニ關スル事務ヲ管理ス
 侍醫局長 一人 勅任侍醫ヨリ兼任
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 侍醫 十六人 勅任二等又ハ奏任
 診候醫藥衛生ニ従事ス
 侍醫局主事 三人 奏任
 局務ヲ掌理ス
 醫員 判任
 藥劑師 判任
 侍醫局副 判任
 第四十三條 主獵局ニ在ノ職員ヲ置キ狩獵及獵場ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌ル
 但主獵官ハ名譽職トス
 主獵局長 一人 勅任二等又ハ奏任一等

局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 主獵局主事 一人 奏任二等以下
 局務ヲ掌理ス
 主獵官 十人 勅人二等又ハ奏任
 狩獵ニ從事ス
 主獵局屬
 主獵局監守長 准判任
 主獵局監守 等外
 第四十四條 調度局ニ左ノ職員ヲ從テ御服御物及宮中省中需用物品被服購買修補運搬ニ關スル事務ヲ管理シ主管ニ屬スル會計ヲ掌リ兼テ省中洒掃ノ事ヲ掌ル
 但皇太后宮職皇后宮職主管ニ屬スルモノハ此限ニ在ラス
 調度局長 一人 勅任二等又ハ奏任一等
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 調度局主事 一人 奏任二等以下
 局務ヲ掌理ス
 調度局屬
 網度局屬 判任
 第四十五條 帝室會計審査局ニ左ノ職員ヲ置テ帝室ノ財計ヲ監査ス
 帝室會計審査局長 一人 勅任
 局務ヲ總理シ局員ヲ監督ス
 帝室會計審査局主事 一人 奏任
 帝室會計審査局員 一人 帝室會計官ヨリ奏任

局務ヲ掌理ス
 帝室會計審査官 五人 奏任
 帝室ノ財計審査ヲ掌ル
 帝室會計審査局屬 判任
 第四十六條 前條々各官勅奏判ノ等級ニ規定ナキモノハ總テ勅任ハ一等二等奏任ハ一等ヨリ六等ニ至リ判任ハ一等ヨリ十等ニ至ルモノトス准官モ亦同シ但伶人長伶人樂師長樂師樂手監守長ハ等級ヲ設ケス
 第四十七條 省中各官同等内ノ順序ハ任官ノ前後ニ依ル准官モ亦同シ
 第四十八條 奏任官ノ官等ハ每等在職五年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ其期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ
 第四十九條 判任官五等以上ハ每等在職四年六等以下ハ每等在職三年ヲ踰ユルニ非サレハ陞叙スルコトヲ得ス但其每等定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ定期ヲ踰ユルト雖モ昇等スルコトヲ得ス准官モ亦同シ
 第五十條 省中各官及准官ノ俸給ハ別紙甲乙丙三表ノ定ムル所ニ依ル
 第五十一條 勅任官ニシテ其官最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ特旨ヲ以テ一級上等ノ俸ヲ賜フコトアル可シ
 第五十二條 奏任官一等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ勞績拔群顯著ナル者ハ宮内大臣ノ上奏ニ依リ其俸六分ノ一マテヲ増賜スルコトアル可シ
 第五十三條 判任官一等ニシテ最高額ノ俸ヲ受ケ三年ヲ踰ヘ勞績拔群顯著ナル者ハ漸次百圓マテ増俸スルコトアル可シ

第五十四條 等外ハ一年ヲ踰ユルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス但其毎給定員ヲ限ルモノハ缺員アルニ非サレハ増給スルコトヲ得ス

第五十五條 各部長ハ宮内大臣ニ具狀シ其部内委任官又ハ判任官ヲ以テ課長トナシ事務ヲ分掌セシムルコトヲ得課長事故アルトキハ該長官ニ於テ其部員ニ臨時代理ヲ命スルコトヲ得

第五十六條 次官各部長及書記官ハ皆命ヲ大臣ニ承ルモノトス其他各部長ハ皆命ヲ主務上官ニ承ルモノトス其直ニ命ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ命ヲ承タルト問ハス其主任ノ事務ニ付テハ各其責ニ任ス可シ准官モ亦同シ

但經常官ヲ奉シ又ハ大臣若クハ上官ノ委任ヲ承ク可キ條項及其處務規程ハ別ニ之レヲ定

第五十七條 第十一條ノ委任官試補判任官見習ハ試験ヲ經可キモノトス但教官技術官ハ當分ノ内試験ヲ要セス

第五十八條 試補ハ在職三年見習ハ在職二年ヲ踰ユルニ非サレハ本官ニ任スルコトヲ得ス但其本官ニ任スルハ試補ハ四等以下トシ見習ハ五等以下トス

第五十九條 各官廳ニ於テ曾テ滿五年以上委任官ヲ奉職セン者ハ前條ノ例ニ依ラス試験ヲ經テ直ニ本官ニ任スルコトヲ得准官モ亦同シ

第六十條 各部長ハ判任官ノ缺ヲ補フ爲メ備員ヲ置クコトヲ得其給額ハ本官俸ヲ踰ユルコトヲ得ス准官モ亦同シ

第六十一條 各部長ハ前條ノ外雜役ニ供スル備員ヲ必要トスルトキハ宮内大臣定ムル所ノ定員内ニ於テ之ヲ置クコトヲ得

第六十二條 省中判任官及其准官等外並ニ雜役ニ供スル備員ノ定員ハ宮内大臣之ヲ定ム可シ

宮内省高等官俸給表

官等	俸給		俸給		俸給		俸給		俸給	
	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等	一等	二等
第一級俸	六千	五千	四千	三千	二千	一千	一千	一千	一千	一千
第二級俸	五千	四千	三千	二千	一千	一千	一千	一千	一千	一千
第三級俸	四千	三千	二千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千
第四級俸	三千	二千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千
第五級俸	二千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千
第六級俸	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千
第七級俸	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千
第八級俸	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千	一千

一 俸額ハ親任官四級勅任官等七級委任官等八級トシ左項ノ別ニ依リ之ヲ賜給ス

親任官

一 宮内大臣ハ第一級俸ヲ賜フ

一 侍從長ハ第二級俸第三級俸第四級俸ノ内ヲ賜フ

勅任官

一 宮内次官ハ第一級俸第二級俸第三級俸ノ内ヲ賜フ

一 式部長次官及皇太后宮大夫皇太后宮内職頭御料局長爵位局長大膳大夫主殿頭書頭内匠頭主馬頭諸頭頭主御料局長調度局長常陸守計置書局長ハ各其地位ニ依リ第三級俸第四級俸第五級俸第六級俸ノ内ヲ賜フ

一 侍從長侍從ハ第二級俸第三級俸第四級俸第五級俸ノ内ヲ賜フ

○海軍省令第二百八十一號

明治十七年十月丙第百三十七號海軍省令中第一條第二條第三條第四條第五條第六條第八條第九條第二十八條第二十九條第三十條第三十二條及第三十五條以下ノ各條ヲ廢シ他ノ諸條中「司令長官」下ノ「司令官」三字ヲ刪リ「司令次官」ヲ「司令官」ト改ム

明治二十二年七月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第二百八十二號

明治十七年十月丙第百四十二號海軍省令中第一條第二條第三十四條第四十三條第五十二條第五十三條第六十條第六十六條第七十八條第八十三條第九十條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百零一條第一百零二條第一百零三條第一百零四條第一百零五條第一百零六條第一百零七條第一百零八條第一百零九條第一百一十條第一百一十一條第一百一十二條第一百一十三條第一百一十四條第一百一十五條第一百一十六條第一百一十七條第一百一十八條第一百一十九條第一百二十條第一百二十一條第一百二十二條第一百二十三條第一百二十四條第一百二十五條第一百二十六條第一百二十七條第一百二十八條第一百二十九條第一百三十條第三十一條第三十二條第三十三條第三十四條第三十五條第三十六條第三十七條第三十八條第三十九條第四十條第四十一條第四十二條第四十三條第四十四條第四十五條第四十六條第四十七條第四十八條第四十九條第五十條第五十一條第五十二條第五十三條第五十四條第五十五條第五十六條第五十七條第五十八條第五十九條第六十條第六十一條第六十二條第六十三條第六十四條第六十五條第六十六條第六十七條第六十八條第六十九條第七十條第七十一條第七十二條第七十三條第七十四條第七十五條第七十六條第七十七條第七十八條第七十九條第八十條第八十一條第八十二條第八十三條第八十四條第八十五條第八十六條第八十七條第八十八條第八十九條第九十條第九十一條第九十二條第九十三條第九十四條第九十五條第九十六條第九十七條第九十八條第九十九條第一百條

明治二十二年七月二十四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第二百八十三號

諸定員表中「主厨」下ノ「厨宰御菓子」ノ文字ヲ刪除シ筆記ト主厨ヲ併置セルモノニ在テハ筆記ヲ剛除シ其人員ヲ主厨ノ人員ニ等シテ區別アルモノニ在テハ「主厨」ト改ム又筆記ノミヲ置キタルモノニ在テハ「筆記」ト改ム主厨ノミヲ置キタルモノニ在テハ「主厨」ト改ム

○海軍省令第二百八十四號

諸定員表中「水雷工手」ヲ「機關手」ト改メ「機關手」ト併置セルモノニ在テハ其人員ヲ「機關手」ノ人員ニ

○海軍省令第二百八十五號

明治二十年十一月副令第百十九號水雷練習工概則第七條中「水雷工手」ヲ「機關手」ト改ム

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第二百八十六號

明治二十二年七月二十四日

○海軍省令第二百八十七號

軍樂生志願入通學中ハ食料一食毎ニ金五錢ヲ給シ自辨セシムルコトヲ得

明治二十二年七月二十四日

○海軍省令第二百八十八號

本月達第百四十二號雇員傭人職工入夫給與規則第六條中「毎月二十七日」ハ「毎月二十日」ト改ム

文官ト同日ト改ム

明治二十二年七月二十四日

○陸軍省令第二百八十九號

乘馬本分タル士官以上飼養スル所ノ馬匹ニシテ行軍又ハ演習中病ニ罹リ治療ヲ施シタルトキ之ニ要スル費用ハ官馬自馬ヲ問ハス自今總テ演習諸費中ヨリ支辨スヘシ

但行軍及演習中騎馬又ハ傳染病等ノ爲メ撲殺セシ馬匹取片付費用モ木文ニ準シ取扱フヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十一號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十二號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十三號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十四號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十五號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十六號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

明治二十二年七月二十五日

○陸軍省令第二百九十七號

給與概則第七章中左ノ通改正加除候條來ル八月一日ヨリ施行スヘシ

第三十二條某校ノ下ニ(所)ノ一字ヲ追加シ第十一條第二項及憲兵本部ノ五字ヲ削除ス

明治二十二年七月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省第二十四號

明治二十一年十一月陸軍省第二十四號陸軍隊附醫官服務規則第一條第二項憲兵隊及ノ四字ヲ削除シ第十條第十六項帳簿保存期ノ文中「其九ハ毎月」トアルヲ「其二ハ毎月」ニ改メ同號診斷所規程第二條砲兵射的學校ノ次キニ要塞砲兵幹部練習所ノ九字「其校」ノ下ニ(所)ノ一字ヲ追加ス

陸軍大臣伯爵大山 巖

明治二十二年七月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○陸軍省第二十五號

明治二十一年五月陸軍省第二十八號衛生部治療器械並調理器械定數表中第一表救護團病院並ノ醫入外科器械二等醫療器械並調理行李聽診器打診器壓舌子診察箱各一具ヲ減シ砲兵射的學校病室並ニ要塞砲兵幹部練習所ノ九字ヲ追加シ又同表備考第三項砲兵射的學校ノ下ニ要塞砲兵幹部練習所ノ九字ヲ加フ

明治二十二年七月二十六日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省第二十八十九號

海軍軍人俸給及手當金支給細則第三十二條左ノ通改正ス

明治二十二年七月二十六日

海軍大臣伯爵西郷從道

第三十二條 手當金ハ毎月末日ハ(休暇ニ當ルトキ)

之ヲ支給ス但技工工夫ノ手當金ハ翌月七日マテ

ニ支給スルコトヲ得

○宮内省第十三號

本年五月遼第六號帝國博物館官制總長職制中帝國博物館一切ノ事務ヲ管理シノ下ヘ帝室ノ寶器ヲ保管シノ九字ヲ加フ

明治二十二年七月二十七日

宮内大臣子爵土方久元

奉 勅

○宮内省第十四號

本年五月遼第六號帝國博物館官制中理事四人ヲ五人ト改ム

明治二十二年七月二十七日

宮内大臣子爵土方久元

奉 勅

○陸軍省第二十六號

平時工兵一大隊編制表中左ノ通り改正セラル

明治二十二年七月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

一中隊乘馬ノ横班中、中尉、少尉ノ下ハ各二ヲ加ヘ其計及合計ノ「二」ヲ「五」ニ改メ大隊計乘馬ノ横班中「五」ヲ「一七」トシ其計及合計ノ「六」ヲ「一八」ニ改ム

○陸軍省第二十七號

近衛工兵一中隊編制表中左ノ通り改正セラル

明治二十二年七月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

馬匹ノ横班中、中少尉ノ部ノ縦線ヲ削リ乘馬五ヲ加ヘ其合計ヲ「六」ニ改ム

○陸軍省第二十八號

今般近衛各師團工兵隊附中少尉乘馬ノ制ニ被改候處右ハ二十三年度ヨリ實施ノ儀ト心得ヘシ

明治二十二年七月二十七日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省達第二百九十號

千代田八重山定員別表ノ通定

明治二十二年七月二十七日

(別表)

千代田定員表

官名	職名	人員	官名	職名	人員	職名	人員
大 尉	艦 長	一	大 尉	艦 長	一	大 尉	艦 長
少 佐	副 艦 長	一	少 佐	副 艦 長	一	少 佐	副 艦 長
大 尉	砲 術 長	一	大 尉	砲 術 長	一	大 尉	砲 術 長
大 尉	水 雷 長	一	大 尉	水 雷 長	一	大 尉	水 雷 長
大 尉	航 海 長	一	大 尉	航 海 長	一	大 尉	航 海 長
大 尉	分 隊 士	三	大 尉	分 隊 士	三	大 尉	分 隊 士
機 關 少 監	機 關 長	一	機 關 少 監	機 關 長	一	機 關 少 監	機 關 長
大 機 關 士	機 關 主 機 師	一	大 機 關 士	機 關 主 機 師	一	大 機 關 士	機 關 主 機 師
少 機 關 士	機 關 手 機 師	三	少 機 關 士	機 關 手 機 師	三	少 機 關 士	機 關 手 機 師
大 軍 醫	軍 醫 長	一	大 軍 醫	軍 醫 長	一	大 軍 醫	軍 醫 長
少 軍 醫	軍 醫 副 長	一	少 軍 醫	軍 醫 副 長	一	少 軍 醫	軍 醫 副 長
大 主 計	主 計 長	一	大 主 計	主 計 長	一	大 主 計	主 計 長
少 主 計	主 計 副 長	一	少 主 計	主 計 副 長	一	少 主 計	主 計 副 長
機 關 師	機 關 師	一	機 關 師	機 關 師	一	機 關 師	機 關 師
二 等 船 匠 手	二 等 船 匠 手	二	二 等 船 匠 手	二 等 船 匠 手	二	二 等 船 匠 手	二 等 船 匠 手
一 等 船 匠 手	一 等 船 匠 手	二	一 等 船 匠 手	一 等 船 匠 手	二	一 等 船 匠 手	一 等 船 匠 手
三 等 船 匠 手	三 等 船 匠 手	二	三 等 船 匠 手	三 等 船 匠 手	二	三 等 船 匠 手	三 等 船 匠 手
一 等 看 護 手	一 等 看 護 手	一	一 等 看 護 手	一 等 看 護 手	一	一 等 看 護 手	一 等 看 護 手
二 等 看 護 手	二 等 看 護 手	一	二 等 看 護 手	二 等 看 護 手	一	二 等 看 護 手	二 等 看 護 手
三 等 看 護 手	三 等 看 護 手	一	三 等 看 護 手	三 等 看 護 手	一	三 等 看 護 手	三 等 看 護 手
一 等 水 兵	一 等 水 兵	三十六	一 等 水 兵	一 等 水 兵	三十六	一 等 水 兵	一 等 水 兵
二 等 水 兵	二 等 水 兵	四十五	二 等 水 兵	二 等 水 兵	四十五	二 等 水 兵	二 等 水 兵
三 等 水 兵	三 等 水 兵	五十	三 等 水 兵	三 等 水 兵	五十	三 等 水 兵	三 等 水 兵
一 等 水 兵(借 號)	一 等 水 兵(借 號)	一	一 等 水 兵(借 號)	一 等 水 兵(借 號)	一	一 等 水 兵(借 號)	一 等 水 兵(借 號)
二 等 水 兵(借 號)	二 等 水 兵(借 號)	一	二 等 水 兵(借 號)	二 等 水 兵(借 號)	一	二 等 水 兵(借 號)	二 等 水 兵(借 號)
三 等 水 兵(借 號)	三 等 水 兵(借 號)	二	三 等 水 兵(借 號)	三 等 水 兵(借 號)	二	三 等 水 兵(借 號)	三 等 水 兵(借 號)

海軍大臣伯爵西郷從道

八重山定員表

官名	職名	人員	官名	職名	人員	官名	職名	人員
大 尉	艦 長	一	大 尉	艦 長	一	大 尉	艦 長	一
少 佐	副 艦 長	一	少 佐	副 艦 長	一	少 佐	副 艦 長	一
大 尉	砲 術 長	一	大 尉	砲 術 長	一	大 尉	砲 術 長	一
大 尉	水 雷 長	一	大 尉	水 雷 長	一	大 尉	水 雷 長	一
大 尉	航 海 長	一	大 尉	航 海 長	一	大 尉	航 海 長	一
大 尉	分 隊 士	三	大 尉	分 隊 士	三	大 尉	分 隊 士	三
機 關 少 監	機 關 長	一	機 關 少 監	機 關 長	一	機 關 少 監	機 關 長	一
大 機 關 士	機 關 主 機 師	一	大 機 關 士	機 關 主 機 師	一	大 機 關 士	機 關 主 機 師	一
少 機 關 士	機 關 手 機 師	三	少 機 關 士	機 關 手 機 師	三	少 機 關 士	機 關 手 機 師	三
大 軍 醫	軍 醫 長	一	大 軍 醫	軍 醫 長	一	大 軍 醫	軍 醫 長	一
少 軍 醫	軍 醫 副 長	一	少 軍 醫	軍 醫 副 長	一	少 軍 醫	軍 醫 副 長	一
大 主 計	主 計 長	一	大 主 計	主 計 長	一	大 主 計	主 計 長	一
少 主 計	主 計 副 長	一	少 主 計	主 計 副 長	一	少 主 計	主 計 副 長	一
機 關 師	機 關 師	一	機 關 師	機 關 師	一	機 關 師	機 關 師	一
二 等 船 匠 手	二 等 船 匠 手	二	二 等 船 匠 手	二 等 船 匠 手	二	二 等 船 匠 手	二 等 船 匠 手	二
一 等 船 匠 手	一 等 船 匠 手	二	一 等 船 匠 手	一 等 船 匠 手	二	一 等 船 匠 手	一 等 船 匠 手	二
三 等 船 匠 手	三 等 船 匠 手	二	三 等 船 匠 手	三 等 船 匠 手	二	三 等 船 匠 手	三 等 船 匠 手	二
一 等 看 護 手	一 等 看 護 手	一	一 等 看 護 手	一 等 看 護 手	一	一 等 看 護 手	一 等 看 護 手	一
二 等 看 護 手	二 等 看 護 手	一	二 等 看 護 手	二 等 看 護 手	一	二 等 看 護 手	二 等 看 護 手	一
三 等 看 護 手	三 等 看 護 手	一	三 等 看 護 手	三 等 看 護 手	一	三 等 看 護 手	三 等 看 護 手	一
一 等 水 兵	一 等 水 兵	十三	一 等 水 兵	一 等 水 兵	十三	一 等 水 兵	一 等 水 兵	十三
二 等 水 兵	二 等 水 兵	二十一	二 等 水 兵	二 等 水 兵	二十一	二 等 水 兵	二 等 水 兵	二十一
三 等 水 兵	三 等 水 兵	四十二	三 等 水 兵	三 等 水 兵	四十二	三 等 水 兵	三 等 水 兵	四十二
一 等 水 兵(借 號)	一 等 水 兵(借 號)	一	一 等 水 兵(借 號)	一 等 水 兵(借 號)	一	一 等 水 兵(借 號)	一 等 水 兵(借 號)	一
二 等 水 兵(借 號)	二 等 水 兵(借 號)	一	二 等 水 兵(借 號)	二 等 水 兵(借 號)	一	二 等 水 兵(借 號)	二 等 水 兵(借 號)	一
三 等 水 兵(借 號)	三 等 水 兵(借 號)	二	三 等 水 兵(借 號)	三 等 水 兵(借 號)	二	三 等 水 兵(借 號)	三 等 水 兵(借 號)	二

少尉		航海士		船匠師		一等木工		二等木工	
分隊士	三	四	二等船匠手	二等船匠手	一等船匠手	二等鍛冶	一等鍛冶	二等鍛冶	一等鍛冶
機關少監	機關長	機關師	機關師	一等機關手	二等機關手	一等火夫	二等火夫	三等火夫	四等火夫
大機關士	水雷主機	水雷主機	水雷主機	二等機關手	三等機關手	一等火夫	二等火夫	三等火夫	四等火夫
少機關士	機關士	機關士	機關士	二等機關手	三等機關手	一等火夫	二等火夫	三等火夫	四等火夫
大軍醫	軍醫長	軍醫長	軍醫長	二等看護手	三等看護手	一等看護夫	二等看護夫	三等看護夫	四等看護夫
少軍醫	軍醫	軍醫	軍醫	二等看護手	三等看護手	一等看護夫	二等看護夫	三等看護夫	四等看護夫
大主計	主計長	主計長	主計長	一等主帳	二等主帳	一等主帳	二等主帳	三等主帳	四等主帳
少主計	主計	主計	主計	二等主帳	三等主帳	二等主帳	三等主帳	四等主帳	五等主帳

○海軍省選第二百九十一號

鎮守府監護用使給仕他丁定員及配置表中横須賀鎮守府造船部ノ監護定員二十六ヲ三十二ト改メ

明治二十二年七月二十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第二百九十二號

砲術長水雷長航海長ノ普通ニ服務スル場合ハ艦務ノ都合ニ依リ艦長適宜之ヲ定ムルコトヲ得

明治二十二年七月二十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第二百九十三號

各廳勤務ノ下士卒及練習員ノ被服給與ハ其本籍海兵團ニ於テ取扱フヘシ

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月二十九日

○海軍省選第二百九十四號

舊常備小艦隊ハ自今常備艦隊ト稱スル儀ト心得ヘシ

明治二十二年七月二十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸選第二百九十九號

明治二十二年七月二十九日 陸選第二百九十九號本省城陸軍諸官衙玄關番以下定員表本省給仕ノ區畫三三三ヲ三四ニ改メ第四師團司令部中監督部門番ノ區畫ヘニヲ追加ス

陸軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月三十一日

○海軍省選第二百九十五號

下士卒進級條例第十二條ニ左ノ但書ヲ加フ

明治二十二年七月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

但信號卒業ノ者及現今信號教授ノ職ニ在ル者ハ此限ニ在ラス

○海軍省選第二百九十六號

横須賀鎮守府定員表中豫備艦長ノ下ノ欄内ノ下士卒ヲ「乘員」ト改メ造船部ノ欄内工夫ノ下ノ若干ヲ「千七百五十二」ト改メ

明治二十二年七月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省選第二百九十七號

與鎮守府定員表中左ノ通改正ノ備考ノ欄中知港事ノ下ニ木表ノ外所屬船艇乘員ヲ世クノ十九字ヲ刪除ス

明治二十二年七月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

明治二十二年七月

陸軍省選第二百九十九號 海軍省選第二百九十四號 第二百九十五號 第二百九十六號 第二百九十七號 三四九

○海軍省達第二百九十八號

佐世保鎮守府定員表中左ノ通改正シ備考ノ欄中「知港事」ノ下ニ木表ノ外所屬船艇乘員ヲ置クノ十
九字ヲ刪除ス

明治二十二年七月三十一日

海軍大臣伯爵西郷從道

豫備艦長 兵器部長ヲシテ 之ヲ兼ネシム	豫備艦長 機關長	豫備艦長 ヲ使役セシム		
豫備艦長副官 大尉	大尉			
知港事 佐官	佐官			
副知港事 大尉	大尉			
		上等兵曹 一等兵曹 二等兵曹 三等兵曹 一等機關手 二等機關手 三等機關手	一等水兵 二等水兵 三等水兵 一等火夫 二等火夫 三等火夫 四等火夫	三二 十八 三一

○宮内省達第十五號
華族女學校規則左ノ通改定ス

明治二十二年八月一日

華族女學校規則

宮内大臣子爵土方久元

華族

第一章 通則

第一條 本校ハ

皇后陛下の令旨に依り華族のために建られたる女學校にして宮内省の所轄たり

第二條 本校教育の趣旨ハ藝術を本として知識を發達せしめ高尚の性情を養ひ身體を強壯ならしめ上流の賢母眞妻たるべき者を陶冶するに在り

第三條 生徒ハ年齢滿六年以上滿十八年以下の華族の女子にして品行正しく體質修學に堪へ得べき者たるハ

但都合により士族平民の女子も入學を許すことあるハ

第二章 教科

第四條 教科を大別して小學科中學科と小學科を小分して初等小學科高等小學科と中學科を小分して初等中學科高等中學科と小學中學の毎等科を更に三學級と一學級を三學期に分つ

第五條 小學課程ハ初等の學科を授け中學課程は々々高等なる普通學科を授けて本校教育の趣旨を成就するものとす

第六條 本校の卒業生にして尙高等の學科を修めんと欲する者のために更に專修科を置き和文歐

解畫學音樂四科の中一科若くハ二科を專修せしむ

第七條 年齢既に長し普通の學科を修む暇なき者のために別科を置き二三の學科を授くること

ある一

第八條 授業時間は一日五時間とす

但土曜日は初等小學を二時間高等小學を三時間と一中學を四時間とす

第九條 小學中學の學科課程及授業時間の配當左表の如し

學科	初等小學科						高等小學科					
	第一級	第二級	第三級	第四級	第五級	第六級	第一級	第二級	第三級	第四級	第五級	第六級
算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術
國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文
修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身
地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理
歴史							歴史	歴史	歴史	歴史	歴史	歴史
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術
理科							理科	理科	理科	理科	理科	理科
衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科							家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
算術							算術	算術	算術	算術	算術	算術
國文							國文	國文	國文	國文	國文	國文
修身							修身	修身	修身	修身	修身	修身
地理							地理	地理	地理	地理	地理	地理
歴史							歴史	歴史	歴史	歴史	歴史	歴史
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
音楽							音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術							美術	美術	美術	美術	美術	美術
理科							理科	理科	理科	理科	理科	理科
衛生							衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
労働							労働	労働	労働	労働	労働	労働
体育							体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科							家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
算術							算術	算術	算術	算術	算術	算術
國文							國文	國文	國文	國文	國文	國文
修身							修身	修身	修身	修身	修身	修身
地理							地理	地理	地理	地理	地理	地理
歴史							歴史	歴史	歴史	歴史	歴史	歴史
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
音楽							音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術							美術	美術	美術	美術	美術	美術
理科							理科	理科	理科	理科	理科	理科
衛生							衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
労働							労働	労働	労働	労働	労働	労働
体育							体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科							家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科

一高等小學音樂科の中等科の生徒の修業により其一を教ふ

學科	初等小學科						高等小學科					
	第一級	第二級	第三級	第四級	第五級	第六級	第一級	第二級	第三級	第四級	第五級	第六級
算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術	算術
國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文	國文
修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身	修身
地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理	地理
歴史							歴史	歴史	歴史	歴史	歴史	歴史
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術	美術
理科							理科	理科	理科	理科	理科	理科
衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働	労働
体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科							家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
算術							算術	算術	算術	算術	算術	算術
國文							國文	國文	國文	國文	國文	國文
修身							修身	修身	修身	修身	修身	修身
地理							地理	地理	地理	地理	地理	地理
歴史							歴史	歴史	歴史	歴史	歴史	歴史
英語							英語	英語	英語	英語	英語	英語
音楽							音楽	音楽	音楽	音楽	音楽	音楽
美術							美術	美術	美術	美術	美術	美術
理科							理科	理科	理科	理科	理科	理科
衛生							衛生	衛生	衛生	衛生	衛生	衛生
労働							労働	労働	労働	労働	労働	労働
体育							体育	体育	体育	体育	体育	体育
家庭科							家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科	家庭科

學科	四		三		二		一	
	複命	小數	比例	同	上	百分	同	求
算術	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
代數	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
幾何	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
物理	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
化学	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
生物	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
植物	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
動物	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
衛生	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
音楽	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
美術	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
英語	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
漢語	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
算術	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上
總計	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上	同上

一 歐州の生徒の並により英語の中心一を教へ佛語を學ぶ者には初等中學第三級より文法を加ふ
 一 國語の生徒の並により初等中學第三級より國語洋語の中心一を教ふ
 一 高等中學科の生徒の並により通算洋語の並の中心一を教へ或は別種の花のみを教ふ
 一 音樂科の中等科の生徒の並により其一を教ふ

第三章 試業及證書

第十條 試業ハ毎學期の終に於て之を施行し主として其學期間に履修したる課業の成績を考定す之を學期試業と名づく
 第十一條 平常修學の成績を觀察し又ハ問題を設けて其成績を試問し點數を以て其優劣を評す之を平常成績と名づく
 第十二條 一學期の終毎に各學科の平常成績點に定期試業點を加へ二分したるものを以て一學科の成績を表し各學科の點を通過して一學期の成績を表し併せて生徒の席次を定む

但及第落第判定法ハ別に定むる所に據る
 第十四條 平常の行狀秀抜にして學力優等の者には學年末に於て褒賞を與ふることあるハ一
 第十五條 定期試業に缺席する者ハ出席の後追試業を行ふハ一
 第十六條 一學年間半數以上缺席する者及二學期の定期試業を受けざる者ハ一學級の卒業を認めざるを得ず
 第十七條 小學科及中學科毎級及第の者には該級卒業證書を授與し小學及中學全科卒業の者には全科卒業證書を授與す其書式左の如し

第一何號	證書
位階氏名何女或ハ姉妹	
校印	何年 何月 何日
何等小學第何級の學科を卒業せり依て之を證書す	
年月日	校名

第二何號	證書
位階氏名何女或ハ姉妹	
校印	何年 何月 何日
小學全科を卒業せり依て之を證書す	
年月日	校名

第十八條 學年ハ九月一日に始り翌年八月三十一日に終る之を一學級に配し三學期に分つ第一學

期ハ九月一日より十二月二十四日に至リ第二學期ハ一月十一日より三月三十一日に至リ第三學期ハ四月八日より七月三十一日に至ル

第十九條 一學年中休業日左の如ク

秋季皇靈祭

神嘗祭

天長節

新嘗祭

冬季休業 十二月二十五日より翌年一月十日まで

孝明天皇祭

紀元節

春季皇靈祭

神武天皇祭

春季休業 四月二日より七月まで

皇后陛下御誕辰

夏季休業 八月一日より開校紀念日

開校紀念日

日曜

第五章 入退學及缺席

第二十條 生徒の募集は毎學年の終に於てす尤缺員ある時ハ臨時入學を許すことあるハ一
第二十一條 入學志願の者は左の書式に準リ願書及學業履歷書を出すハ一

入學願用紙表頭紙

何府縣華族

位番氏名何女或ハ姉妹

何 年 齡

右ハ今般御校へ入學志願に付御許可下され度之に依て學業履歷書相添へ(履歷なき者ハ此段相願候也)

住所

右父兄或ハ後見人

位番 何 職 印

年月日

華族女學校

御中

學業履歷書

位番氏名何女或ハ姉妹

何 職

生所

生年月

現住所

父兄の官職或ハ業務

一年月日何地何幼稚園に入園或ハ何小學校に入學何科何年級修業又ハ卒業

一年月日何地何學校に入り或ハ何誰に就キ何年月間何學科修業用書何々
一 學業證書寫何々

右之通候也

第二十二條 入學願書ハ必ず正副二通を出シ又學業履歷無キ者ハ生年月生所現住所及父兄の官職
或ハ業務を別記シ之を願書に添へて差出すハシ

第二十三條 入學の許可を得たる者ハ左の書式に依り保證書を出すハシ
保證書

何府縣華族

位傳氏名何女或ハ姉妹

何 誰

右の者今般御校へ入學御許可相成候に付ては御校則並御告諭等堅く相守らせ勤學致さすハシ
候且木人在學中身上より起リ候事柄ハ一切引受申すハシ候依て保證書此の如く候也

東京府華族

住所

右保證人

位傳 何

誰 印

年月日

華族女學校

御中

第二十四條 保證人は必ず東京在籍の父兄若クハ宗親兩族の内を以て之に充つハシ若東京在籍の
父兄若クハ宗親兩族無キ者ハ校長の承認を経て他の東京在籍の者を以て之に充つることを得

但保證人は必ず其印鑑を本校へ差出一紙ハシ

第二十五條 保證人他府縣へ移轉する等已むを得ざる事故あるときハ前條の規則に依り更に保證
人を定め届出ツハシ

第二十六條 本校の生徒ハ修學半途にて妄りに退學することを許さず尤病氣或ハ已むを得ざる
事故に依り退學せんと欲するときは其事由を具シ許可を得ハシ

第二十七條 生徒ハ妄りに缺席することを許さず若シ病氣或ハ他の事故に依り已むを得ず缺席ハ
或ハ迴參する者ハ即日保證人若クハ父兄又は後見人より届出ツハシ

但病氣缺席一週間以上に亘る時は更に醫師の診断書を添へて届出ツハシ

第二十八條 放課時限に先ち退校せざるを得ざる事故ある時ハ保證人若クハ父兄又は後見人より
届出ツハシ

第六章 授業料

第二十九條 本校の生徒ハ毎月金壹圓より少なからず三圓より多からざる授業料を納むハシ
但本則第四章第十九條に定むる夏季休業の月は之を除く

第三十條 保證人ハ前條の範圍内に於て納額を定め左の書式に準り入學許可の日より三日間に届
出ツハシ

授業料納額届用紙寫

右の者授業料毎月金若干宛相納申すハシ候此段御届に及び候也

何 誰

右保證人

何 誰 印

年月日

華族女學校

御中

第三十一條 授業料納附期日ハ毎月三日ヨリ五日迄の三日間トス

但新に入學の月ハ納額届出の日を以て納附期日トス

第三十二條 本校の承認を経て一箇月間全く出席せざる者ハ其月分授業料の全額十五日後新に入學する者ハ其月分の半額を納附するに及ばず

第七章 生徒心得

第三十三條 本校の生徒たる者ハ常に 皇后陛下の命令を服膺して心を正しく一行為勵まし温良

貞淑の女徳を養成せんことを勉むべし

第三十四條 平素禮儀を厚く信義を重んじ又堅く學校の規則及教師を守るべし

第三十五條 常に飲食を節し運動を適宜に氣力を爽快にして身體を壯健にせんことを勉むべし

第三十六條 衣服は質素にして身體に適するを旨とし外觀の美を競ひて浮華に流るべからず

○海軍省令第二百九十九號

家族扶助金支給原表別紙ノ通定 (別紙略ス)

明治二十二年八月一日

○海軍省令第二百號

明治十九年九月要第六二五號訓令甲乙兩賜給與向通知書式中左ノ通追加ス

明治二十二年八月一日

「官職名稱及給姓名」一行ノ次ニ左ノ一行ヲ加フ

海軍大臣伯爵西郷從道

徴兵若クハ家族ヲ有セサル志願兵 官職名稱給姓名

一 被服明細表何葉ノ一行ノ次ニ左ノ一行ヲ加フ

一 家族扶助金明治何年何月迄支給済

一 家族扶助金支給原表 一葉

○海軍省令第二百一號

本年五月違第百二十八號官印ノ寸法及渡方ノ件第四項中各部長ノ下ニ「鎮守府會計監督部長各廳會計監督官」ノ十六字ヲ加ヘ第五項中會計主務官ヲ帶フルノ職員ノ下ニ「鎮守府主計部監獄課長」ノ十字ヲ加フ

明治二十二年八月一日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第三百二號

海軍内國旅費規則左ノ通改正ス

明治二十二年八月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍内國旅費規則

第一條 海軍内國旅費ハ命ヲ受ケ本邦内ヲ旅行スル者ニ之ヲ給ス

第二條 旅費ハ汽車料船舶料車馬賃及日當ノ四種トシ順路ノ路程ニ依リ之ヲ給ス

車馬賃ハ汽車ノ便ナキ地方ノ陸路旅行ニ際シ里數ニ應シ之ヲ給シ日當ハ宿泊料其他ノ諸費ニ充ル爲メ之ヲ給ス

第三條 旅費ノ等級ヲ分テ八等トシ日當及車馬賃ハ第一號表ニ依リ之ヲ給シ汽車料船舶料ハ第二號表ニ依リ之ヲ給ス

第二號表面ノ地ヲ旅行スルトキ汽車船舶ノ兩路アル場所ニ在テハ汽車料ヲ給ス

第四條 第二號表面外ノ地ヲ旅行スルトキハ其路程ニ應ル汽車料船料ノ定價及日當五割増ヲ給ス但旅行ノ各種ニ跨ル日當ハ日當ノ多額ヲ給ス

汽車料船料ノ定價ヲ給スルトキハ旅費等級四等以上ニ當ル者ハ上等トシ五等六等ニ當ル者ハ中等トシ中等ナキトキハ五等七等以下ニ當ル者ハ下等トス

第五條 第二號表面ノ各地間ヲ旅行スルトキハ特ニ令達アルモノノ外ハ他ノ路程ヲ經過スルモ該表ニ依リ其額ヲ給シ日當ハ旅行ノ現日數ニ拘ハラズ一日汽車路二百哩海路二百哩計ヲ以テ計算シ之ヲ給ス但汽車路ト海路トニ跨ル旅行ハ其合計里數ヲ以テ日數ヲ算出ス其十位以上ノ端數ハ一日ニ計算ス

第六條 旅行中購省其他私事ノ爲メ迂路ヲ經過スルトキハ其迂路ニ入りタル日ヨリ再ヒ順路ニ出タル前日マテハ旅費ヲ給セズ

第七條 文官委任三等以上ハ上長官四等以下ハ士官判任一等ハ准士官判任二等以下ハ下士ノ旅費等級ニ準ル相當ノ額ヲ給ス

第八條 將校准將校ノ生徒ニハ旅費等級六等其他ノ生徒ニハ旅費等級七等ノ額ヲ給ス

第九條 勤務廳所在及乘組船艇泊ノ市町村内ニ止ル旅行ニハ旅費ヲ給セズ

第十條 陸路六里汽車路十二哩海路十二哩未滿現ニ經過ノ旅行ニハ日當ヲ給セズ但勤務廳所在若クハ乘組船艇泊ノ市町村外ニ宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應リ日當ヲ給ス

旅行ノ各種ニ跨ルトキハ本條ノ割合ヲ以テ汽車路一哩海路一哩以上ヲ陸路里程ニ改算シ其内外ヲ區分スヘシ

第十一條 軍艦若クハ官有車馬又ハ各屬ニ於テ借入備入タル車馬等ニテ旅行スルトキハ日當ノミヲ給ス

官有船艇又ハ各屬ニ於テ借入備入タル船艇ニテ旅行スルトキモ亦前項ニ同シ但官ヨリ賄ヲナサハル場合ニ於テハ旅費等級一等ニハ日當四割増ヲ給シ旅費等級二等以下ニハ日當五割増ヲ給シ各種ニ跨ル日當ハ日當ノ多額ヲ給ス

前二項ノ場合ニ於テ船艇乘組ノ辭令書ヲ與ヘ出張セシムル者ニハ日當ヲ給セズ

第十二條 急行其他特殊ノ旅行ニ於テハ其性質ニ依リ舟車馬賃ノ實費拂フ許可スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ日當ノミヲ給ス

第十三條 武官准士官以上及文官勲勳勳乘ヲ命セラレ辭令書受領後三十日以内ニ左ニ掲グル事項ノ一ニ該ントキハ本人旅費ノ外別ニ各木項ノ路程ニ應リ汽車料船料及車馬賃ヲ給ス但家族母妻以下同シヲ携帶シ若クハ移轉セシムルトキハ所管長官ノ承認ヲ受クヘシ而シテ其發着ハ届出ツヘシ

一、甲屬ヨリ乙屬ニ轉勤ヲ命セラレタル者甲屬所在地若クハ家族所在地ヨリ乙屬所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

二、甲屬ヨリ乙屬船ニ轉乘ヲ命セラレタル者甲屬所在地若クハ家族所在地ヨリ乙屬船所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

三、甲屬船ヨリ乙屬船ニ轉乘ヲ命セラレタル者甲屬船所在地若クハ家族所在地ヨリ乙屬船所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

四、甲屬船ヨリ乙屬ニ轉勤ヲ命セラレタル者甲屬船所在地若クハ家族所在地ヨリ乙屬所在地ニ家族ヲ携帶シ若クハ移轉セシムル時

五、出張中甲屬若クハ甲屬船ヨリ乙屬若クハ乙屬船ニ轉勤轉乘ヲ命セラレ直チニ赴任スル者甲屬若クハ甲屬船所在地若クハ家族所在地ヨリ乙屬若クハ乙屬船所在地ニ家族ヲ移轉セ

シムル時

第十四條 前條ニ依リ別ニ汽車料船料及車馬賃ヲ給スルトキ第二號表面ノ各地間ハ其汽車料若クハ船料ノ額ヲ給シ其他ノ路程ハ總テ車馬賃ヲ給ス但陸路ヲ以テ計算セサル渡海ノ場所ハ海路ニ廻リ陸路一里ニ計算シ車馬賃ヲ給ス

第十五條 募兵檢閱視察陸地測量等ノ爲メ現場ヲ巡視スルトキハ其地へ到達ノ翌日ヨリ發程前日マテ車馬賃ヲ給セス共日數ニ應ジ日當ニ割増ヲ給ス但官有若クハ官備ノ舟車馬ヲ使用セシムルトキハ三割増ヲ給セス

甲地ヨリ乙地ニ移ルトキハ通常ノ旅費ヲ給ス

第十六條 水路測量出張ノトキハ測地到達ノ翌日ヨリ發程前日マテ車馬賃ヲ給セス日當ニ割増ヲ給ス

甲地ヨリ乙地ニ移ルトキハ通常ノ旅費ヲ給ス

第十七條 入學通學若クハ練習乗組ヲ命セラレタルトキハ其學校若クハ艦船所在地マテ通常ノ旅費ヲ給シ休職者某地滞在ヲ命セラレタルトキハ其地マテ通常ノ旅費ヲ給ス

第十八條 賜暇歸省又ハ發病ノ爲メ旅行中轉勤轉乘ヲ命セラレ若クハ休職トナリ某地滞在ヲ命セラレ舊在勤地若クハ舊艦船ニ歸到セシテ直ニ指定ノ地ニ赴クトキハ其所在地ヨリ指定地マテ其路程ニ應ジ相當ノ旅費ヲ給ス但本條ノ旅行中ニ於テハ第二十三條第七項ニ該ル者ニ給スル旅費モ亦本條ニ準ス

第十九條 旅行中免官廢官若クハ免役トナリタルトキハ舊在勤地若クハ舊艦船マテ從前ノ資格ヲ以テ相當ノ旅費ヲ給ス

第二十條 旅行中死亡シタルトキハ本人ノ居室マテ從前ノ資格ヲ以テ第十四條ニ準シ單ニ汽車料

船料及車馬賃ヲ給ス但下士卒及從僕割烹刺夫ハ此限ニアラス

第二十一條 免官廢官若クハ免役トナリ事務引繼或ハ職務取扱等ヲ命セラレ旅行スル者ニハ從前ノ資格ヲ以テ相當ノ旅費ヲ給ス

第二十二條 武文官ニ任用スル爲メ召喚セラレタルトキハ新任官相當ヲ以テ通常ノ旅費ヲ給ス

第二十三條 左ニ掲グル事項ノ一ニ該ルトキハ第一號表ノ日當並ニ汽車料船料ノ定價及車馬賃トシテ陸路一里毎ニ旅費等級四等以上ニ當ル者ニハ十錢五等以下ニ當ル者ニハ六錢ヲ給ス

一、銃砲射撃若クハ艦隊操練若クハ對抗運動見學及學術研究等ノ爲メ出張ヲ命セラレタル時

二、拜謁或ハ賢所參拜ヲ仰付ラレ又ハ敍位敍勳若クハ昇等轉任等ノ爲メ召喚セラレタル時

三、會計監督諸員其職務ヲ以テ各屬艦團隊ニ隨檢ノ爲メ旅行スル時

四、下士卒職業或ハ學術受驗ノ爲メ召喚セラレタル時

五、乘艦生徒下士卒及從僕割烹刺夫公暇上陸中ニ本艦出港ノ際追尾隨艦若クハ所管屬ニ歸到セシムル時

六、生徒下士卒及從僕割烹刺夫傷病疾病ニ罹リ治療ノ爲メ入院シ若クハ退院シ若クハ施療場所ヲ移轉セシムル時但重傷或ハ病症ニ依リ別ニ舟車若クハ肩輿等ヲ要スルトキハ所轄長ノ認可及ヒ軍醫ノ診斷ニ依テ其實費ヲ給ス

七、准士官以上休職ヲ命セラレ若クハ豫備後備ニ入り或ハ退役トナリ其日ヨリ一週日以内ニ

本人ノ居室ニ歸住スル時

八、豫備後備者召集ニ應スル時

九、旅費等級六等以下ニ當ル軍人軍屬職務上自己ノ不注意若クハ觀望ニ原因スル事件ニ付償

問說明等ノ爲メ召喚セラレタル時

第二十四條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ汽車料船舶料ノ定價及前條同額ノ車馬賃ヲ給シ日當ハ給セズ

一、准士官以上學術受驗ノ爲メ召喚セラレ、時

二、准士官以上公暇上陸中ニ本艦出港ノ際退尾歸艦若クハ所管屬ニ歸到セシムル時若クハ軍醫ノ診斷ニ依リ入院或ハ陸地療養ノ後歸艦スル時

三、准士官以上ノ軍人及軍屬被告事件ニ依リ軍法會議ニ於テ審問ノ爲メ召喚セラレ、時

四、會葬式ニ依リ施行スル准士官以上ノ葬式幹事若クハ共補助若クハ陪極者ニ指名サレタル時

五、旅費等級五等以上ニ當ル軍人軍屬職務上自己ノ不注意若クハ誤謬ニ原因スル事件ニ付致問説明等ノ爲メ召喚セラレ、時

第二十五條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ一日陸路十二里 隨地ノ以テ計算セサル渡海ノ改算ヲ以テ下士ハ日當五十錢 卒及從僕割烹刺夫ハ日當四十錢ヲ給ス官有若クハ官備ノ汽車船舶等ニテ旅行セシムルトキハ其日數ニ應シ本條ノ日當半額ヲ給ス但旅行ノ各程ニ跨ル日ハ日當ノ多額ヲ給ス又重傷或ハ病症ニ依リ別ニ舟車或ハ肩輿等ヲ要スルトキハ所轄長ノ認可及軍醫ノ診斷ニ依リ其實費ヲ給ス

一、豫備兵後備兵又ハ歸休兵ノ歸郷ニ若クハ召集セラレ、時

二、下士卒滿期ニ依リ現役ヲ退キ若クハ免官免役トナリ歸郷スル時

三、從僕割烹刺夫解備トナリ其備入地ニ歸到スル時但品行不正若クハ犯罪ニ因ル者ハ此限ニアラス

第二十六條 左ニ掲クル事項ノ一ニ該ルトキハ休泊膳料及其他ノ諸費トシテ旅費等級二等以上ニ

當ル者ニハ日當八十錢 四等以上ニ當ル者ニハ日當五十錢 五等以下ニ當ル者ニハ日當三十錢 以內ノ休泊膳料トシテ之ヲ給ス又舟車馬ヲ要スル場合ニハ汽車料船舶料ノ定價及車馬賃ノ實費ヲ給ス

一、演習行軍或ハ端舟乘組出張衛兵交代其他隊伍ヲ組ミ旅行スル時及行軍演習ノ際旅費等級二等以上ニ當ル者ノ從者隨行スル時但單身旅行ト雖モ本項ニ掲クル事項ニ關スル職務ヲ帶ヒ旅行スル時ハ本條ニ依ル

二、生徒下士卒從僕割烹刺夫四人以上同地ニ旅行スル時及士官之ヲ引率スル時但被告人犯罪人及患者等ハ此限ニアラス

第二十七條 生徒下士卒及雇員以下被告事件若クハ懲罰處分ニ依リ旅行シ又ハ刑期滿限ニ依リ歸郷トシテ下同ノ歸郷トシテモスルトキハ汽車料船舶料ノ定價及第二十三條ニ掲クル車馬賃ト同額ノ車馬賃ノ實費ヲ給ス但滞在或ハ途中宿泊ヲ要スルトキハ其泊數ニ應シ別ニ一日二十五錢ヲ給ス

第二十八條 軍法會議ニ於テ證人鑑定人醫師若クハ通辨人ヲ呼出シタルトキハ刑法附則第四十九條第五十條ニ依リ旅費ヲ給ス

第二十九條 公務ノ爲メ華士族及平民ニ旅行セシムルトキハ華族及從六位勳六等以上ノ者ニハ旅費等級四等正七位勳七等以下ノ者ニハ旅費等級六等無位無勳ノ者ニハ旅費等級八等ノ額ヲ給ス

第三十條 備外國人ニ旅行セシムルトキハ其身分取扱ニ依リ勅任官相當ノ者ニハ旅費等級二等 奏任官相當ノ者ニハ旅費等級三等 判任官相當ノ者及別ニ身分取扱ヲ定メサル教師ニハ旅費等級四等 其他ノ者ニハ總テ旅費等級七等ノ額ヲ給ス

第三十一條 車馬賃ヲ給スル爲メ里數ヲ計算スルニハ出發地ノ原標若クハ中央ヨリ指定地ノ原標若クハ中央マデヲ通算スルニ依ル

發著地ノ市町村中央ト汽車及船舶トノ間一里ニ滿テス若クハ其間該市町村外ニ沙ル場所アルモ一里ニ滿テサルトキハ總里數ニ算入セス旅行ノ各種ニ跨ル場合ニ於テモ亦同シ
沿道中ニ在ル河湖海灣等ノ渡船場ニシテ海里ヲ以テ計算セサル場所ハ總テ陸路里數ニ算入ス但
甲乙地間ノ里數ニ包含スル場所ハ別ニ算入スルノ限ニアラス

第三十二條 第十三條第十七條第二十三條第六項ノ事項及其他轉勤轉乘等ニ依リ旅行スル場合ニ於テ本人ノ請求アルトキハ前廳ニ於テ概額ヲ以テ其旅費ヲ支給決算シ其給額ヲ後廳ニ通知ス

後廳ハ前廳ノ通知ニ依リ其給額ヲ精算シ追給スヘキモノハ之ヲ給シ過給ハ追徴シテ之ヲ前廳ヘ返還スヘシ但前廳ニ於テ旅費ヲ支給セサルトキ及會計ヲ異ニスル廳ヘ轉シタルトキハ總テ後廳ニ於テ支給ス

第三十三條 甲廳職員乙廳ヲ兼務シ往返スルトキハ本人到達ノ廳ニ於テ其旅費ヲ給シ一日以内ニ往返スルトキハ往返トモ出發廳ニ於テ之ヲ給ス但臨時委員ヲ兼ル者ハ此限ニアラス

第三十四條 甲廳職員ヲ乙廳ニ於テ借用スルトキハ往返トモ借用廳ニ於テ其旅費ヲ給ス其他借用中旅行セシムルトキモ亦同シ

第三十五條 旅費ハ第三十二條以下ノ各條ニ依リ支給スルトキヲ除クノ外總テ本人所轄ノ廳ニ於テ支給ス

第三十六條 旅行ノ兩會計年度ニ跨ルトキハ船舶料及汽車料ハ其船舶又ハ汽車ノ發程當日ノ年度ニ編入シ日當及車馬賃ハ年度分界ノ日ニ依テ區分スヘシ

第三十七條 他官廳ノ官吏ヲ借入シ施行セシムルトキハ本則ニ依テ其旅費ヲ給スルノ限ニアラス

附則

第三十八條 本則ハ本年九月一日ヨリ施行ス

旅費等級表

旅費等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
官等職名等	親任官	勳任官	勳任官	上長官	官	候補生	下士	卒
								職員以下

第一號表

旅費等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
日當	四圓	四圓	四圓	四圓	九拾錢	七拾錢	五拾錢	三拾五錢
車馬賃	五拾錢	四拾錢	貳拾六錢	貳拾錢	拾錢	八錢	七錢	六錢

第二號甲表

船舶料

地名	旅費等級	一等	二等	三等	四等	五等	六等	七等	八等
横須賀長浦間		〇六〇	〇五〇	〇四〇	〇三〇	〇二〇	〇一〇	〇一〇	〇一〇
横濱長崎間		八七五〇	六五六〇	五一〇〇	二九二〇	一八二〇			
横濱牛田間		三三九〇	一七二〇	一三四〇	七六〇	四八〇			
横濱四日市間		二四〇〇	一八〇〇	一四〇〇	八〇〇	五〇〇			
横濱清水間		一三六〇	一〇二〇	七九〇	四五〇	二八〇			
横濱函館間		六三五〇	四七六〇	三七〇〇	二二二〇	一三二〇			
神戸横島間		一八六〇	一四〇〇	一〇九〇	六二〇	三九〇			

第二號乙表 汽車料

地名	等級						
	一	二	三	四	五	六	七
東京品川間	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇	〇,一〇〇	〇,一〇〇	〇,一〇〇
四日市神戸間	二,七四〇	二,〇六〇	一,六〇〇	九一〇	五七〇	二七〇	一〇〇
清水神戸間	三,三五〇	二,五一〇	一九五〇	一一二〇	七〇〇	三〇〇	一〇〇
鹿兒島那霸間	四,四八〇	三,三六〇	二,六一〇	一四九〇	八八〇	五五〇	二〇〇
函館小樽間	二,六五〇	一九九〇	一五五〇	八八〇	五五〇	二〇〇	一〇〇
長崎鹿兒島間	一,九四〇	一四六〇	一一三〇	六五〇	四一〇	二二〇	一〇〇
長崎佐世保間	五,五〇〇	四,一〇〇	三,二〇〇	一,八〇〇	一,一〇〇	六〇〇	三〇〇
長崎竹敷間	一,四,五〇〇	一,〇,九〇〇	八,五〇〇	四,八〇〇	三,〇〇〇	一,七〇〇	八〇〇
馬關長崎間	一,七〇〇	一,二,八〇〇	九,九〇〇	五,七〇〇	四,〇〇〇	二,五〇〇	一,〇〇〇
廣島江田島間	一,一〇〇	〇,八〇〇	〇,六〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
吳江田島間	一,一〇〇	〇,八〇〇	〇,六〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
神戶長崎間	四,五八〇	三,四四〇	二,六七〇	一,五三〇	九六〇	六〇〇	二〇〇
神戶品川間	二,八八〇	二,二六〇	一,六八〇	九六〇	六〇〇	三〇〇	一〇〇
廣島島間	一,一〇〇	〇,八〇〇	〇,六〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
廣島江田島間	一,一〇〇	〇,八〇〇	〇,六〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
廣島島間	一,二〇〇	九〇〇	七〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇	一〇〇
馬關長崎間	一,七〇〇	一,二,八〇〇	九,九〇〇	五,七〇〇	四,〇〇〇	二,五〇〇	一,〇〇〇
長崎鹿兒島間	一,九四〇	一四六〇	一一三〇	六五〇	四一〇	二二〇	一〇〇
函館小樽間	二,六五〇	一九九〇	一五五〇	八八〇	五五〇	二〇〇	一〇〇
鹿兒島那霸間	四,四八〇	三,三六〇	二,六一〇	一四九〇	八八〇	五五〇	二〇〇
清水神戸間	三,三五〇	二,五一〇	一九五〇	一一二〇	七〇〇	三〇〇	一〇〇
四日市神戸間	二,七四〇	二,〇六〇	一,六〇〇	九一〇	五七〇	二七〇	一〇〇

品川橫濱間	一,七〇〇	一,三〇〇	一,〇〇〇	〇,六〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇
橫濱大船間	一,三〇〇	一,〇〇〇	〇,八〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
大船橫須賀間	一,二〇〇	〇,九〇〇	〇,七〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
大船國府津間	二,三〇〇	一,七〇〇	一,三〇〇	〇,八〇〇	〇,五〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇
國府津江尻間	七,七〇〇	五,八〇〇	四,五〇〇	二,六〇〇	一,六〇〇	一,〇〇〇	六〇〇
江尻大府間	一,三〇〇	九八〇	七六〇	四四〇	二七〇	一七〇	一〇〇
大府武豐間	一,四〇〇	一,一〇〇	〇,八〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
大府名古屋間	一,四〇〇	一,一〇〇	〇,八〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇
名古屋米原間	五,八〇〇	四,三〇〇	三,四〇〇	一,九〇〇	一,二〇〇	〇,八〇〇	〇,五〇〇
米原長濱間	〇,五〇〇	〇,四〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇	〇,一〇〇	〇,一〇〇	〇,〇〇〇
長濱金ヶ崎間	三,一〇〇	二,三〇〇	一,八〇〇	一,〇〇〇	〇,七〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇
米原京都間	五,三〇〇	四,〇〇〇	三,一〇〇	一,八〇〇	一,一〇〇	〇,七〇〇	〇,四〇〇
京都大阪間	三,一〇〇	二,三〇〇	一,八〇〇	一,〇〇〇	〇,七〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇
大阪神戸間	二,四〇〇	一,八〇〇	一,四〇〇	〇,八〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇
兵庫姫路間	四,〇〇〇	三,〇〇〇	二,三〇〇	一,三〇〇	〇,八〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇
東京高崎間	七,六〇〇	五,七〇〇	四,四〇〇	二,五〇〇	一,六〇〇	一,〇〇〇	六〇〇
高崎橫川間	二,二〇〇	一,六〇〇	一,三〇〇	〇,七〇〇	〇,五〇〇	〇,三〇〇	〇,二〇〇
輕井澤直江津間	一,一〇〇	八三〇	六四〇	三,七〇〇	二,三〇〇	一,五〇〇	一,〇〇〇

○海軍省選第二百一十一號

會計練習生規則左ノ通定

明治二十二年八月十五日

會計練習生規則

海軍大臣伯爵西郷從道

第一條 會計練習生ハ上等主帳主帳ニ必要ナル學術ヲ修學セシムルモノトス

第二條 會計練習生ハ主帳及一等厨夫ニシテ左ノ諸項ニ適合ノ者タル可シ

第一 年齢三十五年以下ノ者

第二 品行善良ニシテ才幹アリ上等主帳タルニ堪フヘキ者

第三 卒業後二箇年以上服役スヘキ者

第四 處刑及賭博犯ノ處分ヲ受ケサル者

第五 試験ニ合格ノ者

第三條 練習生ニ採用スヘキ人員ハ現役主帳一等厨夫ノ海兵團在籍人員ニ應シ毎年鎮守府コトニ之ヲ定ム

第四條 練習生採用ノ適アリタルトキ艦隊及各廳長ハ第二條第一項第二項第三項第四項ニ適スル者ヲ選拔シ其官職姓名ヲ主計學校長ニ通報ス可シ

第五條 主計學校長前條ノ移轉ヲ得タルトキハ試験問題ヲ作り艦隊及各廳長ニ送付ス各長ハ試験ヲ行ヒ其答書ヲ主計學校長ニ送付ス可シ

試験ハ總テ筆記ヲ以テ應答セシム

第六條 主計學校長ハ各鎮守府毎ニ合格者ヲ區別シ成績ノ順序ヲ以テ官職姓名ヲ記列シ入舍期日ヲ定ム

ヲ定メ大學校長ヲ經由シテ鎮守府司令長官ニ通知ス可シ

第七條 鎮守府司令長官前條ノ通知ヲ得タルトキハ合格者ニ就キ取捨ヲ加ヘ所定ノ人員ニ應シ練習生ヲ命シ艦隊及各廳長ニ通過シ期日以内ニ入舍セシム可シ

第八條 練習生ノ學期ハ十箇月トス其學科及科目ハ左ノ如シ

學科	科目
經濟學	經濟原論大意
和漢學	國史略、文章軌範
作文	公用文、記事文
簿記法	官廳簿記
法律	契約法大意、海軍刑法、海軍治罪法
算學	算代數
備考	學期ハ概テ九月ニ始マリ翌年七月ニ終ルモノトス 課程履行中適宜ノ時間ヲ以テ會計規則、海軍給與規則ノ解釋ヲ教授ス又加刀、船槍、算盤、簿法ヲ修習セシム 授業時間外船中操演ヲ爲サシム

第九條 試験ハ小試験及大試験ノ二種トス

第十條 小試験ハ一學科ノ終リニ之ヲ行ヒ大試験ハ學期ノ最終ニ之ヲ行フ

第十一條 大試験小試験ノ點數ハ各科全點數十分ノ四以上ヲ得其點數ヲ合算シ總點數ノ十分ノ五以上ヲ得タル者ヲ及第トス

第十二條 大試験成績ノ算法ハ其成績ト小試験ノ成績トヲ比例シテ算スルモノトス但小試験ノ成績

續ヲ大試験ニ算入スルノ比例ハ大試験ト同一ノ効力トス

第十三條 練習生ニ與フヘキ卒業證書ハ一等卒業證書ニ等卒業證書ノ二種トス

第十四條 大試験ニ於テ全點數十分ノ七以上ヲ得タル者ニハ一等卒業證書ヲ授與シ十分ノ五以上ヲ得タル者ニハ二等卒業證書ヲ授與ス

第十五條 大試験ニ落第シタル者ハ若干日ノ復習ヲ爲サレメ再試験ヲ行ヒ及第ノ者ニハ二等卒業證書ヲ授與ス

第十六條 再試験ニ落第シタル者及學科履行中怠慢又ハ不行狀ニシテ卒業ノ目途ナキ者ハ主計學校長退舍ヲ命シ海兵團ニ歸營セシメ大學校長ヲ經由シテ鎮守府司令長官ニ報告ス可シ鎮守府司令長官此報告ヲ得タルトキハ練習生ヲ免ス可シ

○海軍省令第三百三十二號

艦隊學校其他各所ニ備附ノ兵器ヲ交換増減シ其據附位置ヲ變換シ全體ニ關スル改造ヲ爲シ又ハ新ニ備附或ハ備附ヲ止ムルコトヲ要スルトキハ事由ヲ具シ伺出ツヘシ

明治二十二年八月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省令第三百三十三號

吳軍港内吉浦ニ新築ノ火藥庫ヲ吉浦火藥庫ト稱ス

明治二十二年八月十九日

海軍大臣伯爵西郷從道

○陸軍省令第三百三十號

馬籍取扱手續別冊ノ通定

明治二十二年八月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

(別冊)

馬籍取扱手續

第一條 凡ソ軍馬(將校馬匹)ノ籍ハ近衛師團並ニ教導團ニ在テハ騎兵砲兵輜重兵ノ各隊 憲兵隊ニ在テハ各地憲兵隊 陸軍諸學校軍馬育成所等ニ在テハ各官廳毎ニ馬匹名簿ヲ備置キ而シテ其授受廢絶若クハ轉賣等ノ事由ヲ一々詳記シ置クモノトス

第二條 馬匹名簿ハ甲乙二種ニ分チ甲號名簿ハ該馬匹ノ原籍部(軍馬育成所ヲ云フ)ニ備フルモノニシテ乙號名簿ハ總テ馬匹授受ノ爲ニ用ニルモノトス故ニ受給部(軍馬ノ支給ヲ受クヘキ各隊及各官廳ヲ云フ)ニ於テハ乙號名簿ヲ備ヘ置クモノトス但シ原籍部ノ間ニ於テ互ニ授受スル場合ニ在テハ甲號名簿ヲ寫シ用非又受給部ニ於テ陸軍將校官馬掛下手續第九條ニ依リ買上タル馬匹ノ爲メニハ原籍部ニ準シ甲號名簿ヲ備フヘシ

第三條 甲號名簿ハ馬匹購買地ニ於テ購買委員之ヲ調製シ其馬匹ヲ交付スヘキ原籍部ヘ送付スルモノトス但シ購買馬匹ヲ委員ヨリ受給部ヘ直ニ交付スヘキ場合ニ在テハ甲號名簿ハ原籍部ニ送付シ乙號名簿ヲ以テ授受スヘシ

第四條 前條但書等ノ場合ニ於テハ假ニ買上番號ヲ以テ送附シ後チ原籍部ヨリ其原番號ヲ受給部ニ通知スヘシ

第五條 第一條ニ掲グル各部ニ於テ馬匹ヲ受領シ若クハ購買シタルトキハ更ニ一貫ノ番號ヲ付スヘシ而シテ其番號ハ十箇年目毎ニ改ムルモノトス(例ヘハ十箇年目ニ當ル年度初期ニ於テ受領若クハ購買シタル馬匹ハ更ニ第一ヨリ附スルカ如シ)馬匹ノ名稱ハ各部ニ於テ適宜付スルモノトス

第六條 馬匹(保存)ノ番號ハ符號ト共ニ各馬ノ前蹄ニ烙記スヘシ其法受給各部ニ在テハ右蹄ニ符

號左蹄ニ番號ヲ各其蹄ノ前面中央外部ニ烙記シ(交給部ニ於テ直ニ購置)原籍部ニ在テハ番號ヲ右ニ符號ヲ左ニ各其蹄ノ前面中央稍々下部ニ烙記スヘシ但シ買上番號ノ烙記ハ左前蹄ノ外部下端ニナスヘシ

第七條 保存滿期後ノ馬匹(定期交換ノ際應馬ニ關スルハキヨクノ内尙使役ニ堪ユヘキ)ヲ尙使用スルトキハ之ニ對シ更ニ特別ノ一貫番號ヲ付メヘシ但シ其蹄印烙記ハ總テ後蹄ノ左右適宜ノ部ニナスヘシ

第八條 若シ甲ノ原籍部ヨリ他ノ受給部ニ交付スルハ馬匹ヲ輸送若シハ授受等ノ都合ニ因リ一時乙ノ原籍部ニ繋留スルカ如キ場合ニ在テハ乙號名簿ヲ以テ授受シ而シテ乙部ノ番號ヲ付スルコトナク甲部ノ原番號ヲ存シ置クモノトス但シ該馬匹ノ内若シ乙部ノ常番トナスコトアルトキハ更ニ第二及第五條ニ依ル

第九條 各部ニ於テ蹄印烙記ニ要スル符號ハ左記ノ例ニ依リ羅馬字ヲ用非或ハ亞刺比亞數字ヲ併用シ而シテ其番號ハ總テ亞刺比亞數字ヲ用ニルモノトス

近衛騎兵隊	KK	同砲兵隊	KH
騎兵第一大隊	IK	砲兵第二聯隊	ZH
輜重兵第三大隊	SS	各憲兵隊	K
大學校	D	士官學校	S
乘馬學校	J	射的學校	O
砲工學校	H	幼年學校	I
教導團騎兵隊	DK	同砲兵隊	DH
三木水軍馬育成所	S	鍛冶谷海軍馬育成所	K

青野軍馬育成所

(甲乙號軍馬名簿體形略ス)

○陸軍部第三十一號

馬療用消耗品別紙ノ通定(別紙略)

明治二十二年八月二十二日

陸軍大臣伯爵大山 巖

○海軍省連第三百十四號

明治二十二年八月二十五號諸艦船乘組主任主計官事務引繼證書ノ件ヲ廢ス

明治二十二年八月二十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

(參照)海軍省丙第八十五號連(明治二十二年九月十三日)

諸艦船乘組主任官交代ニ際シ事務引繼證書今般別冊ノ通相定候條自今右ニ照準授受可致此旨相違候事但所轄各艦ニ事務スル計算課長交代ノ際モ本支同機可相心得此旨副連候事(別冊略ス)

○海軍省連第三百十五號

會計練習生ヲ海軍主計學校附屬舍ニ置キ該校長ヲシテ統監セシメ該校教官ヲシテ之ニ授業セシム

明治二十二年八月二十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省連第三百十六號

海軍造兵廠定員表中「技手」ヲ「上等技工」「下等技工」ト改メ「雇員最上層」ノ上ニ「卒及」ノ二字ヲ加ヘ學生ノ前ニ「工夫百四十」ヲ加ヘ備考中ニ「上等技工」ノ定員中ニハ本連以前ニ任敍セル技手ヲ混用スルコトヲ得ノ三十二字ヲ加フ

明治二十二年八月二十三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第三百十七號

第四期練習水兵不足ニシテ練習艦隊アルトキ又ハ該練習員定數ニ滿タサルトキハ在海兵兩補充員ヲ交替乘組マシメ復習セシムヘシ

○海軍省違第三百十八號

下士進級條例第十六條第一項ニ左ノ但書ヲ加フ

明治二十二年八月二十三日

但下士ノ決定候補名簿及卒ヨリ下士ニ進級スヘキ者ノ決定候補名簿ハ掌砲、掌水雷、掌帆及信號教授ニ適スヘキ者ノ四種ニ區別ス

○海軍省違第三百十九號

横須賀水雷隊敷設部定員表中ニ左ノ人員ヲ增加ス

明治二十二年八月二十三日

- 第一隊ニ 二等木工 二名
- 第二隊ニ 二等木工 二名
- 二等砲治 二名
- 二等主帳 一名
- 列外ニ

○海軍省違第三百二十號

諸定員表中合計ノ欄ヲ削除ス

明治二十二年八月二十三日

自今調製スル下士卒階級ノ職名下ニハ「號」ノ字ヲ附セシム

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省違第三百二十一號

砲術練習艦條例第十八條ヲ左ノ通改正ス

明治二十二年八月二十六日

第十八條 甲種教程ハ大學校卒業者ヲ履行セシムルモノトス

甲種教程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○海軍省違第三百二十三號

水雷術練習艦則第二條ヲ左ノ通改正ス

明治二十二年八月二十六日

第二條 甲種教程ハ大學校卒業者ヲ履行セシムルモノトス

甲種教程ハ別ニ定ムル所ニ依ル

○海軍省違第三百二十四號

大學校卒業者ニアラサル士官ヲ練習セシムルトキハ練習艦長適宜之カ教程ヲ定ムヘシ

明治二十二年八月二十六日

來九月十一日ヨリ午前九時出頭午後三時退出ト定ム

○陸軍省違第三百二十一號

來九月十一日ヨリ午前九時出頭午後三時退出ト定ム

明治二十二年八月二十七日

○海軍省第三百二十五號

砲術練習艦甲種教程左ノ通定

明治二十二年八月二十八日

砲術練習艦甲種教程

海軍大臣伯爵西郷從道

長教程

長教程ハ日數百三日毎週四日半月數六箇月ニシテ九月十一日ニ始マリ翌年三月十日ニ終ル但教程上ノ都合ニ依リ此定期ハ増減スルコトヲ得

教科目ノ要領

- 一、重砲輕砲操法
- 二、重砲操法(水壓裝置)
- 三、速射砲野砲及機關砲
- 四、火工
- 五、銃隊及小銃射法
- 六、舶刀及拳銃操練
- 七、復習
- 八、試驗

日數
 二十一日
 ○
 十八日
 十七日
 二十八日
 三日
 八日
 八日
 八日

共計百三日

(備考)練習員ハ「モールス」電信符號ニ依テ說話スルコトヲ練習ス可レ

第一ノ日課ハ左ノ如シ(重砲輕砲操法日數二十一日)

本初操法砲及砲架各部ノ名稱照準法閉鎖器及發射器ノ分離

第三日ヨリ第五日ニ至ル

第六日ヨリ第九日ニ至ル

第十日ヨリ第十三日ニ至ル

三番發射

第十四日ヨリ第十八日ニ至ル

第十九日ヨリ第二十日ニ至ル

第二十一日 試驗

輕砲實施操法

本初及實施操法各士官ハ輪番號令ヲ掌トリ詳細説明ヲ爲ス前以テ照準法ヲ演習シ種々ノ方法ヲ以テ射的スルコト(一二)

重砲本初及實施操法並ニ旋迴砲復習

發射明細表

端舟砲	十發	內三發ハ射手自ラ信管ヲ裝置シ填充榴彈ヲ發ス各士官ハ四發ノ外ニ方位盤ヲ以テ一發發射一回ヲ行フ可レ但四發ノ內一發ハ填充榴彈
十二珊克砲	四發	
近時用砲艦ヨリ	二發	
七五珊克野砲	二發	內一發花環榴彈(此發射ハ總テ陸上ニ於テ)
砲艦ヨリ野砲	二十發	
砲艦ヨリ小銃口徑機關砲	四十發	此機關砲ニハインフノンド砲砲ヲ用ユ
(備考)海上ニ於テハ砲架動搖ノ時ニアラサレハ發射ヲ行フ可ラズ		
第二ノ日課ハ水壓裝置ヲ備ヘタル重砲ヲ裝備シタルトキ之ヲ定ム		
第三ノ日課ハ左ノ如シ(速射砲及機關砲日數十八日)		
第一日ヨリ第二日ニ至ル	野砲本初操練	
第三日ヨリ第五日ニ至ル	野砲實施操練	
第六日ヨリ第十日ニ至ル	速射砲及機關砲ノ機械及其取扱法	

第十一日 機關野砲木初及實施操練
 第十二日ヨリ第十七日ニ至ル 野砲及機關射擊
 第十八日 試驗
 第四ノ日課ハ左ノ如シ(火工日數十七日)
 第一日ヨリ第二日ニ至ル 彈丸總說各種彈丸ノ供給比例各種ノ用途供給法、番符法及榴彈城
 充法
 第三日ヨリ第五日ニ至ル 各種信管ノ解說其用途、設置法、供給法、包括法、信管ノ動作ヲ説明
 スル爲メニ供スル截斷シタル信管
 第六日ヨリ第九日ニ至ル 火藥藥囊藥囊盒及火藥罐ノ解說
 第十日ヨリ第十一日ニ至ル 火藥庫及彈庫、其位置、保護及供給ノ便否(殊ニ速射砲及機砲ニ要
 スル多數ノ供給ニ關シテ)ニ關スル問題ノ考究
 第十二日 端舟軍裝ノ準備
 第十三日ヨリ第十五日ニ至ル 火管燧火及火箭ノ總說、其用途及貯藏法ノ注意
 第十六日 救難器械
 第十七日 試驗
 第五ノ日課ハ左ノ如シ(銃隊及小銃射法日數二十八日)
 第一日ヨリ第三日ニ至ル 午前銃隊操式第二篇第一章 隊形ニ於テ
 午後同 第一部第一章第五教 行隊
 第四日ヨリ第六日ニ至ル 午前銃隊操式第二篇第二章 隊形ニ於テ
 午後同 第一部第二章第五教 行隊
 第二部第一章第五教 行隊

第七日ヨリ第十日ニ至ル 午前銃隊操式第二篇第一章第一、二、三、四教 隊形ニ於テ
 午後同 第二部第一章第一教 隊形ニ於テ
 第十五日ヨリ第十六日ニ至ル 工兵作業 別ニ定ム
 第十七日 試驗 復習
 第十八日ヨリ第二十日ニ至ル 距離目測及音響距離測量
 第二十一日ヨリ第二十八日ニ至ル 銃隊操式
 第二篇第二章 野外獨立及集合射擊
 第六ノ日課(鎗刀及拳銃操練日數三日)
 拳銃射擊ノ數ハ各三十發トス
 短教程
 短教程ハ日數七十八日毎週四日半月數四箇月ニシテ三月二十日ニ始マリ七月十九日ニ終ル但教授
 上ノ都合ニ依リ此定期ハ増減スルコトヲ得
 教科目ノ要領
 一、重砲輕砲操法 日數 十五日
 二、重砲操法(水壓裝置) 〇
 三、速射砲野砲及機砲 十一日
 四、火工 十四日
 五、銃隊及小銃射法 二十一日

六 舶刀及拳銃操練
七 復習
八 試驗

三日
八日
六日
共計七十八日

第一ノ日課ハ左ノ如シ(重砲輕砲操法日數十五日)
 第一日ヨリ第二日ニ至ル 本初操練砲及砲架各部ノ名稱、照準法、閉鎖機及發射機ヲ分離スル
 コト
 第三日ヨリ第五日ニ至ル 重砲實施操練
 第六日ヨリ第八日ニ至ル 本初及實施操練、各士官ハ輪番號令ヲ掌トリ詳細説明ヲ爲ス
 第九日ヨリ第十一日ニ至ル 砲艦ヨリ四回近時用砲艦ヨリ二回發射ヲ行ハシム
 第十二日ヨリ第十五日ニ至ル 輕砲本初及實施操練
 第二ノ日課ハ左ノ如シ(速射砲野砲及機砲日數十一日)
 第一日ヨリ第二日ニ至ル 野砲本初操練
 第二日ヨリ第三日ニ至ル 野砲實施操練
 第四日ヨリ第七日ニ至ル 速射砲及機砲ノ機械及其取扱法
 第八日 機關野砲本初及實施操練
 第九日ヨリ第十一日ニ至ル 野砲ヲ以テ發射二回ヲ行フ
 第四ノ日課ハ左ノ如シ(火工日數十四日)
 第一日ヨリ第二日ニ至ル 彈丸總說各種彈丸供給ノ比例、其用途供給法、發射法、榴彈補充法

第三日ヨリ第五日ニ至ル 各種信管ノ解說、其用途、裝置法、供給法、包括法及信管ノ動作ヲ説明スル爲メニ供スル截斷シタル信管
 第六日ヨリ第七日ニ至ル 火藥藥莖、藥莖盒及火藥罐ノ解說
 第八日 火藥庫及彈庫
 第九日 端舟軍裝ノ準備
 第十日ヨリ第十一日ニ至ル 火管、號火、火箭ノ解說、其用途及貯藏法ノ注意
 第十二日 救難器械
 第十三日 復習
 第十四日 試驗
 第五ノ日課ハ左ノ如シ(銃隊及小銃射法日數二十一日)
 第一日ヨリ第三日ニ至ル 午前銃隊操式第二篇第二章 隊散隊形ニ於ケル射擊
 午後同 第二篇第一章 第五教 行演習
 午前銃隊操式第二篇第一章 第五教 中隊ヲ相互ニ操練ス
 午後同 第一章 第五教 行演習
 午前銃隊操式第三篇第一章 第一、二、三、四教 小隊及中隊ノ射擊ヲ相互ニ操練ス
 午後同 第二部第一章 第一教 小隊及中隊ノ射擊
 第六日ヨリ第十一日ニ至ル 工兵作業別ニ之
 第十二日ヨリ第十三日ニ至ル 距離目測及音響距離測量

第十四日ヨリ第二十一日ニ至ル

銃隊操式第二篇第二章 砲隊操式第二篇第二章 砲隊操式第二篇第二章

第六ノ日課(船刀及銃操練日數三日)

餘銃射撃ノ數ハ各三十發トス

○海軍省達第三百二十六號

水雷術練習艦甲種教程左ノ通定ム

明治二十二年八月二十八日

水雷術練習艦甲種教程

海軍大臣伯爵西郷從道

甲種教程ハ日數百三日毎週四日半月日數六箇月ニシテ九月十一日ニ始マリ翌年三月十日ニ終ル但教
授上ノ都合ニ依リ此定期ハ増減スルコトヲ得

教科目ノ要領

- 一、諸種ノ海中水雷(外裝水雷モ含入ス)
- 二、電信術及ヒ傳話機
- 三、掃海法、探海法、反裝水雷、防材跳超法、鋪鎖破壞法、水雷防禦網
- 四、電氣燈
- 五、自動水雷
- 六、復習
- 七、試験

(備考)練習中ハ凡テ同體ニ於テ用ユル處ノ電池ノ電動力及抵抗力ノ自録並ニ海軍用諸種ノ電流

共計百三日

日數

三十日

五日

十日

十五日

二十五日

八日

十日

計信管電纜完全電路等ノ目錄ヲ製シ置キ將來ノ應用ニ供スルモノトシテ是等ノ中ニ就キ
テ其ノ最モ緊要ナルモノハ之ヲ暗記セサル可ラス

第一ノ日課ハ左ノ如シ(諸種ノ海中水雷日數二十日)

第一日ヨリ第七日ニ至ル 諸種ノ海中水雷戰術ノ概略ニ就キ午前一時半間講義 殘餘ノ時間

ニ於テハ水雷裝置、接續試驗及電氣機械並ニ「リレー」ヲ用ヒス海軍水雷ヲ布設シ試驗シ及發火スルコト

第八日ヨリ第十六日ニ至ル 「リレー」ヲ用ヒテ常置防禦トシテ水雷ヲ布設シ試驗シ及發

第十七日ヨリ第二十ニ至ル 外裝水雷

第二十一日ヨリ第三十日ニ至ル 「リレー」ヲ用ヒテ常置防禦トシテ水雷ヲ布設シ試驗シ及發

火スルコト

(備考)諸水雷ノ各種ハ少クモ二回ハ之ヲ裝置シ及布設スヘシ

第二ノ日課ハ左ノ如シ(電信術及傳話機日數五日)

各種傳話機ノ詳細ヲ充分曉得セシメ且ツ鳴響陸用器械ノ如キ單針「モールス」電信機ノ簡單ナル

モノヲ容易ニ使用シ及理會セシムヘシ

第三ノ日課ハ左ノ如シ(掃海探海法等日數十日)

第一日ヨリ第四日ニ至ル 掃海法等並ニ反裝水雷電路ヲ裝置スルコト

第五日 端艇ニテ掃海及探海法ヲ行フコト

第六日ヨリ第八日ニ至ル 反裝水雷ヲ布設シ及之ヲ採上スルコト

第九日 水雷防禦網

第十日 防材跳超法及ヒ鋪鎖破壞法

第四ノ日課ハ左ノ如シ(電氣燈日數二十五日)

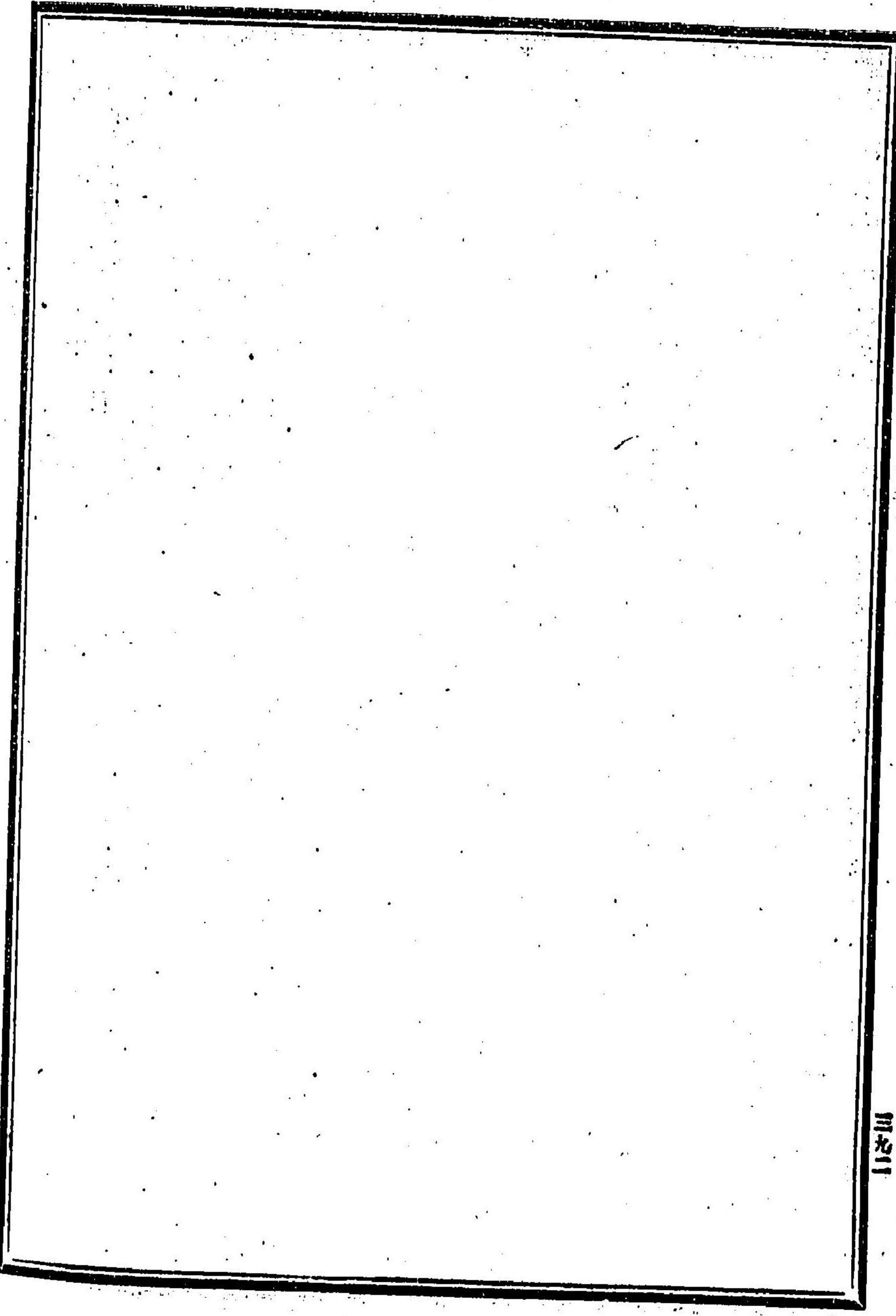
明治二十二年八月 海軍省第三百二十六號

第一日ヨリ第三日ニ至ル 電線繩結法及各種海軍用ノダイナモヲ試験スルコト(但運轉中ニアラス)電氣變路器ノ接續ヲ搜索スルコト等
 第四日ヨリ第七日ニ至ル ダイナモヲ運轉シ「ブラツシ」ヲ調理シ及ヒ種々ノ速力及抵抗力ニ於テ電流及電動力ヲ驗測スルコト及「ダイナモ」ノ弧線ヲ測スルコト
 第八日ヨリ第九日ニ至ル 搜索燈及「プロヂエクトル」
 第十日ヨリ第十三日ニ至ル 電光ヲ驗測スルコト
 第十四日ヨリ第十五日ニ至ル 各種ノ烈燃燈及其屬具
 第五ノ日課ハ左ノ如シ(自働水雷日數二十五日)
 第一日ヨリ第十五日ニ至ル 水雷ヲ分離シ其各部ヲ圖寫シ及調理法ヲ研修スルコト但最初十日間ハ午前一時半間ノ講義ヲ授ク
 第十六日ヨリ第二十五日ニ至ル 水雷ヲ發射シ調理法ヲ改正シ及方位盤ヲ使用スルコト
 ○海軍省第三百二十七號 海軍下士卒被服供給規則第十三條ニ左ノ一項ヲ追加ス
 明治二十二年八月三十日 海軍大臣伯爵西鄉從道
 他鎮守府所轄ノ下士卒刑罰滿限出監ノ際制服ヲ所持セサルトキハ鎮守府衣糧課ハ監獄課長ノ請求ニ依リ古衣一揃ヲ給與シ其旨本籍海兵團ニ報告スヘシ該團ニ於テハ該衣ニ對スル附要票ヲ發送シ請求ノ手順ヲ爲スヘシ而レテ其著ノ被服物品還納後ニテ前項但書ニ依リ定數ヲ給與スルトキハ該衣ヲ定數内ニ算入スヘシ其未ダ還納セサル場合ニ在テハ該衣ヲ還納セシム
 ○海軍省第三百二十八號 鎮守府造船部鎮守府兵器部造兵廠小野濱造船所ノ枝手技手見習ヲ上等技工工ニ轉任セシムルニ

ハ試験ヲ要セス

明治二十二年八月三十日

海軍大臣伯爵西鄉從道



○陸軍第三百三十三號

大隊區司令部服務規則別冊ノ通定ム

明治二十二年九月二日

(別冊)

陸軍大臣伯爵大山 巖

大隊區司令部服務規則

- 第一條 大隊區司令部ノ事務ハ軍隊及地方ニ直接ノ關係ヲ有スルヲ以テ司令官ハ常ニ彼此ノ事情ヲ詳ニシテ法律命令ノ範圍内ニ於テ其行務ヲ考按計畫シ部事ヲ整頓シ特ニ召集事務ハ有事ノ日ニ方リ毫モ滯滞ナキヲ豫期スルヲ以テ責任トス
- 第二條 大隊區司令官ハ旅團長ノ認可ヲ得テ臨時大隊區内ヲ巡視スルコトヲ得
- 第三條 大隊區司令官ハ旅團長ノ認可ヲ得テ副官若クハ監視區長若クハ書記ヲ管内郡市役所若クハ町村役場ニ差遣スルコトヲ得但一日間ニ往復シ得ル地ニ在テハ大隊區司令官直ニ差遣スルコトヲ得
- 第四條 大隊區司令官ハ名簿照帳ノ爲メ毎年一回各監視區長ヲ召喚ス可シ
- 第五條 臨時召喚ヲ要スルトキハ旅團長ノ認可ヲ請フ可シ
- 第六條 大隊區司令官ハ事務時ニ筆跡ノトキハ旅團長ノ認可ヲ得テ臨時備人ヲ使用スルコトヲ得但成ルヘク其地所在ノ豫備若クハ後備ノ下士又ハ上等兵ヲ使用ス可シ
- 第七條 大隊區司令官一時不在ノ時ハ大隊區副官部内ノ事務ヲ代理ス可シ
- 第八條 大隊區副官ハ部内ノ事務ヲ管シ稟申申請照會回答送等ノ文書ヲ起草シ及書記ノ勤惰ヲ監視ス可シ
- 第九條 大隊區副官ハ司令官ノ職印及廳印ヲ管守ス可シ

明治二十二年九月 陸軍省陸軍第三百三十三號

- 第九條 大隊區書記ハ司令部ニ到來スル一切ノ文書ヲ受領シ其親展ニ非サルモノハ總テ開封シ之ニ受領番號ヲ附シ副官ニ差出ス可シ
- 第十條 大隊區書記中軍吏部下士ハ專ラ會計事務ニ服シ兼テ一般ノ事務ニ服ス可シ
- 第十一條 監視區長ハ毎年一回簡閱點呼執行ノ士官ニ屬シ其事務ヲ處理ス可シ
- 第十二條 監視區長ハ豫備後備ノ下士卒及歸休兵監視上大隊區外ニ交渉スル事件アルトキハ大隊區司令官ニ上申シ區處ヲ請フ可シ
- 第十三條 大隊區司令部ニ備置シ可キ簿冊左ノ如シ
 - 一 上申錄
 - 二 往復錄
 - 三 正貨出納帳
 - 四 往復錄
 - 五 豫備將校同相當官兵籍及戰時名簿
 - 六 後備將校同相當官兵籍及戰時名簿
 - 七 豫備下士兵籍及戰時名簿
 - 八 後備下士兵籍及戰時名簿
 - 九 豫備兵兵籍及戰時名簿
 - 十 後備兵兵籍及戰時名簿
 - 十一 充員名簿
 - 十二 後備軍召集名簿
 - 十三 歸休兵兵籍
 - 十四 新兵抽籤名簿
 - 十五 豫備徵員名簿
- 第十四條 監視區長駐劄所ニ備置シ可キ簿冊左ノ如シ
 - 一 上申錄
 - 二 往復錄
 - 三 正貨出納帳
 - 四 豫備下士監視名簿
 - 五 後備下士監視名簿
 - 六 豫備兵監視名簿
 - 七 後備兵監視名簿
 - 八 歸休兵監視名簿

九 新兵監視名簿

十 豫備徵員監視名簿

- 第十五條 凡兵籍後備滿期ハ近衛師團及兵種ヲ分チ編綴シ増減異動アル毎ニ加除訂正ス可シ
- 第十六條 上申錄連錄往復錄ハ十箇年間保存ス可シ
- 第十七條 後備滿期者ノ兵籍及戰時名簿ハ八箇年間保存ス可シ
- 第十八條 疾病ニ由リ兵役免除又ハ死亡者ノ兵籍ハ種類ヲ分チ之ヲ別簿トナシ三箇年間保存ス可シ但現役中本條ノ事故ニ係ルモノハ兵籍ハ其所屬隊又ハ所屬團ヨリ送致ヲ受ケ司令部ニ於テ三箇年間保存ス可シ
- 第十九條 充員名簿後備軍召集名簿ハ出師年度經過後新兵抽籤名簿ハ入營後豫備徵員名簿監視名簿ハ滿期後棄却ス可シ
- 第二十條 豫備後備下士卒及歸休兵中疾病傷殘等ニテ永久服役ニ堪ヘサル官屆出ル者アルトキハ大隊區司令官共事實ヲ審覈シ相違ナシト認ムルモノハ旅團長ヲ經テ師團長ニ上申シ兵役免除ノ處分ヲ請フ可シ但疑ニ涉ルモノハ簡閱點呼ノ際實査セシメ然ル後本條ノ手續ヲ爲ス可シ
- 第二十一條 徵兵事務條例第五十三條又ハ第六十八條ニ依リ徵集延期若クハ現役免除ヲ願出ル者アルトキハ大隊區司令官共事實ヲ審覈シ狀況書ヲ作り旅團長ニ上申ス可シ但時宜ニ由リ副官若クハ監視區長ヲ差遣シ實地ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得
- 第二十二條 豫備後備下士卒中止ムヲ得サル事情アリテ勤務演習若クハ簡閱點呼免除ヲ願出ルモノアルトキハ其事實ヲ審覈シ相違ナシト認ムルモノハ其許可狀一様式ヲ附與ス可シ
- 第二十三條 豫備後備下士卒及歸休兵ノ願屆書ハ總テ一通ヲ出シシテ其指令ヲ與フ可キ者ハ別ニ其要領ヲ記シタル書面ニ附録シ司令部ノ署名押印ヲ爲シ本人ニ交附ス可シ
- 第二十四條 豫備後備下士卒及歸休兵ヨリ差出ス願屆書ニシテ市町村長ノ與書證印ヲ要セス若ク

明治二十二年九月 達 海軍省第三百二十九號 第三百三十號 第三百三十一號 第三百三十二號
第三百三十三號 第三百三十四號

ハ之ヲ經由セシムルモノハ成ル可ク郵便船ヲ以テ差出シム可シ
(附錄第一及第二様式略ス)

○海軍省達第三百二十九號

鎮守府司令長官陸上ニ共旌章ヲ掲クルトキハ其官ヲ區別スル爲メ將官脚船旗ノ例ニ依リ小球ヲ加フヘシ

明治二十二年九月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第三百三十號

横須賀鎮守府所轄東京石炭庫及横濱石炭庫ヲ廢ス

明治二十二年九月二日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第三百三十一號

明治二十一年四月達第二十一號艦船經營經費決算證書式中證書第三號野ノ旅行日記ヲ別紙ノ通り改正ス (別紙略ス)

明治二十二年九月三日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第三百三十二號

本年七月達第二百四十六號中海軍軍人軍屬在監中ノ食料ハラニ在監人ニハト改ム

明治二十二年九月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第三百三十三號

本年七月達第二百五十六號軍砲兵配置表中濠洲ノ欄十四人ヲ二十六人ト改ム

明治二十二年九月四日

海軍大臣伯爵西郷從道

○海軍省達第三百三十四號

海軍内國旅費規則第二號甲表中長崎竹敷間ノ欄ヲ刪除シ長崎原間ノ欄ヲ左ノ通改正ス

明治二十二年九月四日

長崎原間	一五九〇	一一七〇	九五〇	六三〇	四二〇
------	------	------	-----	-----	-----

海軍大臣伯爵西郷從道

○宮内省達第十六號

御料局支屬職制ヲ定ムルコト左ノ如シ

明治二十二年九月六日

宮内大臣子爵土方久元

奉 勅

御料局支屬職制

第一條 御料財産ヲ管理スル爲メ須要ノ地ニ御料局支屬ヲ置キ支屬ノ下ニ出張所ヲ置ク其位置並ニ管轄區域ハ宮内大臣之ヲ定ムヘシ

第二條 御料局支屬ニ左ノ職員ヲ在勤セシム

- 理事
- 技師
- 厨
- 技手
- 技手補
- 監守

第三條 支屬管内廣濶ナルトキハ監督ヲ置キ技師屬又ハ技手ヲ以テ之ニ充テ出張所其他ノ業務ヲ監督ス

第四條 支屬長ハ御料局長ノ命ヲ承ケ其部内ノ財産及一切ノ業務ヲ掌理シ所轄官吏ヲ監督ス

明治二十二年九月 達 宮内省第十六號

- 第五條 技師屬技手技手補助守ハ各共主務ニ從事ス
- 第六條 出張所長ハ屬又ハ技手技手補助ヲ以テ之ニ充ツ
- 第七條 支廳及出張所ノ處務規程ハ宮内大臣之ヲ定ム
- 第八條 支廳ノ會計ハ其業務ノ都合ニヨリ御料局長ニ於テ宮内大臣ノ認可ヲ經テ特別會計規則ニ據ルコトヲ得其規則ハ宮内大臣之ヲ定ムヘン
- 第九條 支廳長ハ業務ノ都合ニヨリ特ニ備員ヲ置クコトヲ得

○海軍省選第三百三十五號

海軍通常物品會計規程左ノ通定ム

明治二十二年九月六日

海軍大臣伯爵西郷從道

海軍通常物品會計規程

- 第一條 海軍通常物品トハ物品會計規則ニ依リ取扱フヘキモノヲ云フ其種類ハ左ノ如シ
 - 一、 購費ヲ以テ購買セル器具物品動物
 - 二、 學生費ヲ以テ購買セル器具物品
 - 三、 囚徒費ヲ以テ購買セル器具物品
 - 四、 營繕費並土木費ヲ以テ購買セル材料物品
 - 五、 興業費ヲ以テ購買セル器具器械材料物品
- 第二條 海軍通常物品ハ分テ備品消耗品動物ノ三種トス其類別ノ法ハ概ネ第一表ニ依ル
- 第三條 備品ノ定備數豫備數消耗品ノ年額ハ各廳長之ヲ定メ認可ヲ受クヘン但豫備數ハ必要ナルモノニ限り之ヲ置ク其數ハ定數ノ十分ノ一ヲ以テ定限トス
- 第四條 臨時須要ノ物品ニシテ數額ヲ定メ難キモノハ豫算金額内ニテ支辨シ得ルモノニ限り各廳長便宜之ヲ購入スルヲ得

第五條 備品ハ各廳長ニ於テ保存期限ヲ定メ物品會計官吏ヲシテ之ヲ現品ニ明記セシムヘン但物品ノ性質ニ依リ保存期限ヲ現品ニ明記シ難キモノハ之ヲ原簿ニ記入セシムヘン又保存期限ヲ定メ難キモノハ其旨ヲ原簿ニ記入セシムヘン

第六條 保存期限ヲ經過スルモ尙ホ使用ニ堪フヘキ物品ハ各廳長更ニ保存期限ヲ定メ之ヲ現品又ハ原簿ニ記入セシムヘン

第七條 物品出納ノ命令官及物品會計官吏ハ左ノ如シ

國	名	物品出納命令官	次等命令官	物品會計官吏
水	海軍省	會計局長	會計局第二課長	會計局第二課員ノ中 文庫關係ノ中
大	大府	主計部長	主計部材料課長	*倉庫主管 主計部監獄課員ノ中
兵	兵部	次長	主計部長	主計關係ノ中 建築部員ノ中
中	中央衛生會	次長	主任事務員	*會計主務 會計關係ノ中
火	火部	長	會計課長	*倉庫課長 會計關係ノ中
水	水路	長	會計課長	*計算課長 會計關係ノ中
小	小野渡造船所	所長		*主計關係ノ中
中	中央文庫	所長		*主計關係ノ中
所	所	所長		*主計關係ノ中

備考 物品會計官吏中*印ノ職員ニハ別ニ辭令書ヲ付與セシム其他ノ辭令書ヲ付與ス